

アフターコロナを見据えた 少子化対策等のための未婚者の実態調査

～国内6,074人のアンケート調査より未婚パターンを明らかに～

2022.8.25

株式会社日本総合研究所
リサーチ・コンサルティング部門・未来社会価値研究所
調査協力：株式会社エウレカ

目次

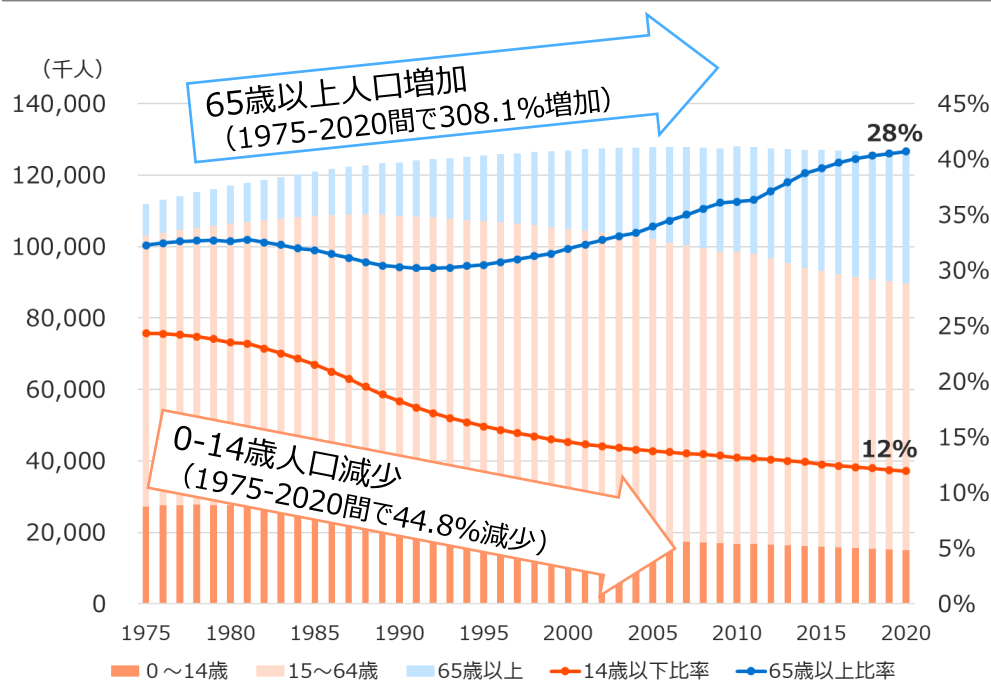
1. 調査分析の背景と概要	2
2. 調査結果	12
2-1. 未婚パターン	13
2-2. 詳細①（非婚・結婚したくない層）	19
2-3. 詳細②（未婚・活動していない/できていない層）	38
2-4. 詳細③（未婚・活動中層）	99
2-5. 婚活・恋活に関するケースコントロール研究	112
3. 本報告のまとめと政策への期待	117
お問い合わせ先等	120

1. 調査分析の背景と概要

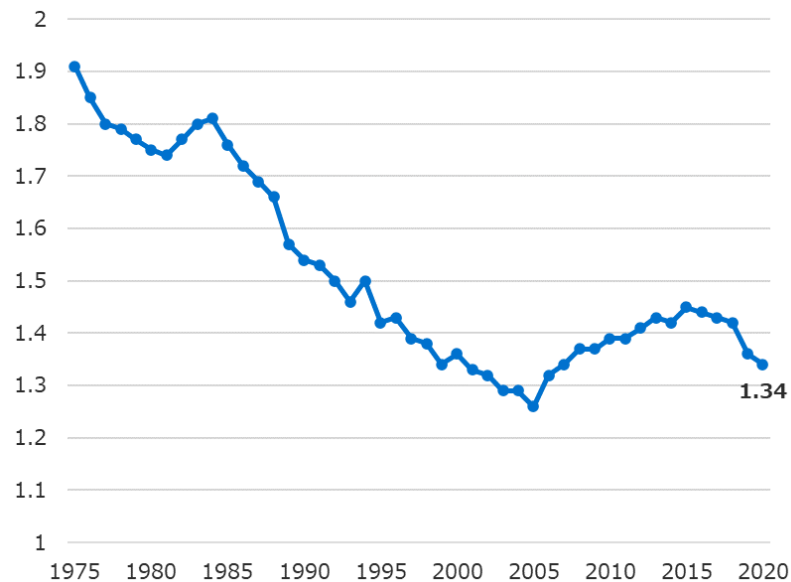
背景（年齢別人口と合計特殊出生率）

- 近年、年齢別人口の推移から、少子化および高齢化の進展の速度は増しているものと考えられる。
- 特に少子化については、0-14歳人口は45年間で44.8%減少している他、合計特殊出生率も2020年には1.34となっており、新型コロナウイルスの影響も相まって急速な悪化が見られる。人口の維持の観点から、力強い対応が求められている。

日本全体の年齢別人口及び65歳以上人口比率



日本全体の合計特殊出生率

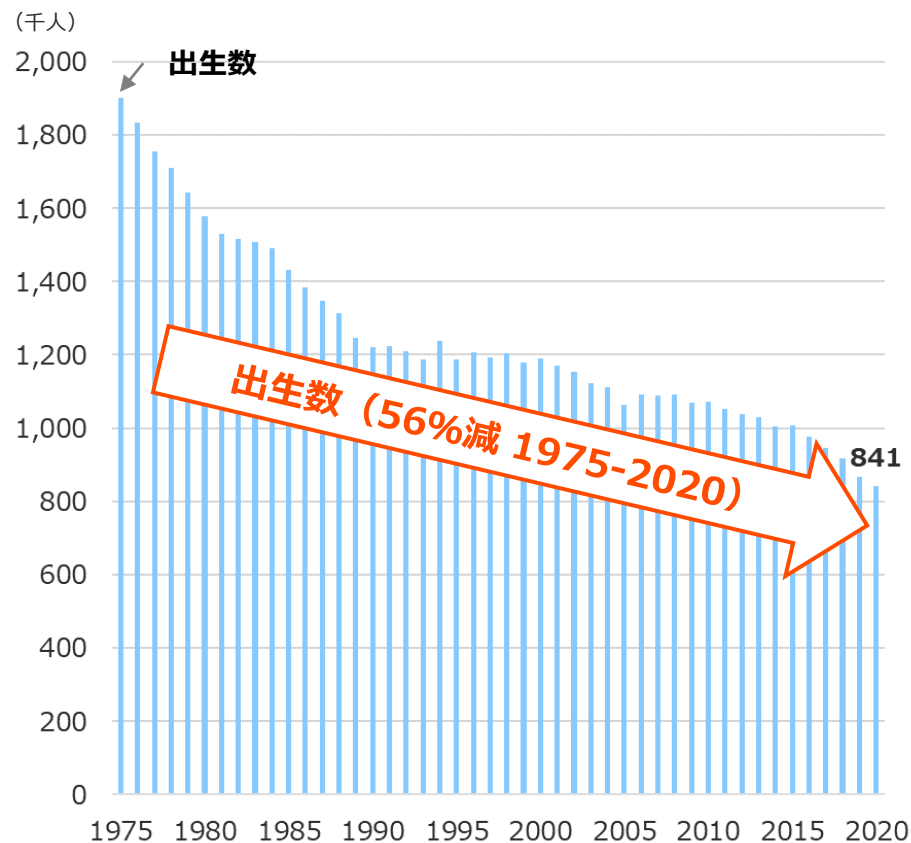
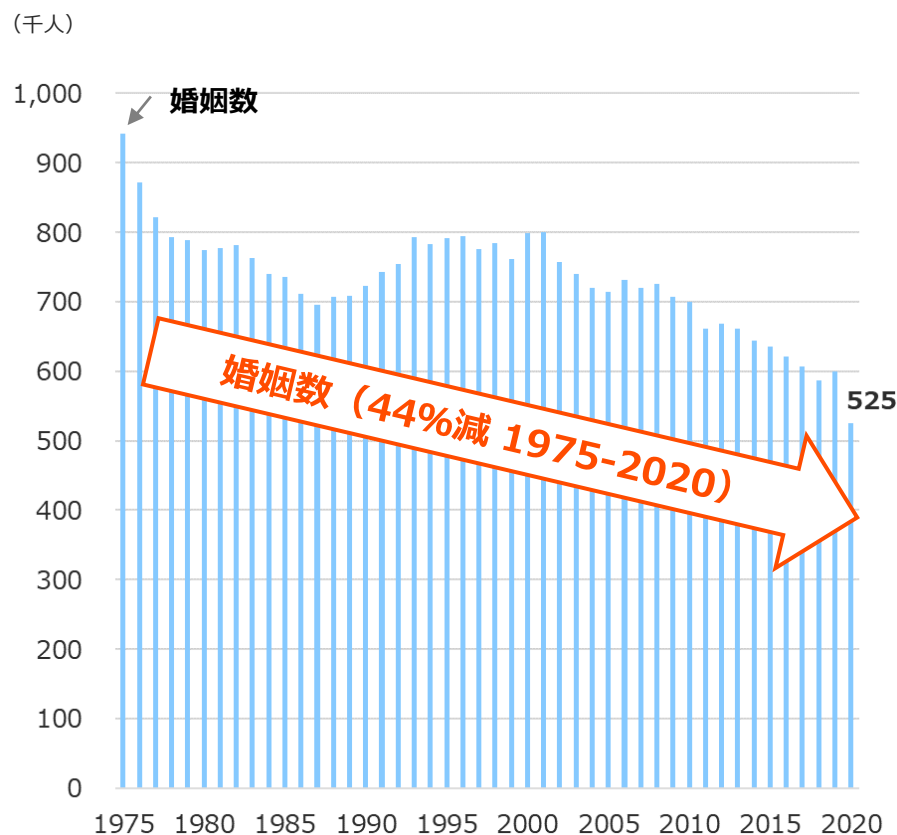


(出所) 国勢調査、人口動態統計を基に日本総研作成

背景（出生数と婚姻数・有配偶との関係性）

- 1975年以降、増減はあるものの婚姻数・出生数ともに大きく減少してきている。

婚姻数及び出生数の動向

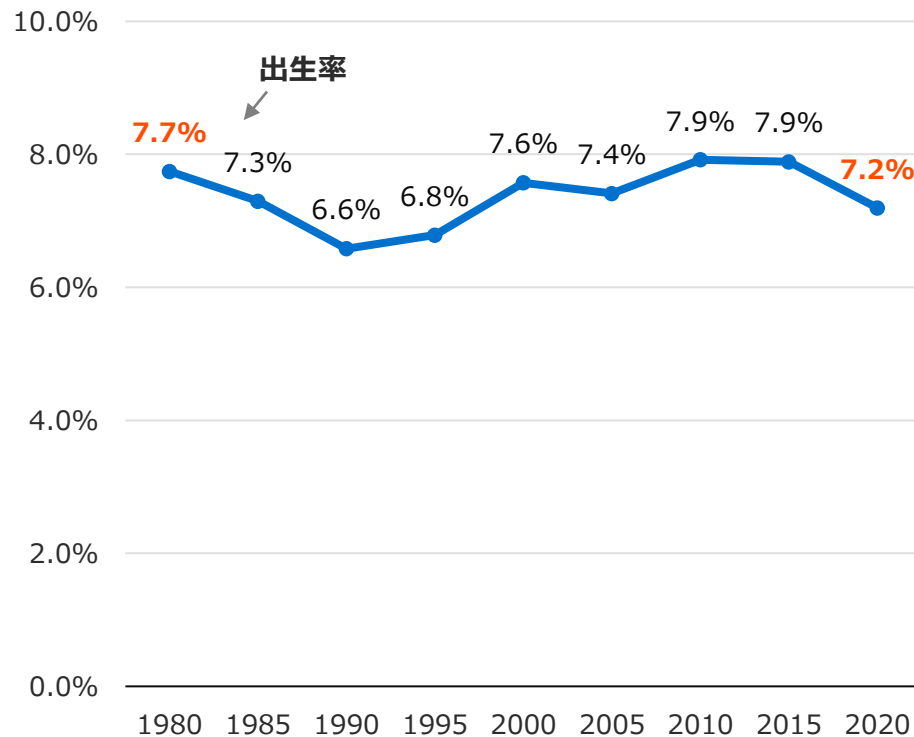
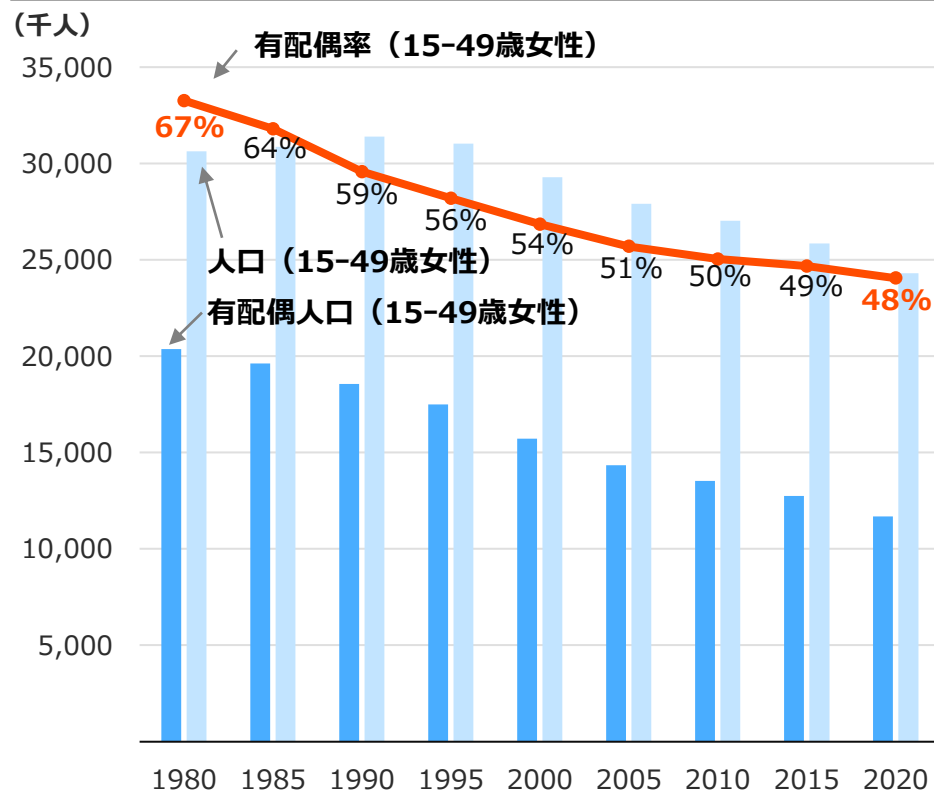


(出所) 人口動態統計を基に日本総研作成

背景（出生数と婚姻数・有配偶との関係性）

- 1980年以降、出生数と共に有配偶率が大きく減少している一方、有配偶出生率の水準は維持。
- 有配偶率の低下（婚姻数の低下）が大きな要因の一つとなっており、これらの実態把握や対策の検討が必要。

出生数と婚姻数・有配偶関連の指標



※ 15-49歳女性有配偶出生率=「15-49歳女性出生数」÷「15-49歳女性有配偶人口」

(注) 右図の「15-49歳女性有配偶出生率」は、出生数（母の年齢15-49歳）（厚生労働省「人口動態統計」）を15-49歳女性の有配偶人口（総務省「国勢調査」）で割った値。異なる2つの統計を組み合わせて算出していることに留意が必要。



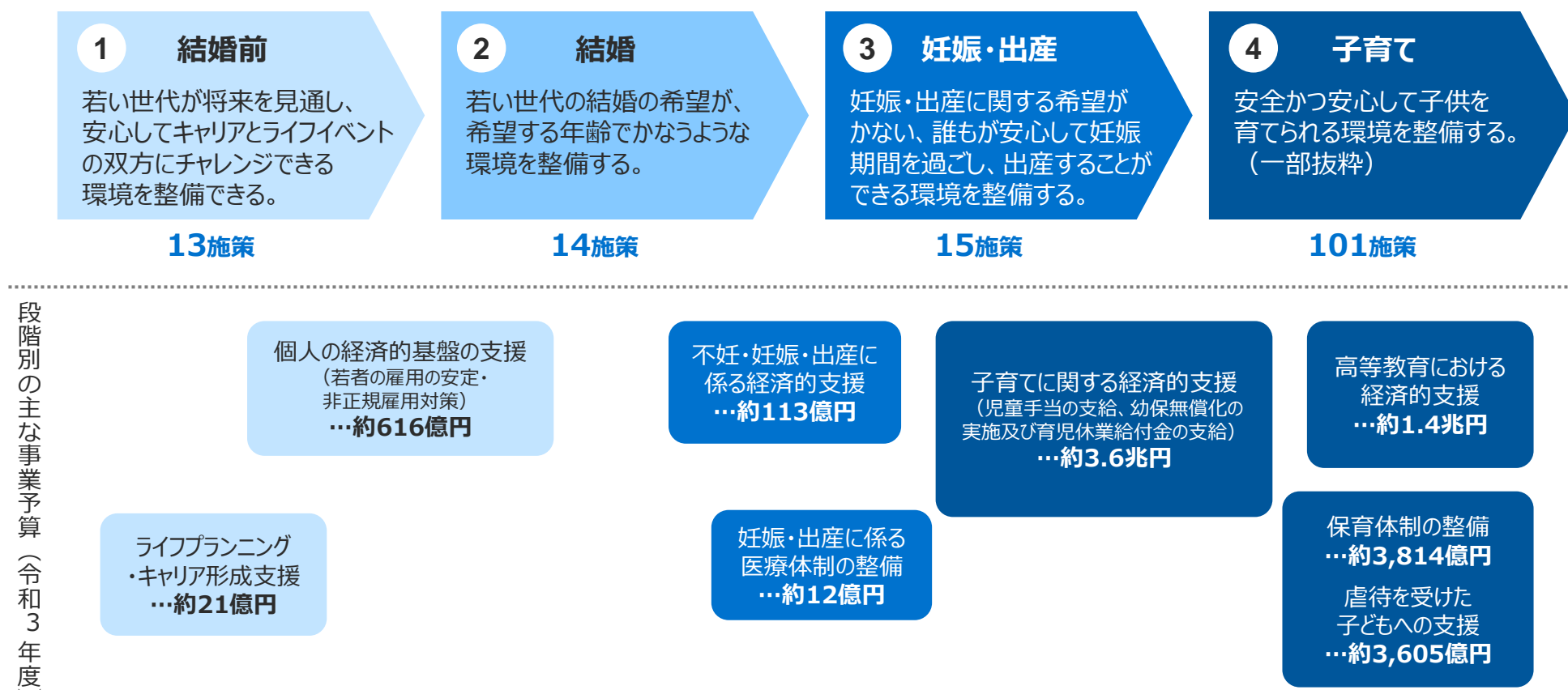
合計特殊出生率の改善に向けて、婚姻数を増やす対策が肝要と考えられる。
…その手がかりをつかむため、今回、未婚者・既婚者の結婚に対する意識調査および分析を実施。

(出所) 左図は総務省「国勢調査」、右図は総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態統計」を基に日本総研作成。

(参考) 政府による既存の結婚支援政策、妊娠・出産支援について

- 内閣府が作成している「少子化対策大綱」（令和2年5月29日閣議決定）において、各省庁の取組がまとめられている。施策は①結婚前、②結婚、③妊娠・出産、④子育てと繋がりのある4つの段階ごとに整理されているが、施策数及び予算額いずれも、④子育てに関する施策が多くを占めている。
- ①結婚前、②結婚に関する施策展開をするうえで基礎となる情報が必要不可欠。

少子化対策大綱におけるライフステージの各段階の政策



（出所）内閣府「少子化対策大綱」を基に日本総研作成

調査概要

- 調査概要は以下の通り。

項目	内容																																							
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> インターネット調査（スクリーニング調査を行った上で、本調査を実施） 																																							
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 調査会社のインターネットモニター（20～49歳の男女） 																																							
抽出方法	<ul style="list-style-type: none"> 上記対象者から下記割付を設定のうえ無作為抽出 																																							
回収サンプル	<ul style="list-style-type: none"> 全国で性・年齢（20-49歳の5歳階級）・未婚/有配偶の別で均等割り付け 実際の回収数は以下の通り（男性・20～24歳・有配偶は数が少ないため、回収サンプルが少ない） 																																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">合計</th> <th colspan="2">男性</th> <th colspan="2">女性</th> </tr> <tr> <th>未婚</th> <th>有配偶</th> <th>未婚</th> <th>有配偶</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20-24歳</td> <td>263</td> <td>26</td> <td>259</td> <td>257</td> </tr> <tr> <td>25-29歳</td> <td>256</td> <td>260</td> <td>263</td> <td>260</td> </tr> <tr> <td>30-34歳</td> <td>260</td> <td>269</td> <td>258</td> <td>267</td> </tr> <tr> <td>35-39歳</td> <td>261</td> <td>271</td> <td>262</td> <td>266</td> </tr> <tr> <td>40-44歳</td> <td>257</td> <td>273</td> <td>263</td> <td>270</td> </tr> <tr> <td>45-49歳</td> <td>254</td> <td>271</td> <td>259</td> <td>269</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 分析時は、母集団の人口比率（参照：総務省「国勢調査（2015年）」）に基づくウェイトバックを行い集計（下記、右表のウェイトバック値を利用） 	合計	男性		女性		未婚	有配偶	未婚	有配偶	20-24歳	263	26	259	257	25-29歳	256	260	263	260	30-34歳	260	269	258	267	35-39歳	261	271	262	266	40-44歳	257	273	263	270	45-49歳	254	271	259	269
合計	男性		女性																																					
	未婚	有配偶	未婚	有配偶																																				
20-24歳	263	26	259	257																																				
25-29歳	256	260	263	260																																				
30-34歳	260	269	258	267																																				
35-39歳	261	271	262	266																																				
40-44歳	257	273	263	270																																				
45-49歳	254	271	259	269																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">母集団人口（人）</th> <th colspan="2">男性</th> <th colspan="2">女性</th> </tr> <tr> <th>未婚</th> <th>有配偶</th> <th>未婚</th> <th>有配偶</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20-24歳</td> <td>2,755,989</td> <td>137,890</td> <td>2,572,112</td> <td>224,043</td> </tr> <tr> <td>25-29歳</td> <td>2,222,616</td> <td>804,558</td> <td>1,852,959</td> <td>1,096,784</td> </tr> <tr> <td>30-34歳</td> <td>1,648,679</td> <td>1,779,339</td> <td>1,211,351</td> <td>2,134,029</td> </tr> <tr> <td>35-39歳</td> <td>1,416,172</td> <td>2,496,236</td> <td>959,761</td> <td>2,806,343</td> </tr> <tr> <td>40-44歳</td> <td>1,423,716</td> <td>3,109,270</td> <td>913,188</td> <td>3,395,079</td> </tr> <tr> <td>45-49歳</td> <td>1,092,022</td> <td>2,867,235</td> <td>683,887</td> <td>3,078,307</td> </tr> </tbody> </table>	母集団人口（人）	男性		女性		未婚	有配偶	未婚	有配偶	20-24歳	2,755,989	137,890	2,572,112	224,043	25-29歳	2,222,616	804,558	1,852,959	1,096,784	30-34歳	1,648,679	1,779,339	1,211,351	2,134,029	35-39歳	1,416,172	2,496,236	959,761	2,806,343	40-44歳	1,423,716	3,109,270	913,188	3,395,079	45-49歳	1,092,022	2,867,235	683,887	3,078,307
母集団人口（人）	男性		女性																																					
	未婚	有配偶	未婚	有配偶																																				
20-24歳	2,755,989	137,890	2,572,112	224,043																																				
25-29歳	2,222,616	804,558	1,852,959	1,096,784																																				
30-34歳	1,648,679	1,779,339	1,211,351	2,134,029																																				
35-39歳	1,416,172	2,496,236	959,761	2,806,343																																				
40-44歳	1,423,716	3,109,270	913,188	3,395,079																																				
45-49歳	1,092,022	2,867,235	683,887	3,078,307																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ウェイトバック値</th> <th colspan="2">男性</th> <th colspan="2">女性</th> </tr> <tr> <th>未婚</th> <th>有配偶</th> <th>未婚</th> <th>有配偶</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20-24歳</td> <td>1.49</td> <td>0.75</td> <td>1.41</td> <td>0.12</td> </tr> <tr> <td>25-29歳</td> <td>1.24</td> <td>0.44</td> <td>1.00</td> <td>0.60</td> </tr> <tr> <td>30-34歳</td> <td>0.90</td> <td>0.94</td> <td>0.67</td> <td>1.14</td> </tr> <tr> <td>35-39歳</td> <td>0.77</td> <td>1.31</td> <td>0.52</td> <td>1.50</td> </tr> <tr> <td>40-44歳</td> <td>0.79</td> <td>1.62</td> <td>0.49</td> <td>1.79</td> </tr> <tr> <td>45-49歳</td> <td>0.61</td> <td>1.51</td> <td>0.38</td> <td>1.63</td> </tr> </tbody> </table>	ウェイトバック値	男性		女性		未婚	有配偶	未婚	有配偶	20-24歳	1.49	0.75	1.41	0.12	25-29歳	1.24	0.44	1.00	0.60	30-34歳	0.90	0.94	0.67	1.14	35-39歳	0.77	1.31	0.52	1.50	40-44歳	0.79	1.62	0.49	1.79	45-49歳	0.61	1.51	0.38	1.63
ウェイトバック値	男性		女性																																					
	未婚	有配偶	未婚	有配偶																																				
20-24歳	1.49	0.75	1.41	0.12																																				
25-29歳	1.24	0.44	1.00	0.60																																				
30-34歳	0.90	0.94	0.67	1.14																																				
35-39歳	0.77	1.31	0.52	1.50																																				
40-44歳	0.79	1.62	0.49	1.79																																				
45-49歳	0.61	1.51	0.38	1.63																																				

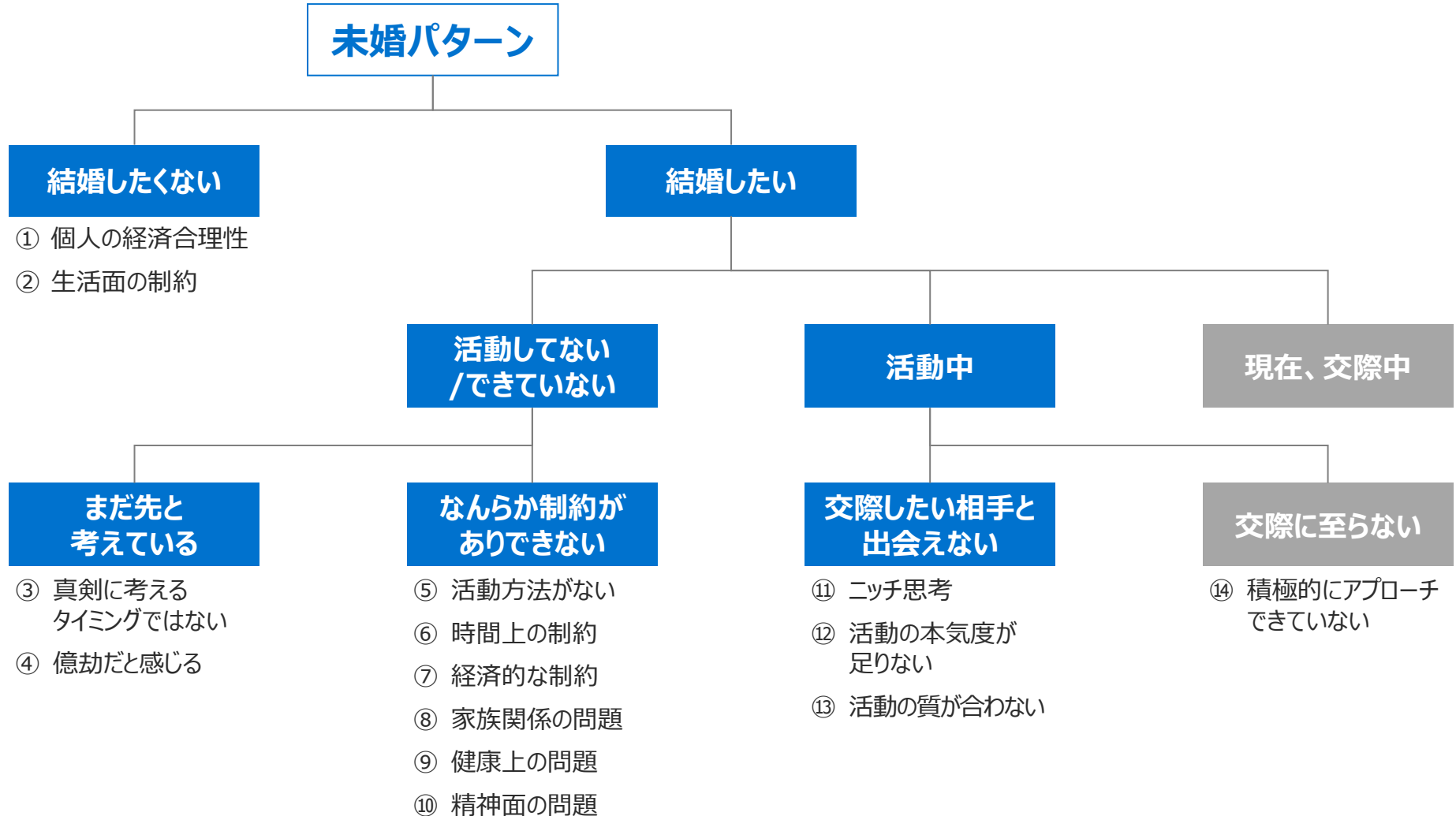
調査設計

- 過去から未婚・非婚の要因に関する調査研究は数多く行われているが、その要因が様々絡み合っており課題解決に向けたアプローチがしづらい。本調査では、「未婚パターン」（次頁参照）を整理したうえで、回答者がいずれかの未婚パターンに当てはまるような設問を設計。これにより**未婚者の主たる未婚理由を特定し、どの要因の影響が大きくなっているかを把握することを主な目的**とし、未婚パターンごとにそこに陥る人の特徴を整理した。
- その他、本報告の対象外とするが結婚に関する文化的な側面等の幸福度及び行動特性に関してもデータを取得。これらを用いた分析については別途報告する。

未婚者	既婚者
<p>本報告の対象</p> <p>主なリサーチクエスチョン</p> <ul style="list-style-type: none">• どういった「<u>未婚パターン</u>」に陥っている層が多いのか• どの属性の人が、どの「<u>未婚パターン</u>」に当てはまっているのか• 未婚者はどのような婚活をしているか（意識、活動実態等）• 幸福度に影響を及ぼす要因は何か（未既婚、経済状況等）	<p>主なリサーチクエスチョン</p> <ul style="list-style-type: none">• 既婚者はどのような婚活をしていたか（意識、活動実態等）• 幸福度に影響を及ぼす要因は何か（未既婚、経済状況等）
1. 共通の基礎情報 （各種基礎属性、就労状況、経済状況、生活実態等）	
2. 幸福度と行動特性 （リスク回避度、自己肯定意識等）	
3. 未婚者の基礎情報 （居住形態、コミュニケーション、ODS認知 等）	5. 既婚者の基礎情報 （家庭状況、コミュニケーション 等）
4. 未婚者の交際・婚活状況 （交際経験・意欲、結婚意欲、婚活実態、結婚相手に求めるもの 等）	6. 既婚者の当時の交際・婚活状況 （交際経験、当時の婚活実態 等）

(参考) 未婚パターン

- 未婚者（交際中除く）が未婚である理由を、下記14パターンに整理。
- このいずれかの未婚パターンにどの程度の割合が陥っているかを明らかにすることを調査の主目的とした。



(参考) アンケート項目一覧_未婚者調査

- Q1 性
Q2 年齢 (NA)
Q3 結婚経験
Q4 居住都道府県
Q6 最終学歴
Q7 現在の所属 雇用形態
Q8 現在の所属 会社規模
Q9 現在の所属 会社属性
Q10 現在の所属 職種
Q11 経済面 個人の昨年 (令和2年) の年収
Q12 経済面 個人の貯金額
Q13 生活実態 勤務時間① (1日あたり平均勤務時間)
Q14 生活実態 勤務時間② (週あたり平均勤務日数)
Q15 生活実態 休日
Q16 趣味 トータルで趣味に費やす時間
Q17 趣味 うち友人等と過ごす時間
Q18 新型コロナウイルス感染拡大による変化
Q19 幸福度
Q20 Risk Aversion Measure (リスク回避度)
Q21 PNS (一次元) ※Personal Need for Structure
Q22 自己肯定意識
Q23 特性的自己効力感 (Generalized Self-Efficacy)
Q24 【未婚】居住形態
Q25 【未婚】結婚後の居住地域について① (実家ベース) (MA)
Q26 【未婚】結婚後の居住地域について② (都市/地方) (MA)
Q27 【未婚】オンラインコミュニケーションに関して オンラインコミュニケーション全般について
Q28 【未婚】オンラインコミュニケーションに関して オンラインコミュニケーションを用いた
交際・結婚
Q29 【未婚】マッチングアプリに関する基礎調査 マッチングアプリの認知
Q30 【未婚】マッチングアプリに関する基礎調査【分岐】マッチングアプリの未利用の
理由 (MA)
Q31 【未婚】交際経験 時期
Q32 【未婚】交際経験【分岐】交際相手との出会いのきっかけ
Q33 【未婚】交際経験【分岐】使用アプリ
Q34 【未婚】交際経験【分岐】人数
Q35 【未婚】異性とのコミュニケーション① (全般)
Q36 【未婚】異性とのコミュニケーション② (交際対象)
Q37 【未婚】交際意欲 有無
Q38 【未婚】交際意欲【分岐】意欲のない理由
Q39 【未婚】結婚意欲 有無
Q40 【未婚】結婚相手に求めるもの 年齢 (NA)
Q41 【未婚】結婚相手に求めるもの 学歴 (MA)
Q42 【未婚】結婚相手に求めるもの 居住形態 (MA)
Q43 【未婚】結婚相手に求めるもの 結婚後の居住形態① (実家ベース)
(MA)
Q44 【未婚】結婚相手に求めるもの 結婚後の居住形態② (都市/地方)
Q45 【未婚】結婚相手に求めるもの 現在の所属 雇用形態 (MA)
Q46 【未婚】結婚相手に求めるもの 現在の所属 会社規模 (MA)
Q47 【未婚】結婚相手に求めるもの 現在の所属 会社属性 (MA)
Q48 【未婚】結婚相手に求めるもの 現在の所属 職種 (MA)
Q49 【未婚】結婚相手に求めるもの 経済面 年収 (MA)
Q50 【未婚】結婚相手に求めるもの 経済面 貯金額 (MA)
Q51 【未婚】結婚相手に求めるもの 子どもへの意欲
Q52 【未婚】結婚意欲【分岐】意欲のない理由
Q53 【未婚】子どもへの意欲
Q54 【未婚】(活動実態)【分岐】結婚・交際意欲がある人の活動実施の有無
／種類
Q55 【未婚】(活動実態)【分岐】マッチングアプリのブランド
Q56 【未婚】(活動実態)【分岐】本気度
Q57 【未婚】(活動実態)【分岐】成果
Q58 【未婚】(活動実態)【分岐】アプローチ
Q59 【未婚】(活動実態)【分岐】活動無し理由 (MA)

※詳細な設問は別添資料を参照

(参考) アンケート項目一覧_既婚者調査

- Q1 性
- Q2 年齢 (NA)
- Q3 結婚経験
- Q4 居住都道府県
- Q6 最終学歴
- Q7 現在の所属 雇用形態
- Q8 現在の所属 会社規模
- Q9 現在の所属 会社属性
- Q10 現在の所属 職種
- Q11 経済面 個人の昨年 (令和2年) の年収
- Q12 経済面 個人の貯金額
- Q13 生活実態 勤務時間① (1日あたり平均勤務時間)
- Q14 生活実態 勤務時間② (週あたり平均勤務日数)
- Q15 生活実態 休日
- Q16 趣味 トータルで趣味に費やす時間
- Q17 趣味 うち友人等と過ごす時間
- Q18 新型コロナウイルス感染拡大による変化
- Q19 幸福度
- Q20 Risk Aversion Measure (リスク回避度)
- Q21 PNS (一次元) ※Personal Need for Structure
- Q22 自己肯定意識
- Q23 特性的自己効力感 (Generalized Self-Efficacy)
- Q60 【既婚】家族構成
- Q61 【既婚】子どもの人数【分岐】現在の子ども的人数 (NA)
- Q62 【既婚】子どもの有無および意欲 理想的な子どもの数 (NA)
- Q63 【既婚】家庭 家族との時間
- Q64 【既婚】パートナーとの円満度
- Q65 【既婚】オンラインコミュニケーション全般について
- Q66 【既婚】交際経験 結婚時期
- Q67 【既婚】交際経験 交際期間
- Q68 【既婚】交際経験 交際人数
- Q69 【既婚】異性とのコミュニケーション① (全般)
- Q70 【既婚】異性とのコミュニケーション② (交際対象)
- Q71 【既婚】(活動実態) 【分岐】活動実施の有無/種類
- Q72 【既婚】(活動実態) 【分岐】マッチングアプリのブランド
- Q73 【既婚】(活動実態) 【分岐】本気度
- Q74 【既婚】(活動実態) 【分岐】成果
- Q75 【既婚】(活動実態) 【分岐】アプローチ
- Q76 【既婚】(活動実態) 【分岐】パートナーとの出会いのきっかけ
- Q77 【既婚】(活動実態) 【分岐】婚活を実施していない場合のパートナーとの出会いの時期

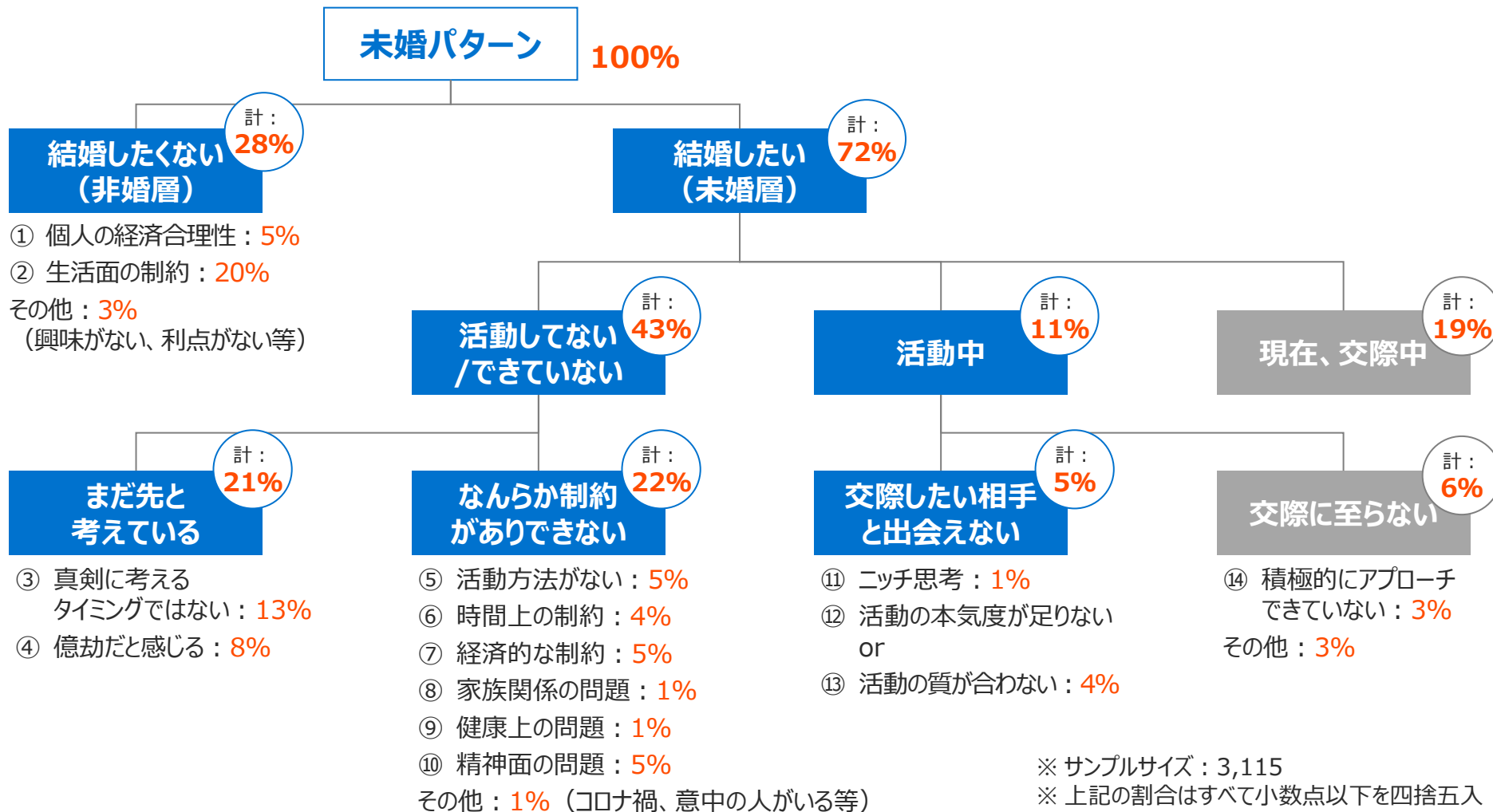
2. 調査結果

2-1 : 未婚パターン

未婚パターンの分析結果

1) 未婚者全体

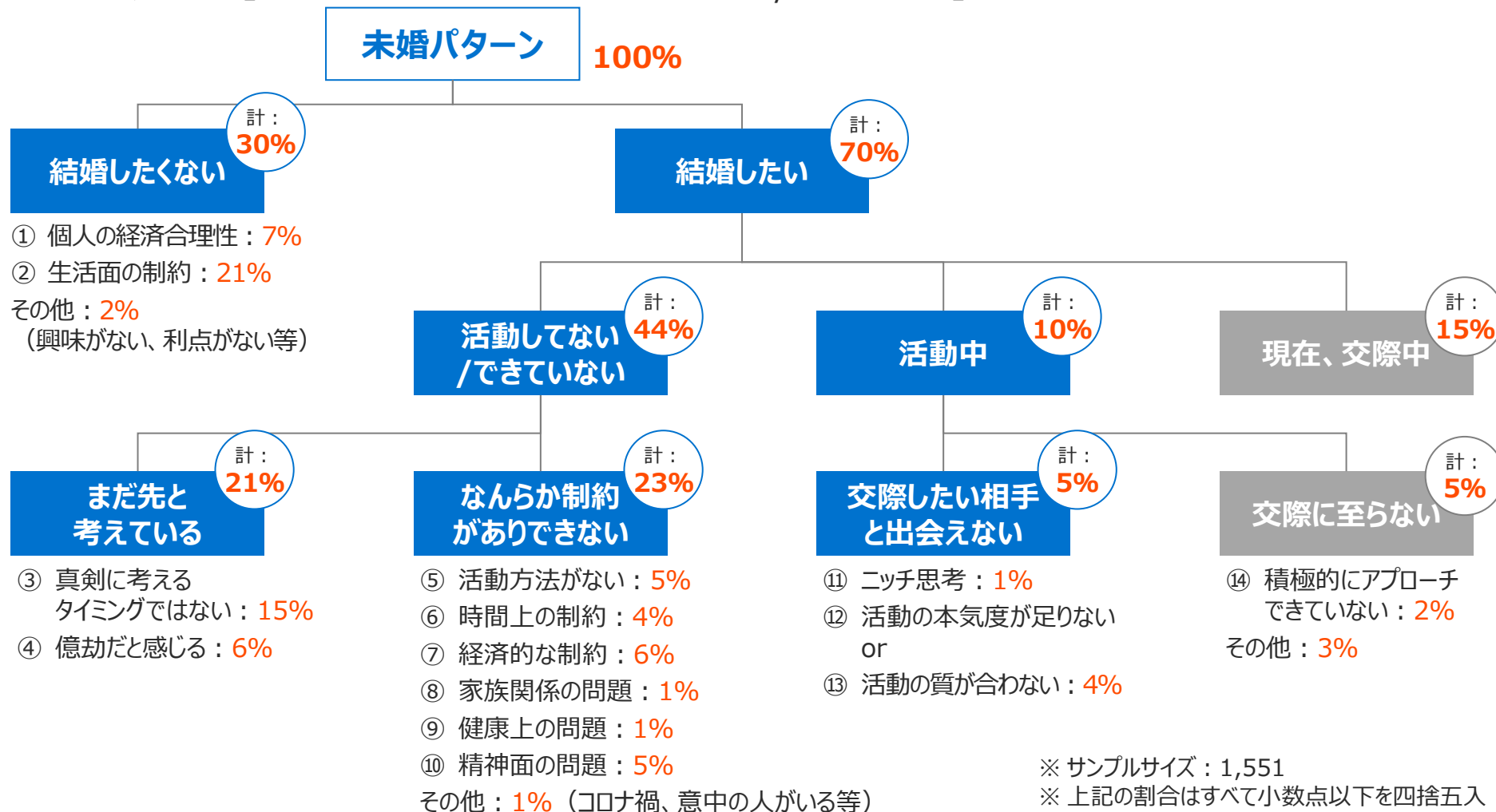
- 未婚者全体で未婚パターン比率を整理した結果は下記の通り。「結婚したくない」と回答している割合は28%、「結婚したい」と回答していた72%の内訳として「活動してない/できていない」と回答している割合は43%とボリュームが多いことが明らかとなった。婚姻数等の改善に向けてはこれらの層別に施策を検討する必要がある。



未婚パターンの分析結果

2) 未婚者・男性

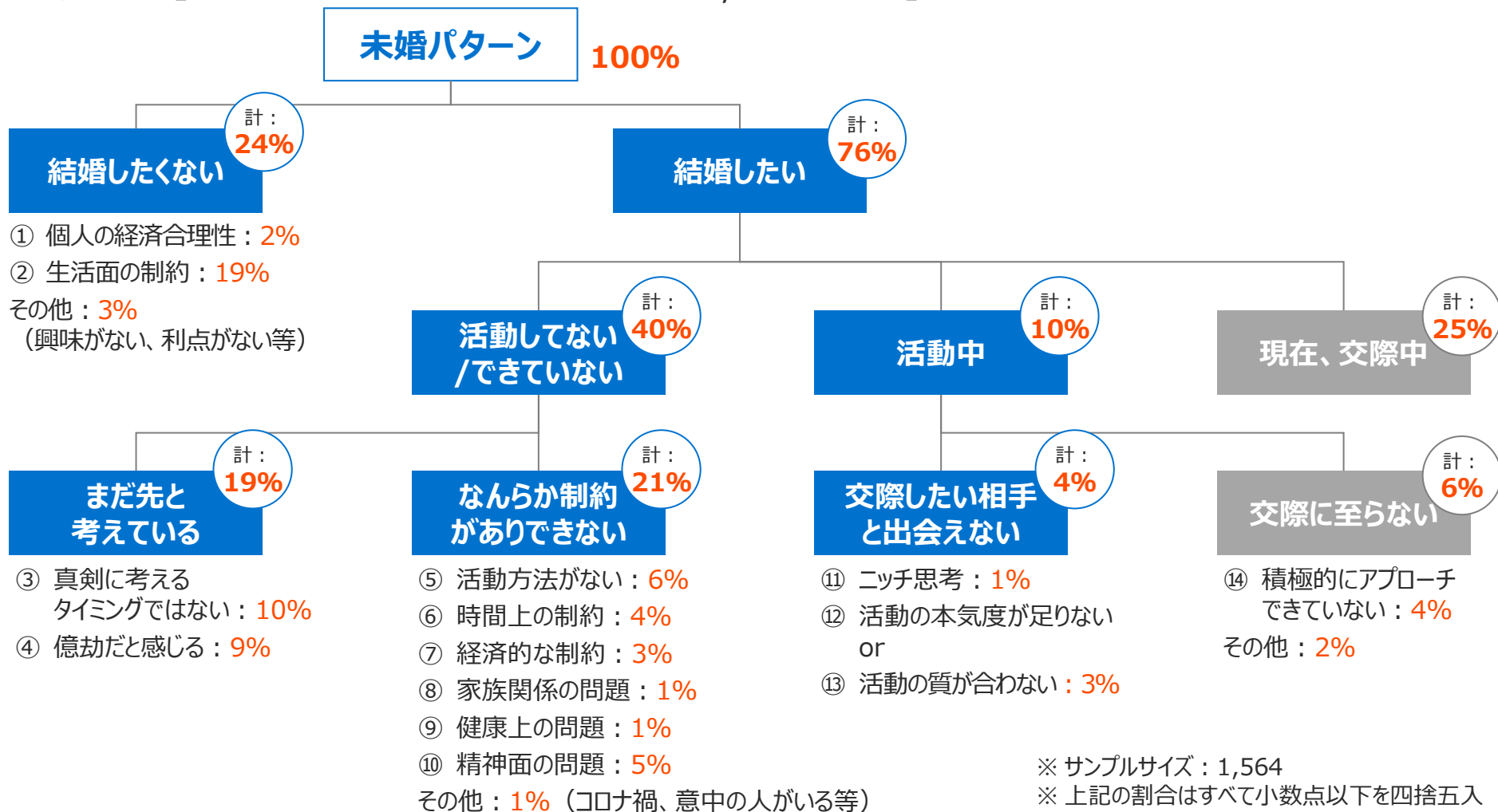
- 未婚者全体のうち、男性について未婚パターン比率を整理した結果は下記の通り。
- 「結婚したくない」と回答している割合は30%となっており、未婚者全体と比較して相対的に高水準であるといえる。また、「結婚したい」と回答している割合のうち「活動していない/できていない」と回答している割合は44%となっている。



※ サンプルサイズ: 1,551

※ 上記の割合はすべて小数点以下を四捨五入

- 未婚者全体のうち、女性について未婚パターン比率を整理した結果は下記の通り。
- 「結婚したくない」と回答している割合は24%と、未婚者全体と比較して相対的に少ない結果となった。また、「結婚したい」と回答している割合のうち「活動していない/できていない」と回答している割合は40%となっている。



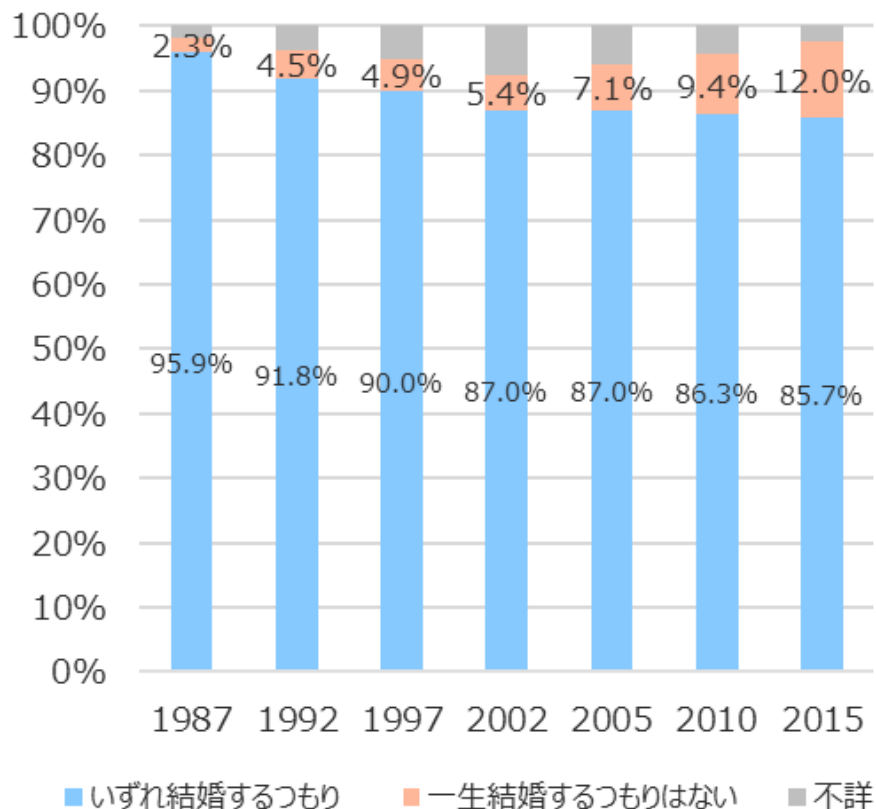
※ サンプルサイズ: 1,564

※ 上記の割合はすべて小数点以下を四捨五入

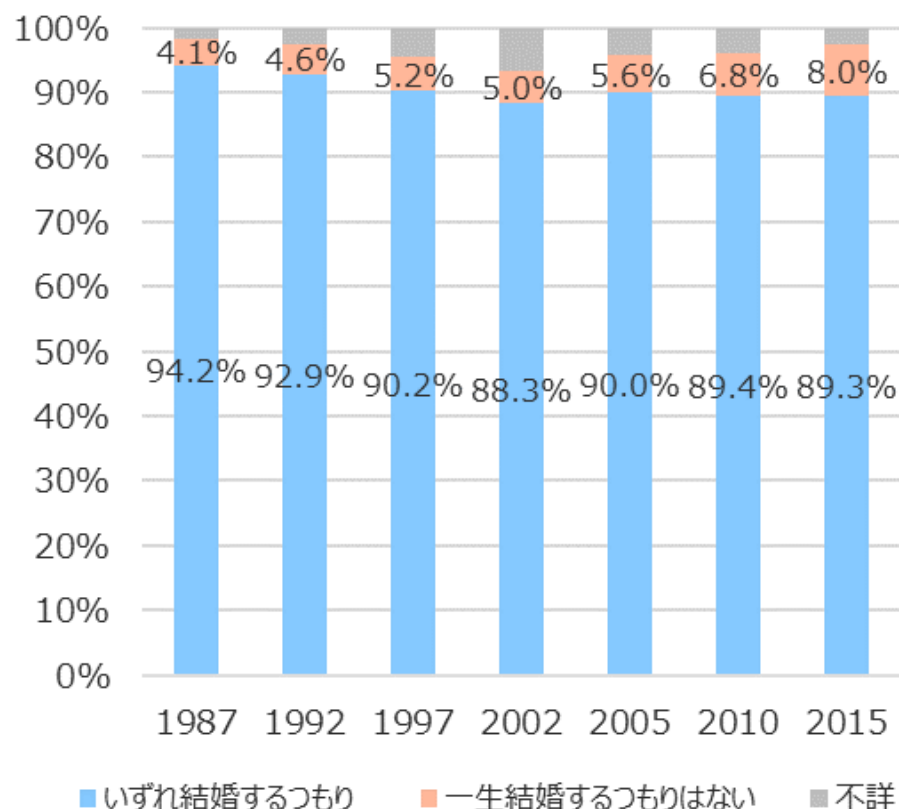
(参考) 出生動向基本調査における結婚意欲

- 厚生労働省が実施する出生動向基本調査における結婚意欲に関する回答結果は以下の通り。
- 一生結婚するつもりはないを選択する割合が男女ともに増えており、本調査結果を併せてみることで近年もその増加傾向がとどまっていない可能性が高いと考えられる。

18-34歳の未婚者の結婚意欲の推移 (男性)



18-34歳の未婚者の結婚意欲の推移 (女性)



(出所) 第15回出生動向基本調査を元に日本総研作成

- 「結婚したくない」と回答している層は男女ともに年齢が高くなるにしたがって割合が増えていた。その内訳はいずれの年齢においても②生活面の制約が大きくなっていった。また、活動中層においては③真剣に考えるタイミングではないが若い層に多く見られ（ライフプランの認識に関する低さを示すものの実際にまだ若い層が回答している等もあり詳細分析から得られる示唆も少ない為、本報告からは割愛）、女性においては④億劫だと感じるが年齢とともに高くなっていった。
- 本報告では以降で「結婚したくない層」、「結婚したい層の結婚に向けて活動していない/できていない層」、「結婚したい層の結婚に向けて活動中の層」についてそれぞれの詳細について整理・分析する。

未婚パターン		全体 ss 3,115	男性			女性				
			20-29 ss 519	30-39 ss 521	40-49 ss 511	20-29 ss 522	30-39 ss 520	40-49 ss 522		
「結婚したくない」と回答している層	①個人の経済合理性	5%	6%	8%	8%	2%	2%	2%	→ 詳細①	
	②生活面の制約	20%	19%	21%	26%	13%	22%	29%		
	結婚意欲無し_その他	3%	2%	3%	3%	2%	5%	3%		
「結婚したい」と回答している層	結婚に向けて「活動していない/できていない」と回答している層	③真剣に考えるタイミングではない	13%	19%	11%	10%	14%	7%	5%	→ 詳細②
		④億劫だと感じる	8%	6%	8%	6%	6%	11%	16%	
		⑤活動方法がない/分からない	5%	4%	4%	6%	7%	5%	6%	
		⑥時間上の制約	4%	3%	5%	5%	4%	3%	3%	
		⑦経済的な制約	5%	5%	6%	8%	2%	3%	4%	
	結婚に向けて「活動中である」と回答している層	⑧家族関係の問題	1%	0%	1%	1%	0%	1%	1%	→ 詳細②
		⑨健康上の問題	1%	1%	1%	1%	1%	2%	2%	
		⑩精神面の問題	5%	4%	7%	7%	5%	6%	6%	
		婚活出来ていない_その他	1%	1%	1%	1%	0%	2%	2%	
		⑫活動の本気度が足りない	1%	1%	1%	2%	1%	1%	1%	
⑪ニツチ思考 or ⑬活動の質が合わない	4%	3%	6%	5%	2%	4%	3%			
⑭積極的にアプローチ出来ていない	3%	3%	2%	1%	5%	4%	2%			
合計		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%		

大きい ← → 小さい

※ サンプルサイズ : 3,115/519 /521/511/522/520/522

2-2 : 詳細①（個人の経済合理性から結婚したくないと回答している層の分析）

未婚パターン① サンプルサイズ

- 分析対象のサンプルサイズは以下の通り。
- 該当者数が全体は男女間の差が大きく、女性については少数となっている。
- 他方、男性は全体の7%と多くなっているため、男性を中心に属性の分析を行う。

	サンプルサイズ	割合
男性	112	81.5%
年代別内訳		
20代	33	34.2%
30代	40	25.9%
40代	39	21.3%

	サンプルサイズ	割合
女性	32	18.5%
年代別内訳		
20代	10	9.6%
30代	12	5.7%
40代	10	3.2%

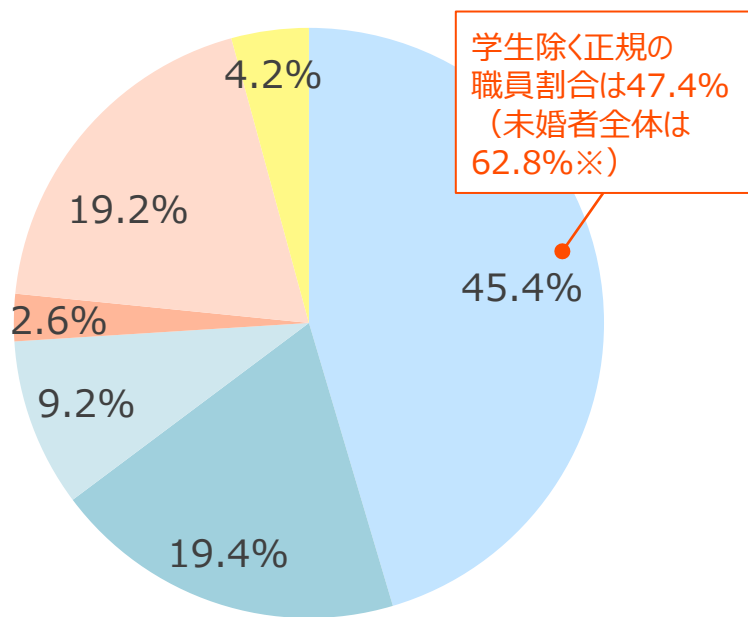
※以降、サンプルサイズは基本的に当該ページを参照

未婚パターン① 雇用形態

- 学生を除いた割合でも職員比率が50%を下回っている。
- 男性は未婚者全体と比較し、低くなっており、正規の職員以外では経済的な側面から結婚意欲が低下している層が多くなっていると考えられる。（以降男性を中心に分析を記載）

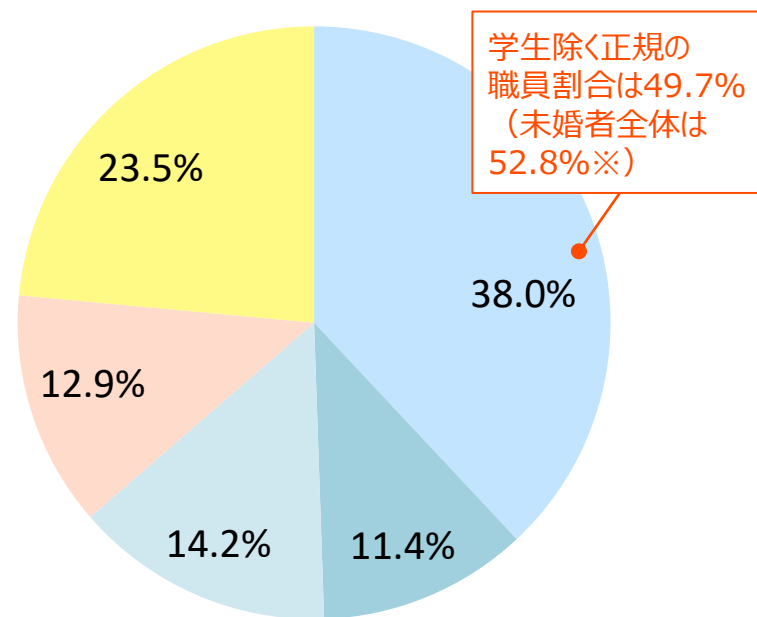
Q7：現在のご職業（雇用形態）を教えてください。

パターン①の雇用形態（男性）



■ 正規の職員（自営業主含む） ■ パート・アルバイト ■ 派遣・嘱託・契約社員 ■ 家族従業者・内職 ■ 無職・家事 ■ 学生

パターン①の雇用形態（女性）



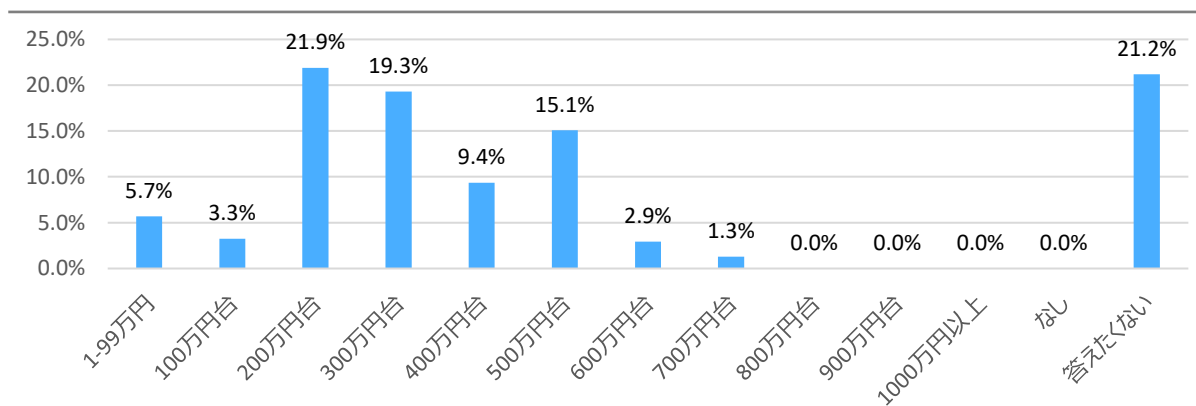
※厚生労働省の出生動向基本調査（2015年） 独身者全体では男性66.2% 女性60.8%

未婚パターン① 経済面 年収 ～男性～

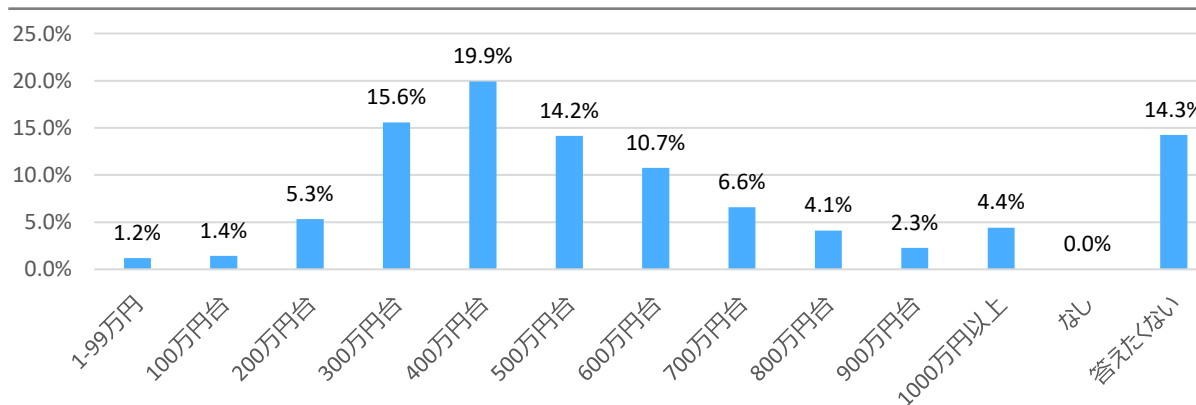
- 正規の職員の比較において、未婚パターン①の該当者は年収が既婚者も含めた正規職員と比較し低水準であることがうかがえる。
- 正規の職員比率の低さとともに、正規であっても年収が低水準にあると経済的な余裕のない層が多いことが分かる。

Q11：令和2年度のあなたの個人年収について教えてください。

パターン①の年収（正規の職員 男性 n=52）



パターン①以外の年収（正規の職員 男性 n=2,150）



※ 国税庁の民間給与実態統計調査（令和2年分）では給与所得者の平均給与は433万円（男性のみは532万円）

※ コロナウイルスの影響が出る前の年収

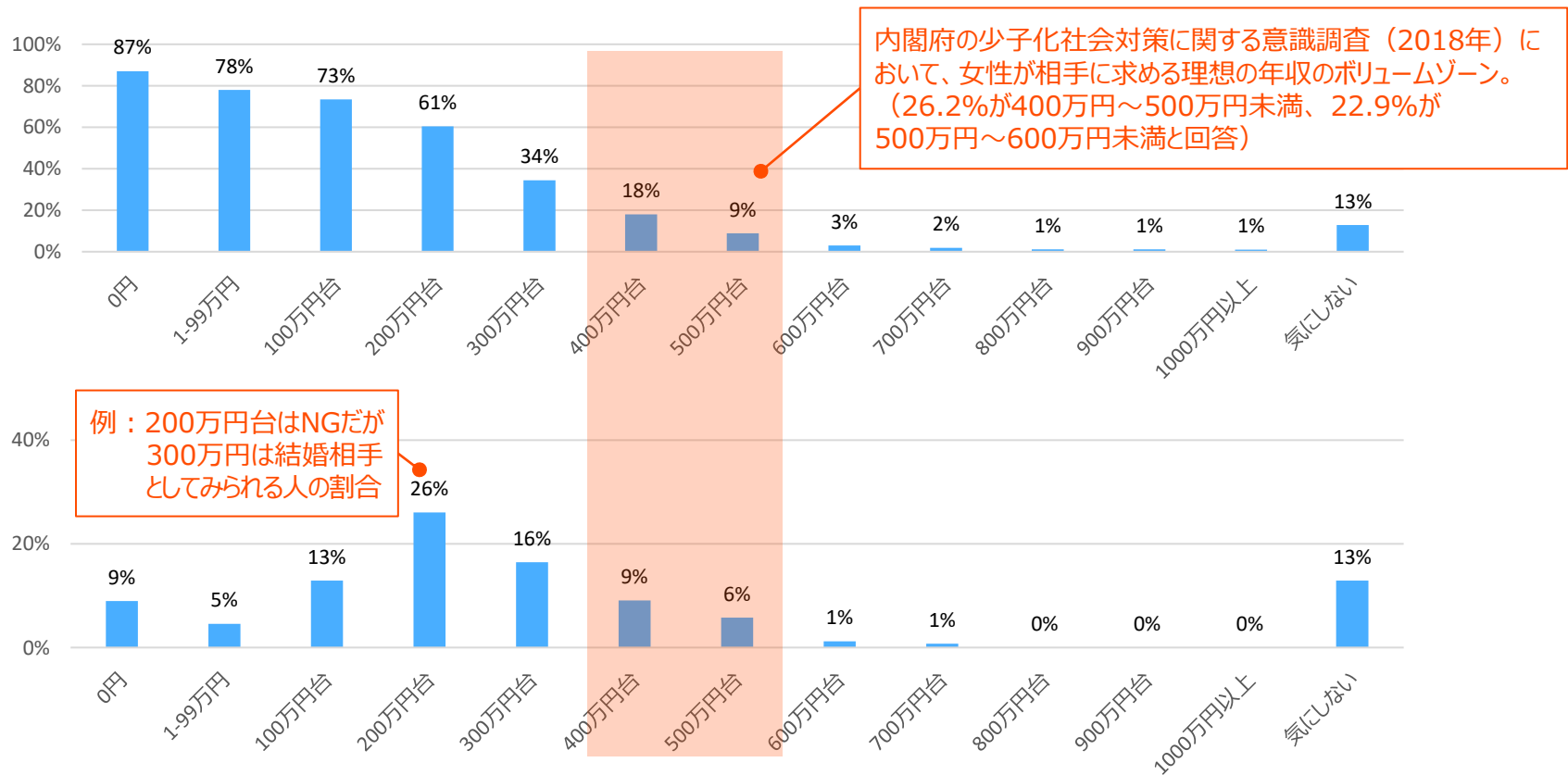
※ パターン①以外には既婚者含む

(参考) 女性から見た、許容できない結婚相手の年収ライン

- 未婚者女性に結婚相手の年収として許容できないラインを確認した結果が以下の通り。(既存調査では理想の年収等を聞いているものが多いが、本調査では許容できないラインを確認)
- 許容できないラインが200万円台となっていることが分かった。前頁に記載の通りパターン①の正規職員の多くはこのラインに引っかかってしまっており、このことが結婚意欲を喪失させている可能性が示される。

Q49：結婚相手の年収について、許容できないもの（NGのもの）をお答えください。

結婚相手年収に関する、未婚女性が考えるNGラインと許容できない割合

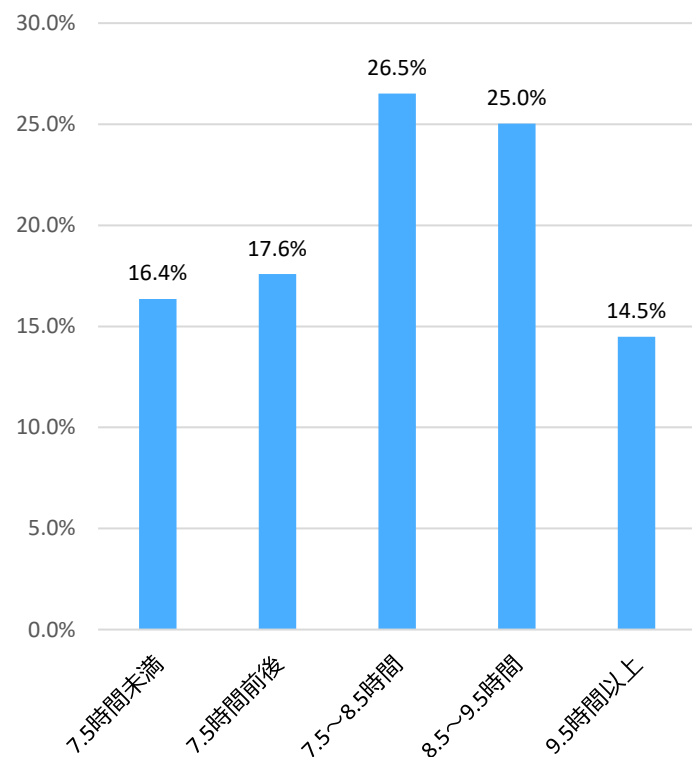


未婚パターン① 勤務時間

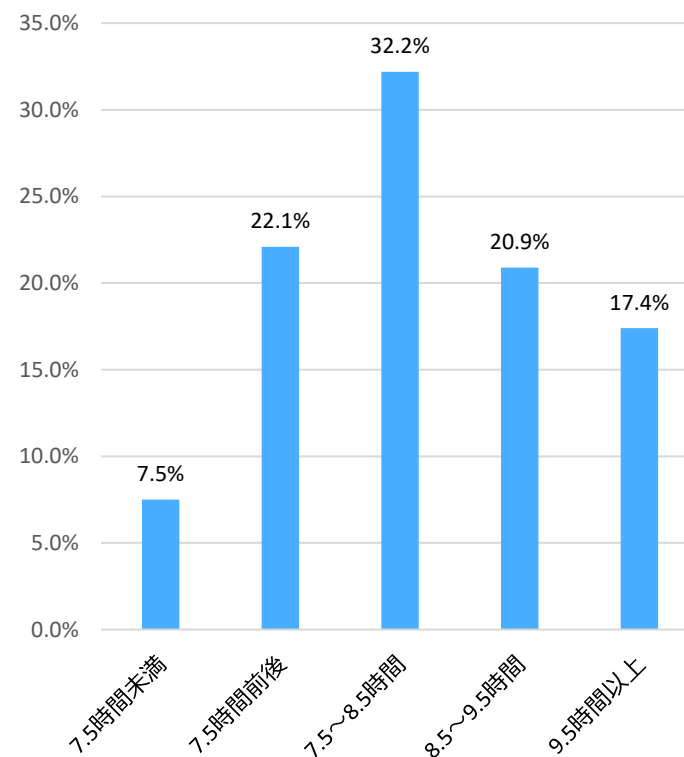
- 未婚パターン①に該当する正規の職員とそれ以外の正規の職員（既婚者含む）の平均勤務時間は以下の通り。
- 残業時間2時間以内が中心となっており、パターン①に該当しない正規職員と比較し勤務時間が長い傾向がある。

Q13：一日あたりの平均勤務時間について教えてください。

パターン①の勤務時間 (正規の職員 男性 n=52)



パターン①以外（既婚者含む）の勤務時間 (正規の職員 男性 n=2,150)

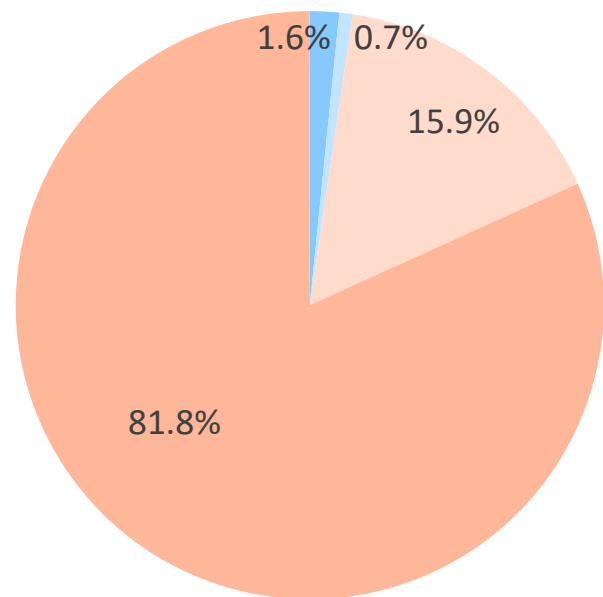


未婚パターン① 異性とのコミュニケーション

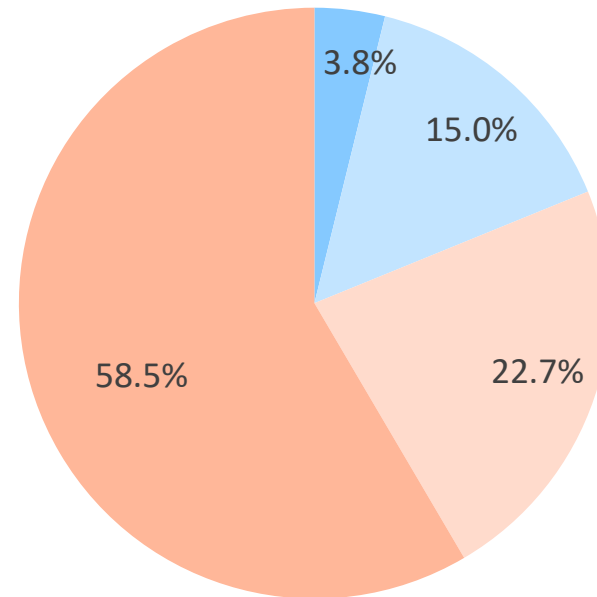
- 未婚パターン①の該当者（男性）の恋愛対象の年齢となる異性とのコミュニケーションの機会はほぼないが8割以上を占めており、あまりないと併せると95%以上を占めている。
- 未婚者全体との比較からもパターン①該当者は異性とのコミュニケーションの機会が少ないことが分かる。

Q35：異性とのコミュニケーション頻度についてお答えください。
（普段から交際の対象範囲となるような異性とコミュニケーションをとる機会）

パターン①の異性とのコミュニケーション機会（男性）



未婚者全体の異性とのコミュニケーション機会（男性）



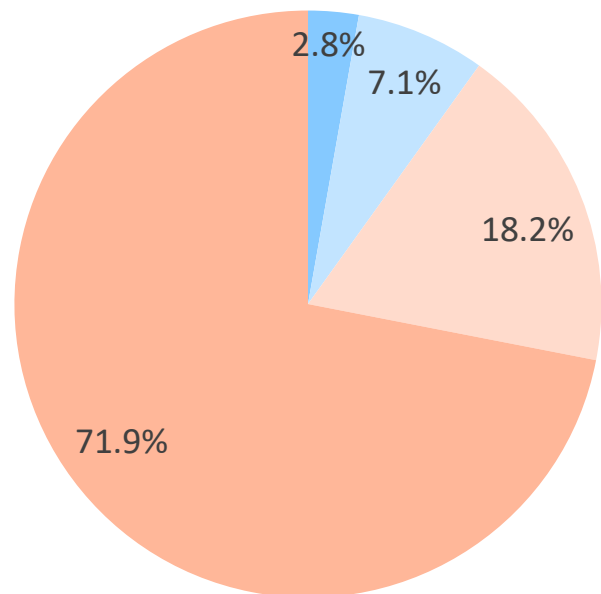
■ よくある（週に6人以上と機会がある） ■ ある（週に1-5人と機会がある） ■ あまりない（月に数人と機会がある） ■ ほぼない

未婚パターン① 異性とのコミュニケーション

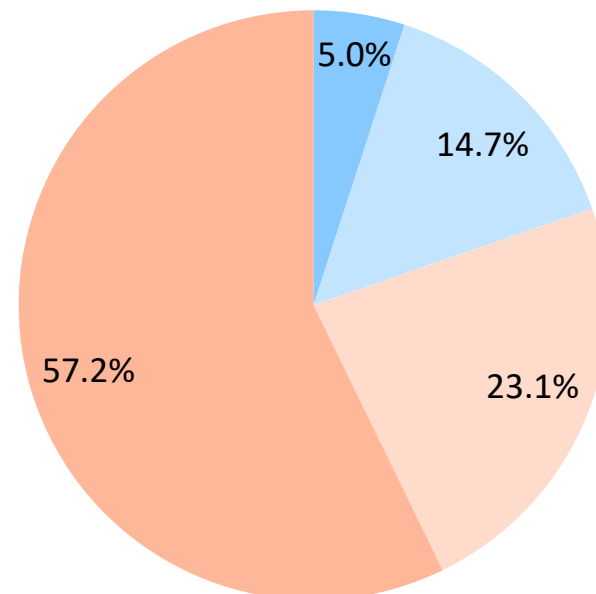
- 未婚パターン①の該当者（女性）の恋愛対象の年齢となる異性とのコミュニケーションの機会にはほぼないが7割以上を占めており、あまりないと併せると90%程度を占めている。
- 前頁の男性と比較すると機会は多いが、未婚者全体と比較しても少なくなっている傾向は男性と同様にみられる。

Q35：異性とのコミュニケーション頻度についてお答えください。
(普段から交際の対象範囲となるような異性とコミュニケーションをとる機会)

パターン①の異性とのコミュニケーション機会（女性）



未婚者全体の異性とのコミュニケーション機会（女性）



■ よくある（週に6人以上と機会がある） ■ ある（週に1-5人と機会がある） ■ あまりない（月に数人と機会がある） ■ ほぼない

未婚パターン① 交際経験

- 未婚パターン①の該当者は、男女ともに未婚者全体よりも交際経験も10pt^(※)程度低くなっていることが分かる。
- 男性よりも女性の方が交際経験なしの割合が低くなっている傾向は、未婚パターン①にも未婚者全体と同様にみられた。

Q31：これまでに、交際した経験はありますか。

パターン①の交際経験なし割合

交際経験なし割合	男女合計	男	女
全年齢	39.4%	41.2%	31.3%
20代	50.0%	51.4%	45.3%
30代	35.6%	37.9%	25.0%
40代	25.1%	28.9%	0.0%

大きい 小さい

未婚者全体の交際経験なし割合

交際経験なし割合	男女合計	男	女
全年齢	26.6%	30.4%	21.8%
20代	31.3%	36.2%	25.8%
30代	26.5%	29.5%	22.2%
40代	16.0%	19.9%	10.0%

※以降、%と%を比較する場合は単位をpt（ポイント）とする

未婚パターン① まとめと政策面での課題

- これまでの分析を踏まえ、個人の経済合理性から結婚したくない、と回答している層の課題は、以下のようなものであることが推測される。

1 経済的に余裕のない生活をしている

調査結果では、正規の職員比率が未婚者全体よりも低くなっていた。また、正規であってもその年収は未婚者全体より低水準であった。

2 異性との接点が少なく、出会いの機会がない

普段の生活において恋愛対象となる異性とのコミュニケーション機会は極めて少なかった

3 交際経験も少なく、出会ったとしても上手く振舞えない

交際経験が少なく、特に20代男性は50%以上に交際経験がなかった。



- ☑ 未婚パターン①に該当する層は経済的にも交際や結婚に前向きに向き合う余裕もなければ、普段の生活において異性と触れ合う接点も少なく、さらには交際経験も少ないためであったとしてもその機会を活かしづらいという環境（経済含む）・機会・ノウハウのすべての面において課題を有している。
- ☑ ただ、実際の生活を考慮すると他の未婚パターン以上に経済面での支援がベースとして必要不可欠と考えられる。

2-2 : 詳細① (生活面の制約から結婚したくないと回答している層の分析)

(参考) 未婚パターン② サンプルサイズ

- 分析対象のサンプルサイズは以下のとおり。
- 各年代でそれぞれ100前後のサンプルサイズを確保できていることから、年代間での比較を実施した。

	サンプルサイズ	割合
男性	338	59.2%
年代別内訳		
20代	96	24.9%
30代	108	16.9%
40代	134	17.4%

	サンプルサイズ	割合
女性	340	40.8%
年代別内訳		
20代	72	15.6%
30代	117	12.9%
40代	151	12.3%

未婚パターン② 雇用形態

- 雇用形態については、未婚者全体の集計結果と比較すると、**正規の職員の割合が低く、20代女性のパート・アルバイト、20代・30代男性の無職・家事の割合が高くなっている。**
- 若年のパート・アルバイト、無職・家事の層は、正規の職員と比較すると、一般的に**労働時間が短い**ことが特徴として挙げられる。**自分の時間を持ちたいという希望**を持っているために、生活面の制約となり得る結婚を希望しない結果となっている可能性が考えられる。

Q7：現在のご職業（雇用形態）を教えてください。

未婚者全体の集計結果

Q7 現在の所属雇用形態		正規の職員 (自営業主含む)	パート・アルバイト	派遣・嘱託・契約社員	家族従業者・内職	無職・家事	学生
男性	20代	47.4%	11.4%	4.6%	0.8%	12.0%	23.8%
	30代	61.5%	15.2%	8.6%	1.5%	12.6%	0.6%
	40代	64.7%	10.3%	11.9%	1.7%	11.4%	0.0%
	男性合計	55.6%	12.2%	7.5%	1.2%	12.1%	11.4%
女性	20代	41.5%	16.9%	7.5%	0.9%	7.5%	25.6%
	30代	49.8%	21.5%	14.3%	1.4%	12.6%	0.4%
	40代	50.1%	17.4%	16.7%	2.2%	13.4%	0.2%
	女性合計	45.4%	18.2%	11.1%	1.3%	10.0%	14.0%

パターン②の集計結果

Q7 現在の所属雇用形態		正規の職員 (自営業主含む)	パート・アルバイト	派遣・嘱託・契約社員	家族従業者・内職	無職・家事	学生
男性	20代	32.3%	14.6%	4.8%	1.1%	23.7%	23.4%
	30代	46.9%	19.9%	4.4%	3.7%	24.1%	1.0%
	40代	59.4%	11.6%	16.6%	0.7%	11.6%	0.0%
	男性合計	44.4%	15.2%	8.2%	1.7%	20.3%	10.1%
女性	20代	26.7%	32.5%	6.5%	4.1%	9.5%	20.7%
	30代	35.3%	23.5%	20.7%	2.5%	18.0%	0.0%
	40代	43.6%	22.9%	15.8%	1.3%	16.4%	0.0%
	女性合計	34.5%	26.7%	13.8%	2.8%	14.3%	7.9%

全体との差分

(パターン②の集計結果の数値) - (未婚者全体の集計結果の数値)

Q7 現在の所属雇用形態		正規の職員 (自営業主含む)	パート・アルバイト	派遣・嘱託・契約社員	家族従業者・内職	無職・家事	学生
男性	20代	-15.1%	3.2%	0.2%	0.4%	11.7%	-0.4%
	30代	-14.6%	4.7%	-4.2%	2.2%	11.5%	0.4%
	40代	-5.2%	1.4%	4.8%	-1.1%	0.2%	0.0%
	男性合計	-11.2%	3.0%	0.7%	0.5%	8.2%	-1.3%
女性	20代	-14.8%	15.6%	-1.0%	3.2%	2.0%	-5.0%
	30代	-14.5%	2.0%	6.4%	1.1%	5.4%	-0.4%
	40代	-6.6%	5.4%	-0.8%	-0.9%	3.0%	-0.2%
	女性合計	-10.9%	8.5%	2.7%	1.5%	4.3%	-6.1%

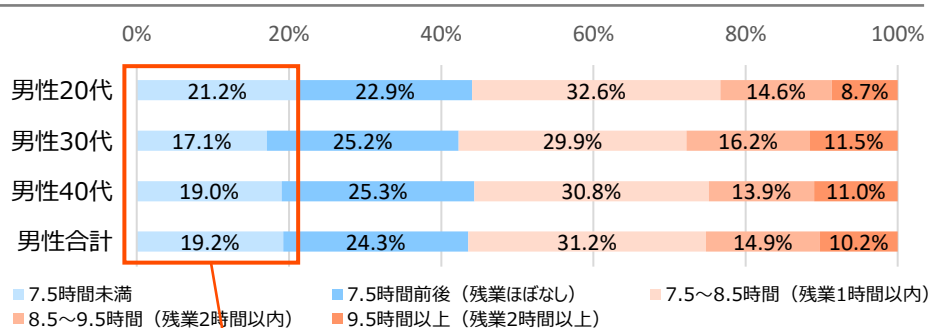
- パターン②については、全体と比較すると、正規の職員の数値は軒並み低く、若年層のパート・アルバイト、無職・家事の数値が高い。
- 雇用形態としては、労働時間の長短が大きな違いとして挙げられる。パターン②の層については、「自分の時間を持ちたい」という希望を有しているのではないかな？

未婚パターン② 生活実態

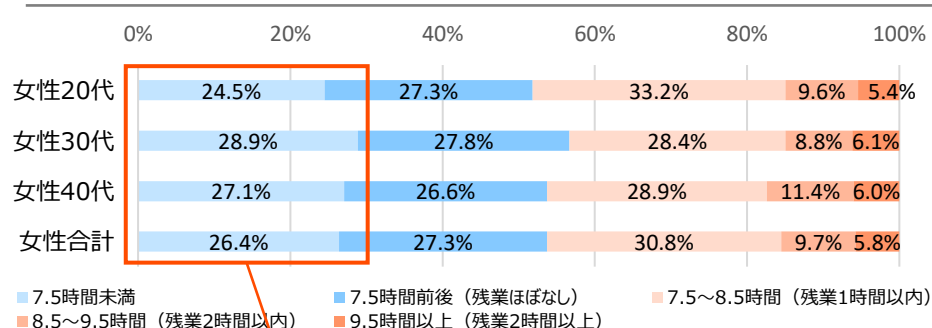
- 勤務時間については、未婚者全体と比較すると、**7.5時間未満と回答している割合**が増加している点に大きな特徴がある。特に**20代女性**は、24.5%⇒50.7%と非常に値が高くなっていることがうかがえる。
- 前頁の結果も踏まえて考えると、**自分たちの時間がある程度確保できる層**にとって、結婚・交際は生活面の制約になり得ると考えられる可能性がある。一方、正規雇用等、長時間勤務の業務を希望していても就くことができず、勤務時間が短くなっている可能性もある。

Q13：一日あたりの平均勤務時間について教えてください。

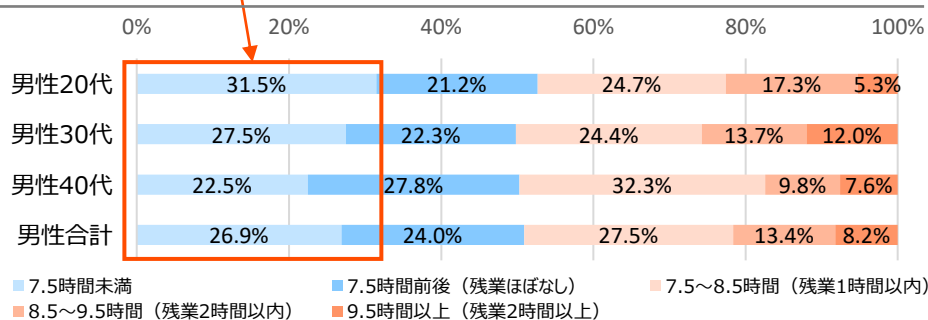
1日あたり平均勤務時間（未婚者全体：男性 n=1,551）



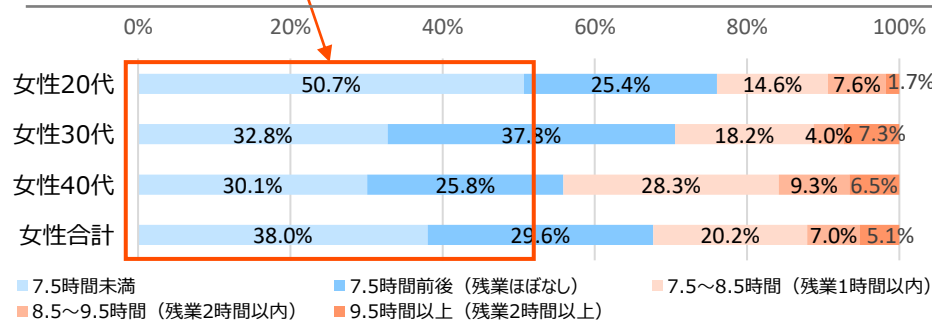
1日あたり平均勤務時間（未婚者全体：女性 n=1,564）



1日あたり平均勤務時間（パターン②：男性 n=338）



1日あたり平均勤務時間（パターン②：女性 n=340）

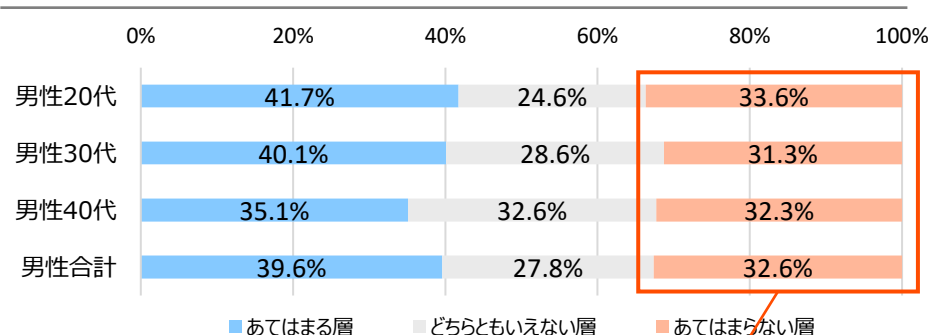


未婚パターン② 新型コロナウイルス感染拡大による変化（交際相手希望）

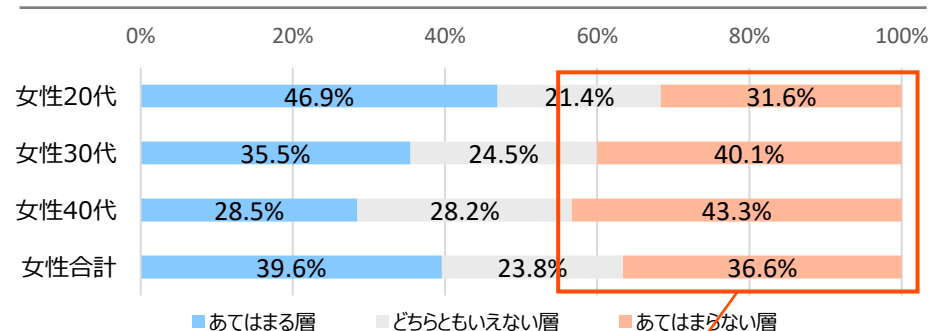
- パターン②では、「あてはまらない」と回答している層がどの性別・年齢でも6割を超えており、未婚者全体と比較しても、この数値は非常に高いことが分かる。「交際したい」という意欲を持たず、「一人である」ことを好む傾向が表れているといえる可能性がある。
- また、**30代女性・40代女性**においては、「あてはまらない」と回答している層が8割を超えている。社会における活躍・女性の独身志向の高まり等、様々な要因が考えられるが、「**交際相手を欲しない女性**」が増えているということは大きな特徴であると考えられる。

Q18：新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けての心情の変化として、あなたは以下のそれぞれの項目についてどのくらいあてはまりますか。「非常にあてはまる」～「全くあてはまらない」までのあいだで、あてはまると思う程度をそれぞれ1つ選んでお答えください。（交際相手が欲しい気持ちが強まっている）

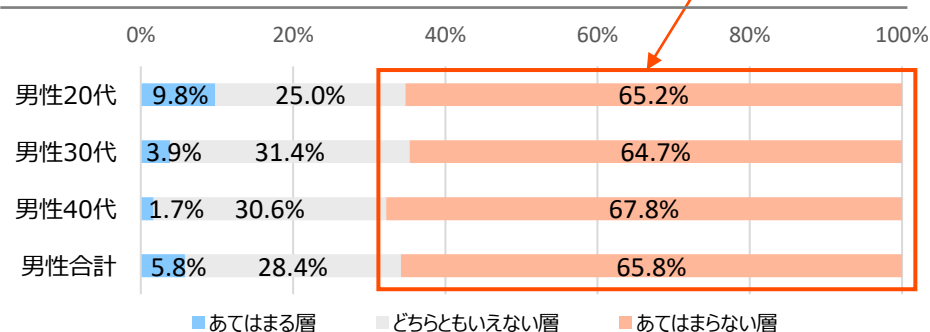
新型コロナウイルス感染拡大による変化～交際相手が欲しいか～
（全体：男性 n=1,551）



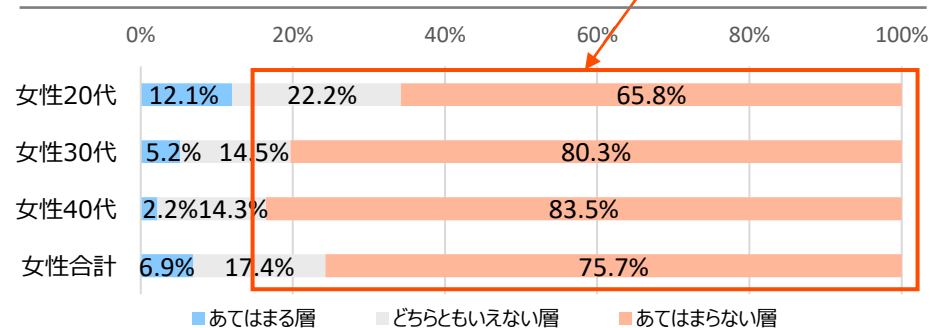
新型コロナウイルス感染拡大による変化～交際相手が欲しいか～
（全体：女性 n=1,564）



新型コロナウイルス感染拡大による変化～交際相手が欲しいか～
（パターン②：男性 n=338）



新型コロナウイルス感染拡大による変化～交際相手が欲しいか～
（パターン②：女性 n=340）



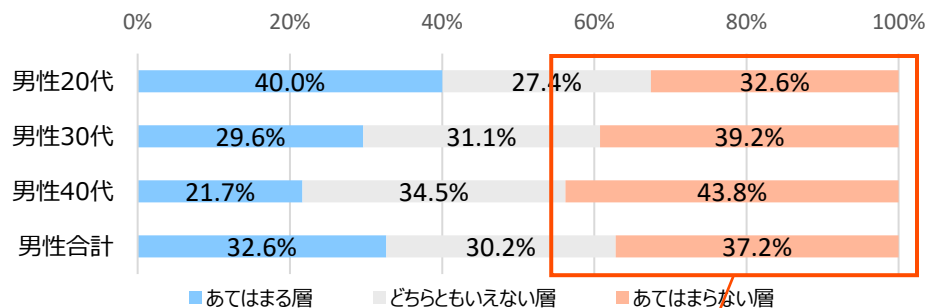
未婚パターン② 新型コロナウイルス感染拡大による変化（誰とも会わないことの影響）

- パターン②では、誰とも会わない日が続くことについてつらさ・寂しさを感じないと回答している層が全体と比較して非常に高くなっている。また、30代女性・40代女性のあてはまらない層が7割を超えており、男性の同年代と比較しても10pt前後高くなっている。
- 「一人でいる・一人で過ごす」ことに対する忌避感・抵抗感のようなものが低いといえる可能性がある。

Q18：新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けての心情の変化として、あなたは以下のそれぞれの項目についてどのくらいあてはまりますか。
「非常にあてはまる」～「全くあてはまらない」までのあいだで、あてはまると思う程度をそれぞれ1つ選んでお答えください。
(誰とも会わない日が続くつらさ・寂しさを感じている)

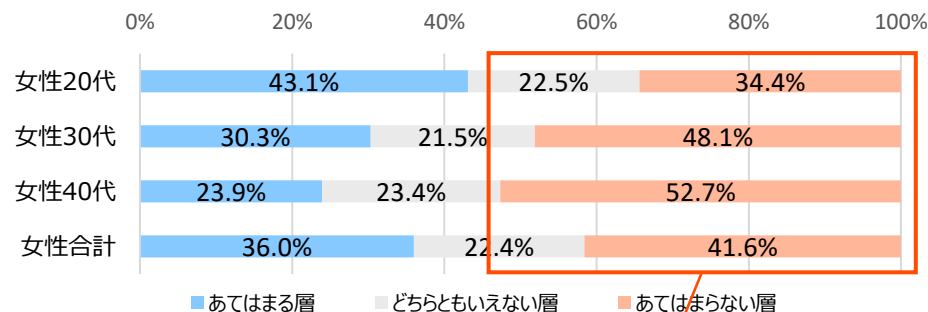
新型コロナウイルス感染拡大による変化

～誰とも会わないことによる寂しさ・つらさ～（全体：男性 n=1,551）



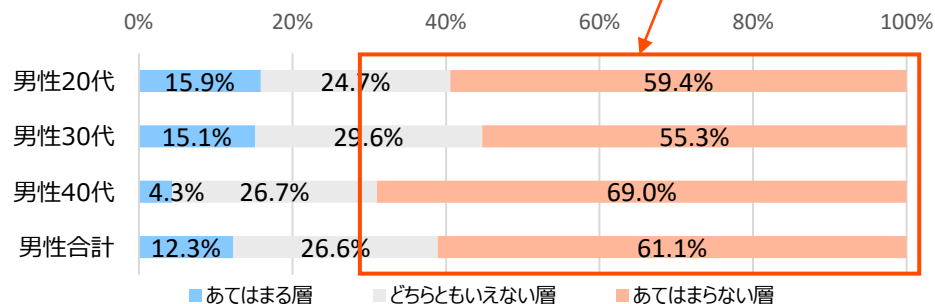
新型コロナウイルス感染拡大による変化

～誰とも会わないことによる寂しさ・つらさ～（全体：女性 n=1,564）



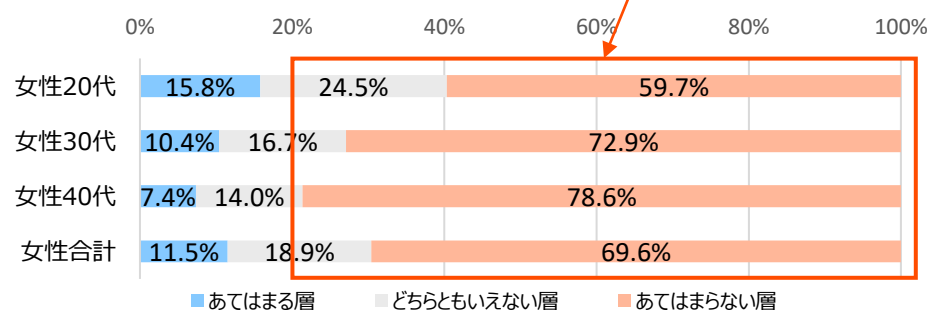
新型コロナウイルス感染拡大による変化

～誰とも会わないことによる寂しさ・つらさ～（全体：男性 n=338）



新型コロナウイルス感染拡大による変化

～誰とも会わないことによる寂しさ・つらさ～（全体：女性 n=340）

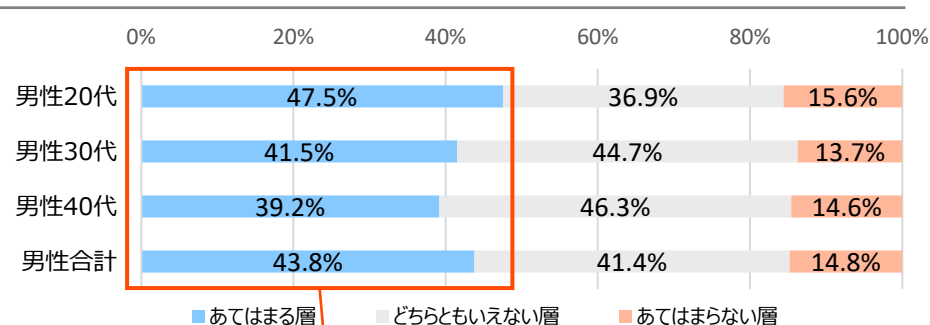


未婚パターン② 新型コロナウイルス感染拡大による変化（一人の時間の快適さ）

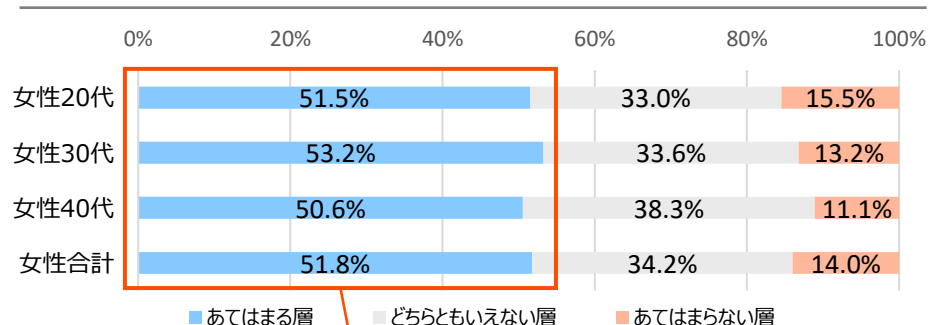
- 「一人の時間が増えること」については、そもそも全体の回答層においても好意的に捉える層が高くなっていますが、パターン②においても、**20代男性以外の層で全体の回答よりも割合が高くなっている。**
- 下記の結果からも、「一人でいる・一人で過ごす」ことに対する**忌避感・抵抗感のようなものが低い**といえる可能性がある。

Q18：新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けての心情の変化として、あなたは以下のそれぞれの項目についてどのくらいあてはまりますか。「非常にあてはまる」～「全くあてはまらない」までのあいだで、あてはまると思う程度をそれぞれ1つ選んでお答えください。（誰とも会わない日が続きつらさ・寂しさを感じている）

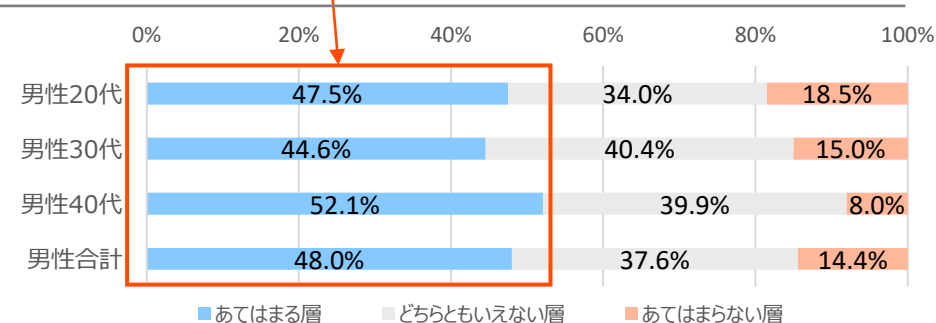
新型コロナウイルス感染拡大による変化
～一人でいることによる快適さ～（全体：男性 n=1,551）



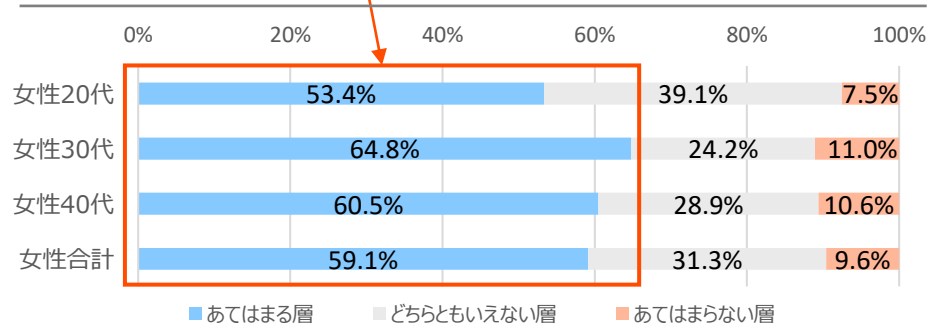
新型コロナウイルス感染拡大による変化
～一人でいることによる快適さ～（全体：女性 n=1,564）



新型コロナウイルス感染拡大による変化
～一人でいることによる快適さ～（パターン②：男性 n=338）



新型コロナウイルス感染拡大による変化
～一人でいることによる快適さ～（パターン②：女性 n=340）



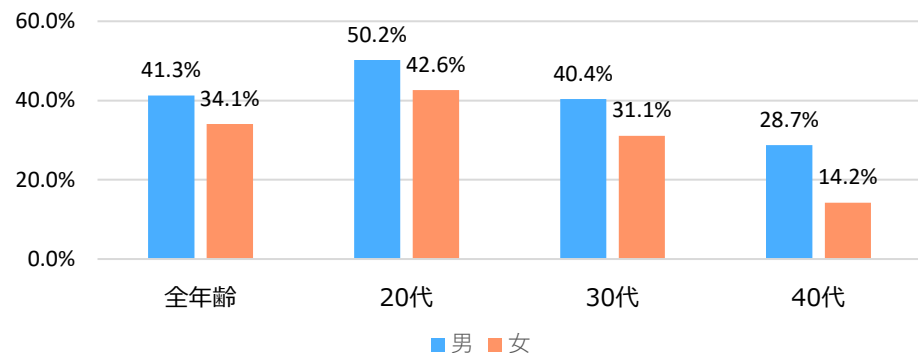
未婚パターン② 交際経験・交際意欲

- 交際経験については、全体の水準とほぼ変わらない結果となった。一方、交際意欲なしと回答している割合は、全体と比較しても非常に高くなっている。生活面の制約から結婚を希望しないと回答している回答者は、**交際意欲についても非常に低くなっている**ことが分かる。
- パターン②の層は、結婚の前段階となり得る**交際についても、意欲がない**ことを示す結果となった。

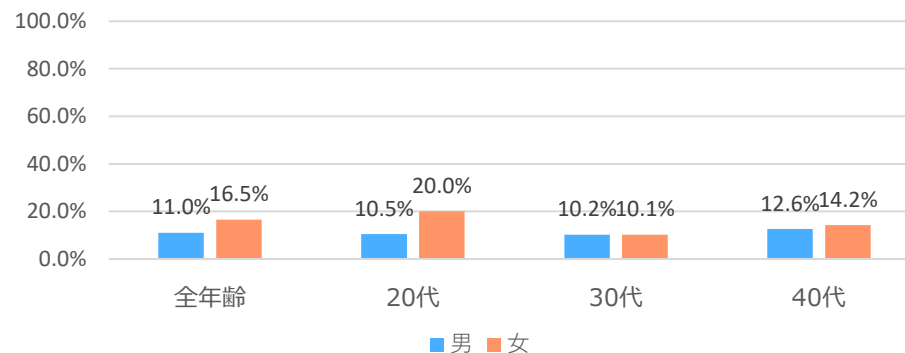
Q31：これまでに、交際した経験はありますか。

Q37：あなたは現在、交際相手が欲しいと思っていますか？

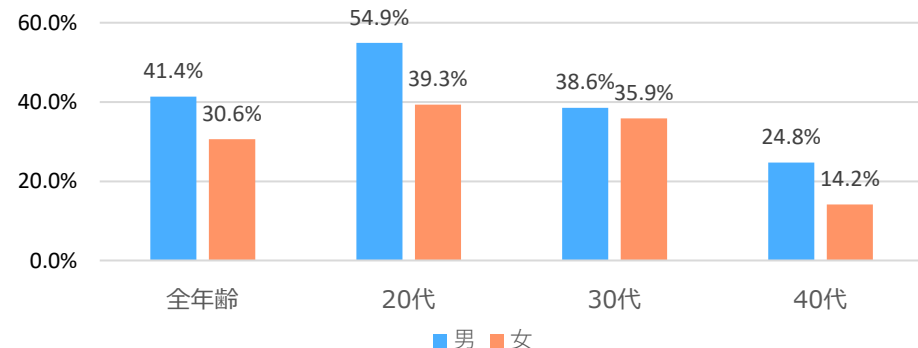
交際経験なしの回答割合（未婚者全体）



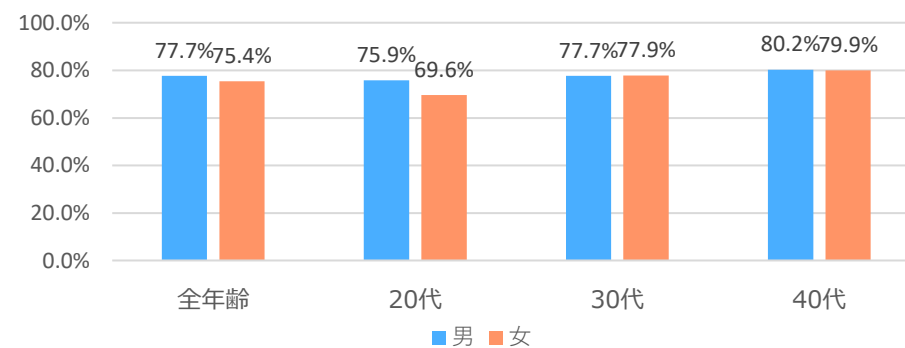
交際意欲なしの回答割合（未婚者全体）



交際経験なしの回答割合（パターン②）



交際意欲なしの回答割合（パターン②）



未婚パターン② まとめと政策面での課題

- これまでの分析を踏まえ、生活面の制約から結婚したくない、と回答している層の傾向としては、以下のようなものが挙げられると考えられる。

1 業務従事以外の「自分の時間」を有している

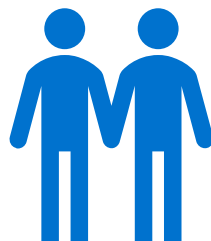
平均勤務時間が全体と比較し、短い、が、他者と過ごすのではなく、「自分の時間」として活用している

2 交際相手を欲していない

新型コロナウイルスによる感染拡大があっても、結婚のみならず、そもそも交際相手を欲していない

3 「一人である・過ごす」ことに対する忌避感・抵抗感のようなものが低い

一人であることについて寂しさ・つらさを感じるのではなく、むしろ快適と感じている



- ☑ 一人であること・一人で過ごすことについて快適に感じており、他者との時間の共有や交際に向けた意欲を有していない、またはその可能性がある。
- ☑ こうした層については、「結婚」という段階での支援ではなく、まずは「他者（異性）と過ごすこと」により得られる楽しさ・メリット等を伝える必要があるのではないかと。

2-3 : 詳細② (結婚したいが億劫だと感じると回答している層の分析)

(参考) 未婚パターン④ サンプルサイズ

- 分析対象のサンプルサイズは以下の通り。
- 男性・女性ともに、20代～40代まで一定のサンプルサイズが確保出来ているため、基本的には各性別・各年代の数値を比較する。

	サンプルサイズ	割合
男性	201	41.3%
年代別内訳		
20代	64	13.1%
30代	74	15.2%
40代	63	12.9%

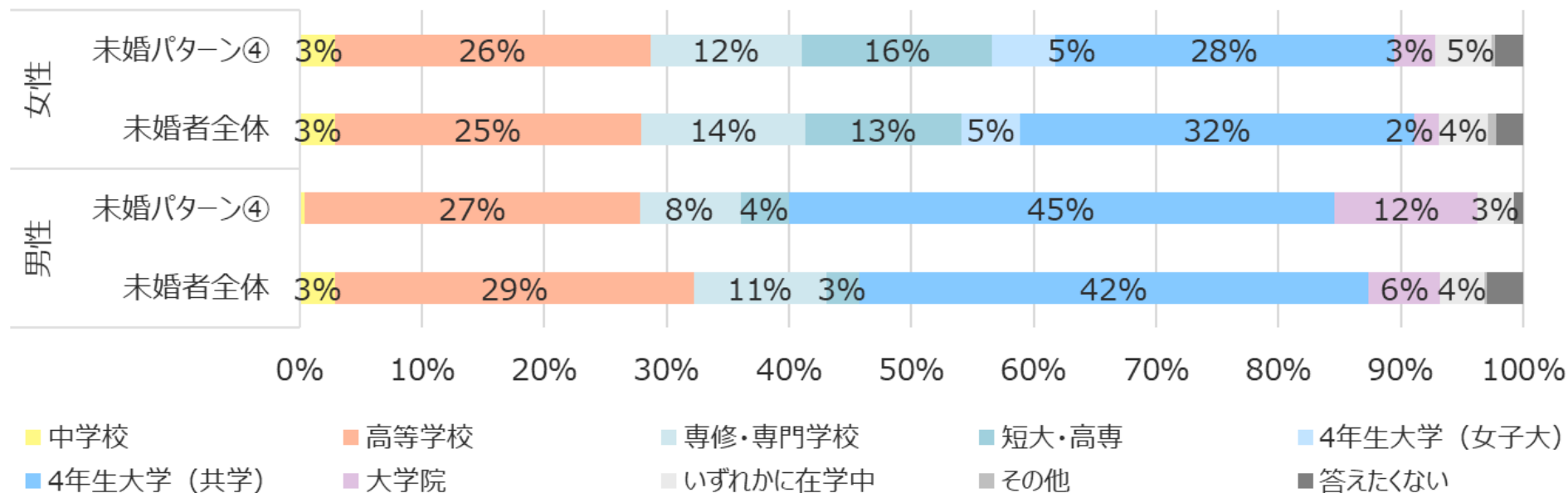
	サンプルサイズ	割合
女性	286	58.7%
年代別内訳		
20代	55	11.3%
30代	102	20.9%
40代	129	26.5%

未婚パターン④ 最終学歴

- 最終学歴を未婚者全体と未婚パターン④で比較すると、未婚パターン④において、女性では短大・高専が若干多く、男性では大学院が若干多い等の違いが見受けられる（ただし、大きな乖離は見られない）。

Q6：最終学歴を教えてください。

未婚パターン④と未婚者全体の最終学歴

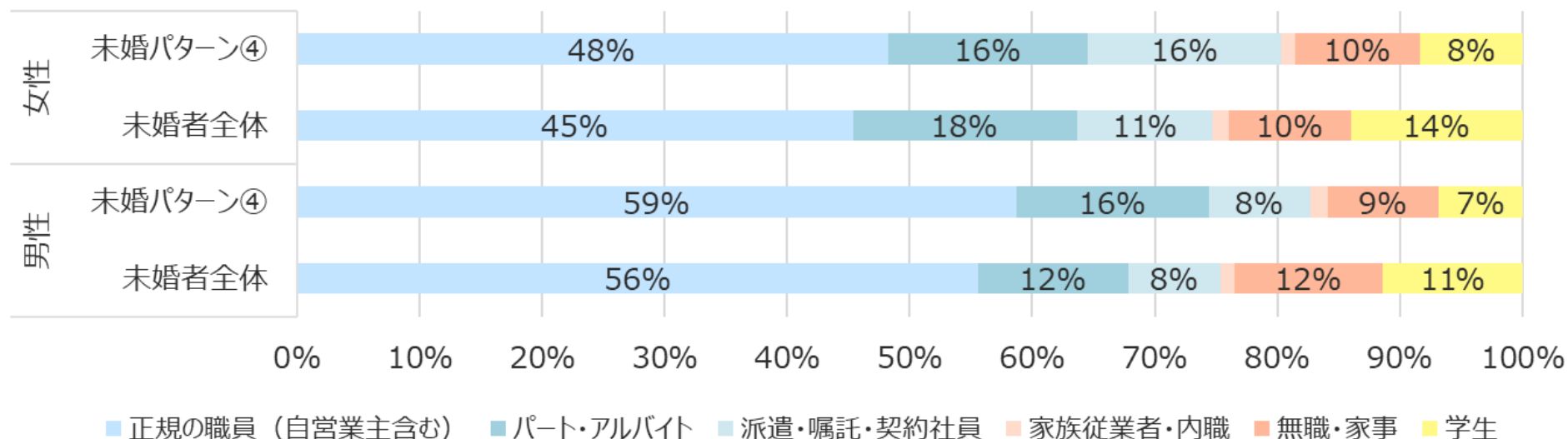


未婚パターン④ 雇用形態

- 雇用形態を未婚者全体と未婚パターン④で比較すると、未婚パターン④において、男女ともに正規の職員（自営業主含む）が若干多く、学生は少ない傾向。

Q7：現在のご職業（雇用形態）を教えてください。

未婚パターン④と未婚者全体の雇用形態

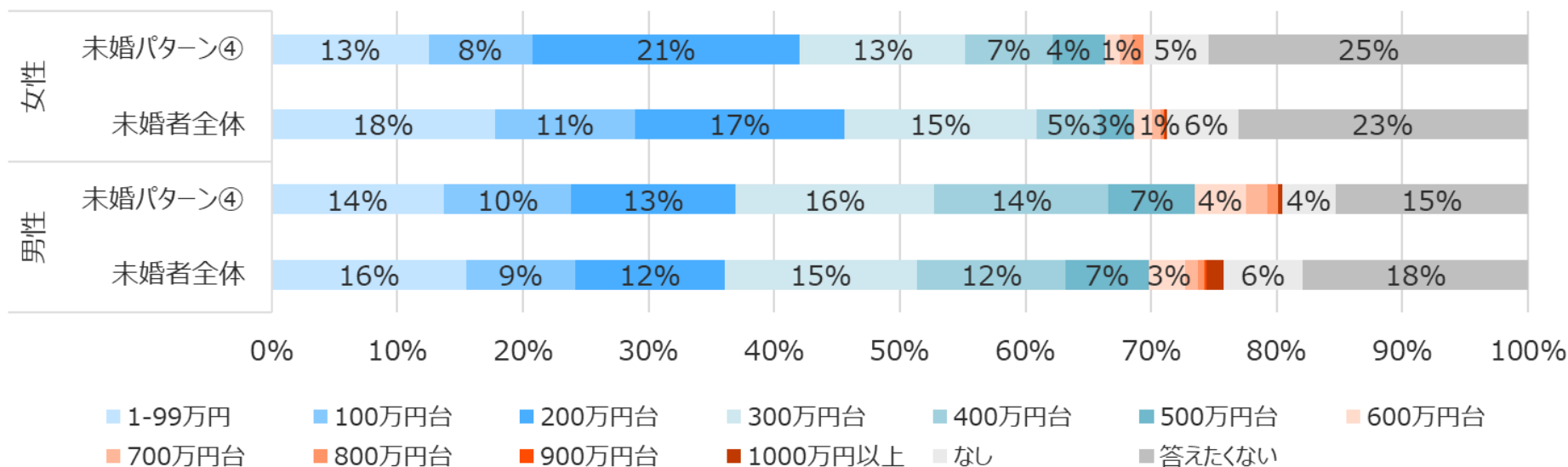


未婚パターン④ 年収

- 年収を未婚者全体と未婚パターン④で比較すると、若干ながら未婚パターン④の方が男女ともに高水準となっている傾向が窺える。

Q11：令和2年度のあなたの個人年収について教えてください。

未婚パターン④と未婚者全体の個人年収

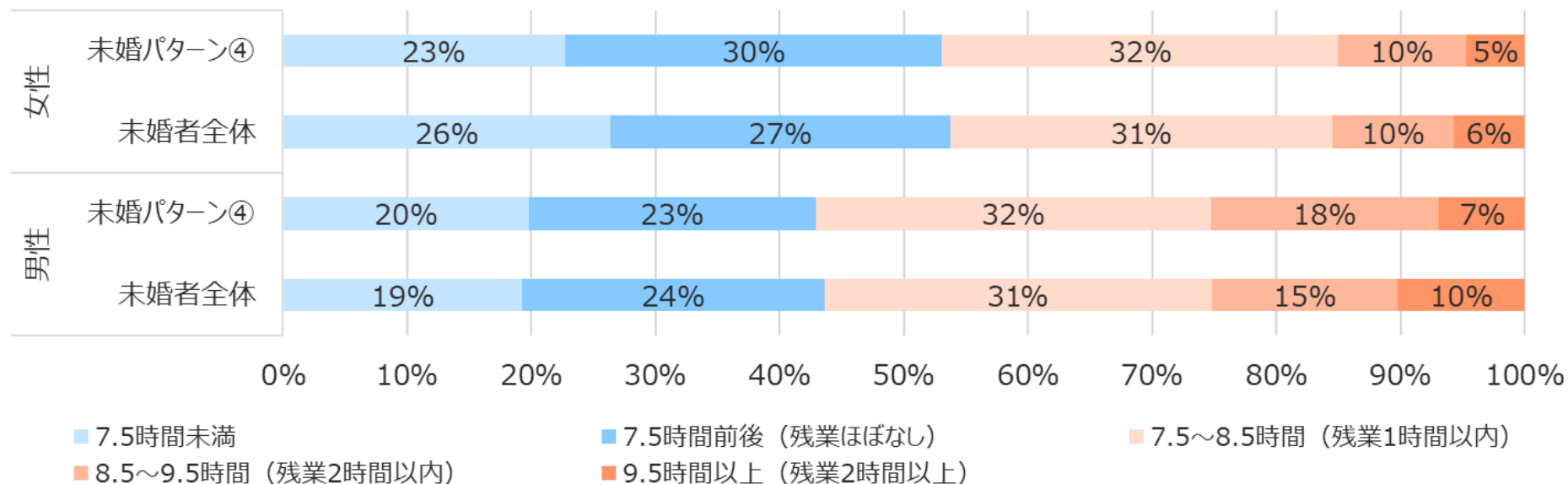


未婚パターン④ 1日あたり平均勤務時間

- 1日あたり平均勤務時間を未婚者全体と未婚パターン④で比較すると、大きな違いは見受けられず、未婚パターン④が特別に1日あたり平均勤務時間が多く多忙、というわけではないことが推察される。

Q13：一日あたりの平均勤務時間について教えてください。

未婚パターン④と未婚者全体の1日あたり平均勤務時間

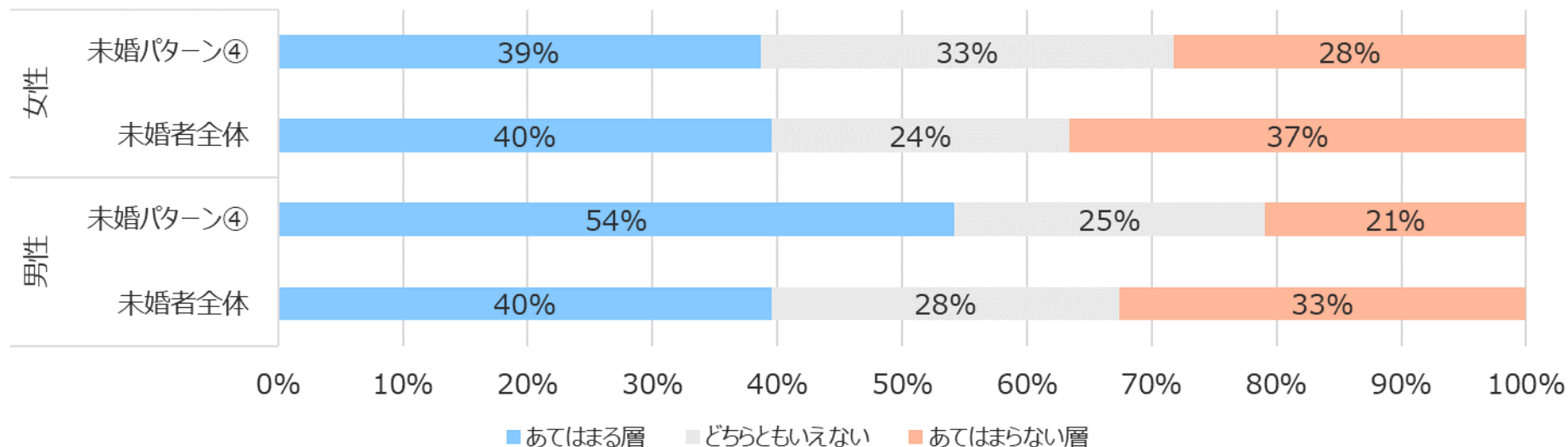


未婚パターン④ 新型コロナウイルス感染拡大による変化（交際相手が欲しい気持ちが強まっている）

- 「新型コロナウイルス感染拡大により、交際相手が欲しい気持ちが強まっている」という設問に対する回答を未婚者全体と未婚パターン④で比較すると、未婚パターン④では男女ともあてはまらない層が少なく、その分女性はこちらともいえない、男性はあてはまる層が多い。

Q18：新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けての心情の変化として、あなたは以下のそれぞれの項目についてどのくらいあてはまりますか。「非常にあてはまる」～「全くあてはまらない」までのあいだで、あてはまると思う程度をそれぞれ1つ選んでお答えください。（交際相手が欲しい気持ちが強まっている）

未婚パターン④と未婚者全体の新型コロナウイルス感染拡大による変化（交際相手が欲しい気持ち）

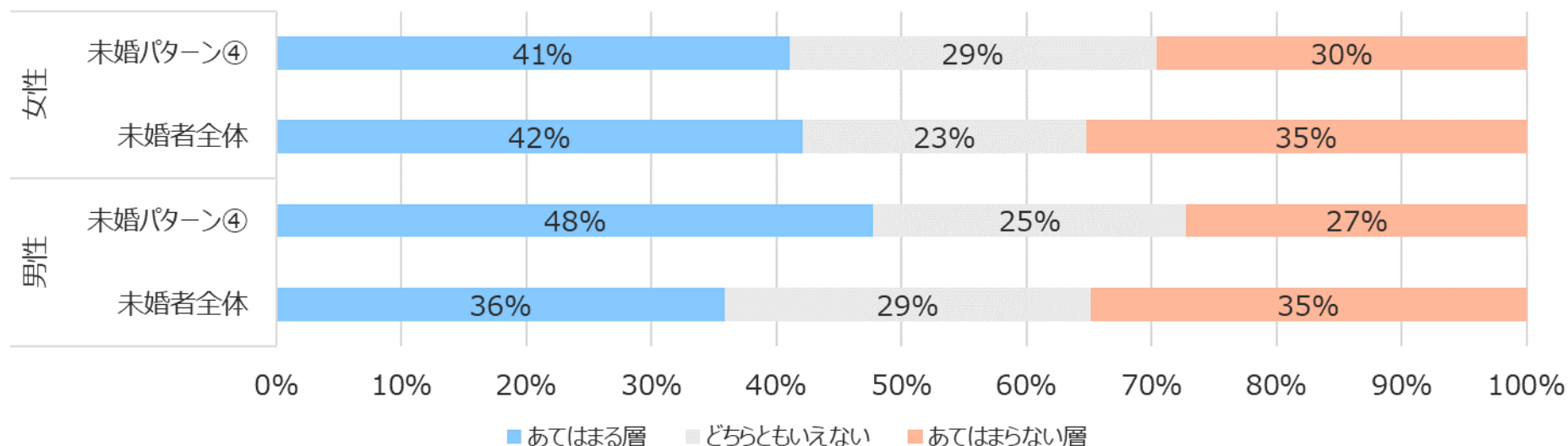


未婚パターン④ 新型コロナウイルス感染拡大による変化（結婚したい/家族が欲しい気持ちが強まっている）

- 「新型コロナウイルス感染拡大により、結婚したい/家族が欲しい気持ちが強まっている」という設問についても同様に未婚者全体と未婚パターン④で比較すると、やはり同様に未婚パターン④では男女ともあてはまらない層が少なく、その分女性ほどどちらともいえない、男性はあてはまる層が多い。

Q18：新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けての心情の変化として、あなたは以下のそれぞれの項目についてどのくらいあてはまりますか。「非常にあてはまる」～「全くあてはまらない」までのあいだで、あてはまると思う程度をそれぞれ1つ選んでお答えください。（結婚したい／家族が欲しい気持ちが強まっている）

未婚パターン④と未婚者全体の新型コロナウイルス感染拡大による変化（結婚したい/家族が欲しい気持ち）

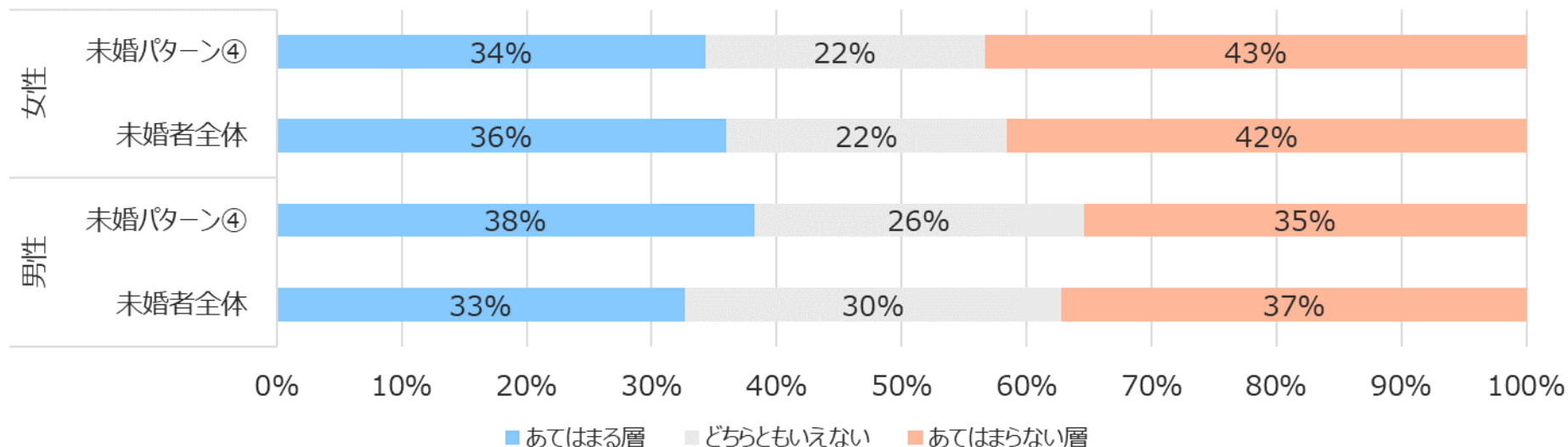


未婚パターン④新型コロナウイルス感染拡大による変化（誰とも会わない日が続きつらさ・寂しさを感じている）

- 「新型コロナウイルス感染拡大により、誰とも会わない日が続きつらさ・寂しさを感じている」という設問についても同様に未婚者全体と未婚パターン④で比較すると、未婚パターン④において、女性では大きな違いが見受けられない反面、男性は若干ながらあてはまる層が多い。

Q18：新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けての心情の変化として、あなたは以下のそれぞれの項目についてどのくらいあてはまりますか。「非常にあてはまる」～「全くあてはまらない」までのあいだで、あてはまると思う程度をそれぞれ1つ選んでお答えください。（結婚したい／家族が欲しい気持ちが強まっている）

未婚パターン④と未婚者全体の新型コロナウイルス感染拡大による変化（つらい・寂しい気持ち）

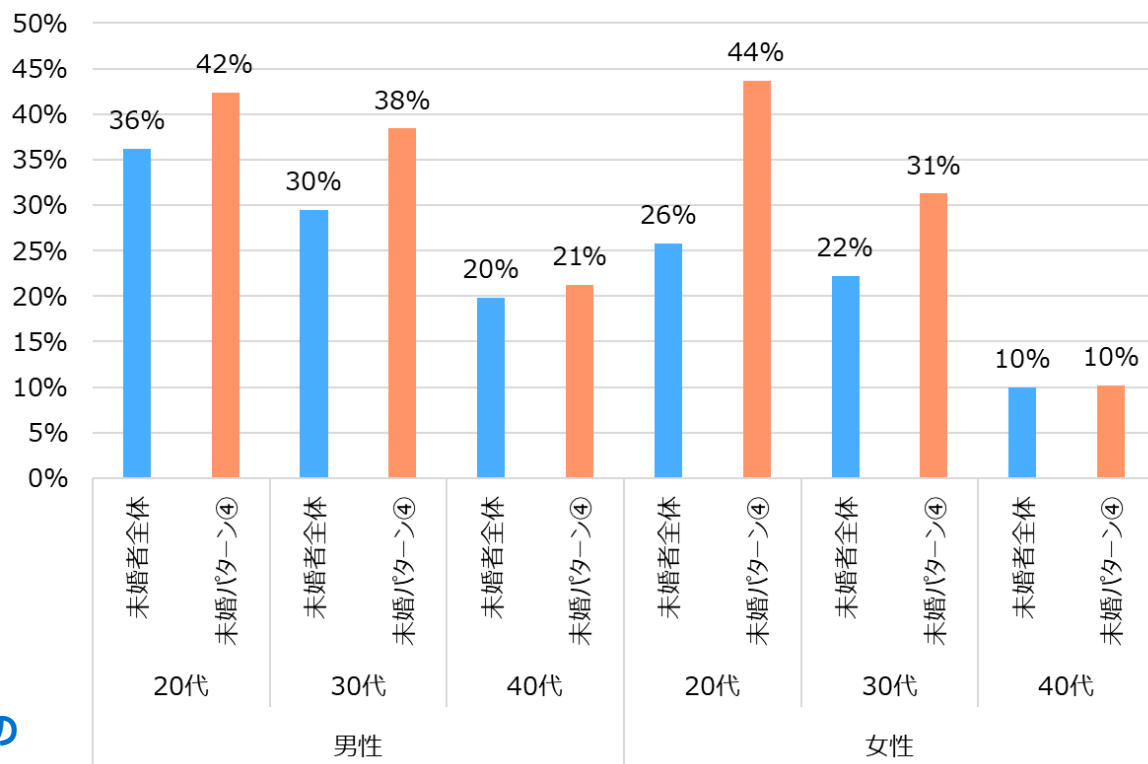


未婚パターン④ 交際経験がない人の割合

- 交際経験がない人の割合を未婚者全体と未婚パターン④で比較すると、いずれの性・年齢においても未婚パターン④の方が高い割合となっている。特に、20代・30代においてその差が大きい。

Q31：これまでに、交際した経験はありますか。ある場合は、直近の交際時期もお答えください。

未婚パターン④と未婚者全体の交際経験がない人の割合



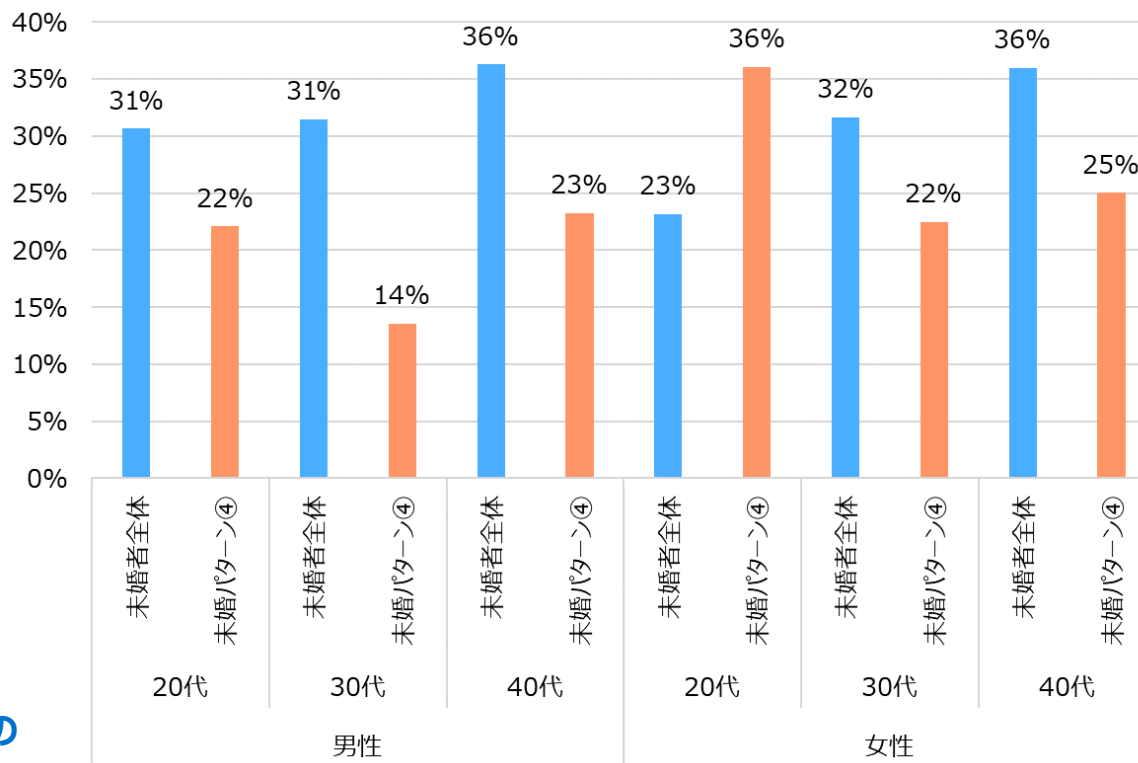
※ 図中棒グラフは「交際経験がない人」の割合を表示

未婚パターン④ 交際意欲がない人の割合

- 交際意欲がない人の割合も同様に未婚者全体と未婚パターン④で比較すると、20代女性を除く全ての性・年齢において、未婚パターン④の方が低い割合となっている。

Q37：あなたは現在、交際相手が欲しいと思っていますか？

未婚パターン④と未婚者全体の交際意欲がない人の割合



※ 図中棒グラフは「交際意欲がない人」の割合を表示

未婚パターン④ まとめと政策面での課題

- これまでの分析を踏まえ、億劫だと感じるために恋活・婚活できていない、と回答している層の人物像は、以下のようなものであることが推測される。

1 経済的/時間的な制約は 特段大きくない

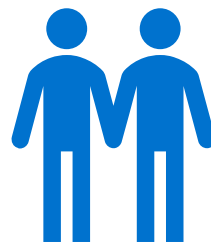
未婚者全体と比べ、年収水準は若干高い傾向にあり、1日あたり平均勤務時間も特別多い水準ではない

2 独り身であることには寂しさを感じている

交際意欲は比較的高い傾向にあり、新型コロナウイルスによる感染拡大により寂しさを募らせている

3 交際経験が少ないため、 恋活・婚活に踏み切れない

交際経験のない人の割合が未婚者全体と比べ高く、恋活・婚活の心理的ハードルが高い



- ☑ 独り身であることには寂しさを感じ、交際意欲は高いものの、交際経験が少ないために恋活・婚活の心理的ハードルが高く、実際の活動に踏み切れていないと考えられる。
- ☑ こうした層については、結婚を意識した出会いの前段階として、まず異性と気軽に交流する機会を持たせ、交際する経験を積んでいただく必要があるのではないかと。

2-4 : 詳細② (結婚したいが活動方法がない/わからないと回答している層の分析)

(参考) 未婚パターン⑤ サンプルサイズ

- 分析対象のサンプルサイズは以下の通り。
- 男性・女性ともに、年代別のサンプルサイズが小さいことから、基本的には各性別の数値を比較する。

	サンプルサイズ	割合
男性	56	51.9%
年代別内訳		
20代	17	15.7%
30代	19	17.6%
40代	20	18.5%

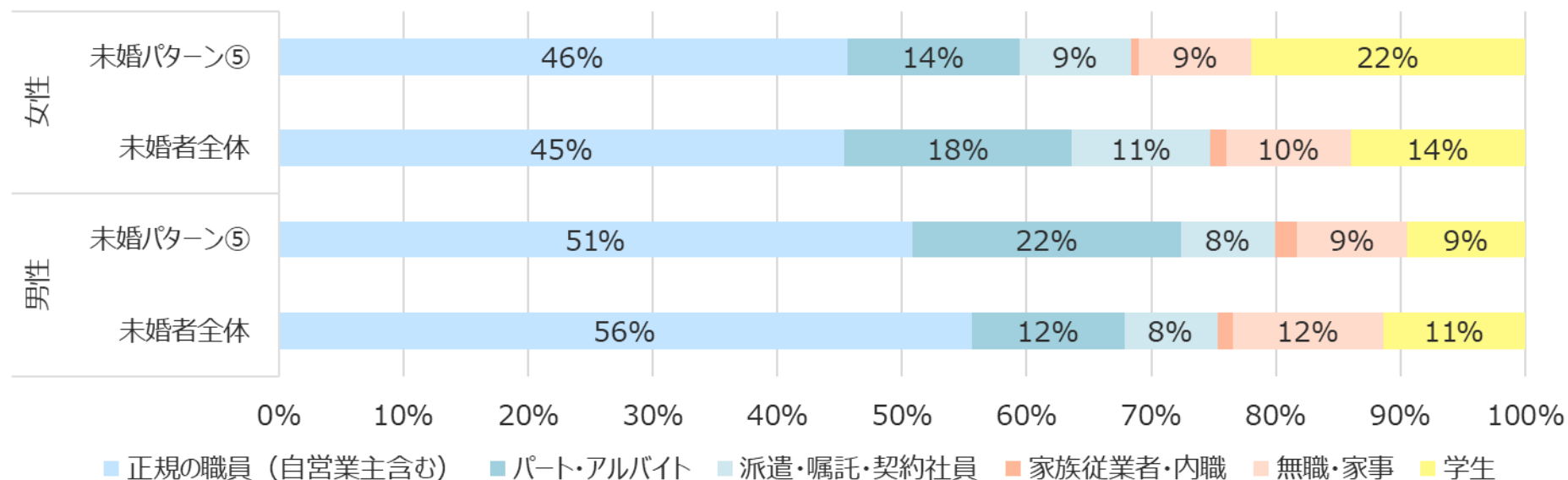
	サンプルサイズ	割合
女性	52	48.1%
年代別内訳		
20代	23	21.3%
30代	15	13.9%
40代	14	13.0%

未婚パターン⑤ 雇用形態

- 雇用形態を未婚者全体と未婚パターン⑤で比較すると、未婚パターン⑤において、男女ともに正規の職員（自営業主含む）が少ない傾向。また男女別には、女性では学生が多く、男性はパート・アルバイトが多い傾向。

Q7：現在のご職業（雇用形態）を教えてください。

未婚パターン⑤と未婚者全体の雇用形態の割合

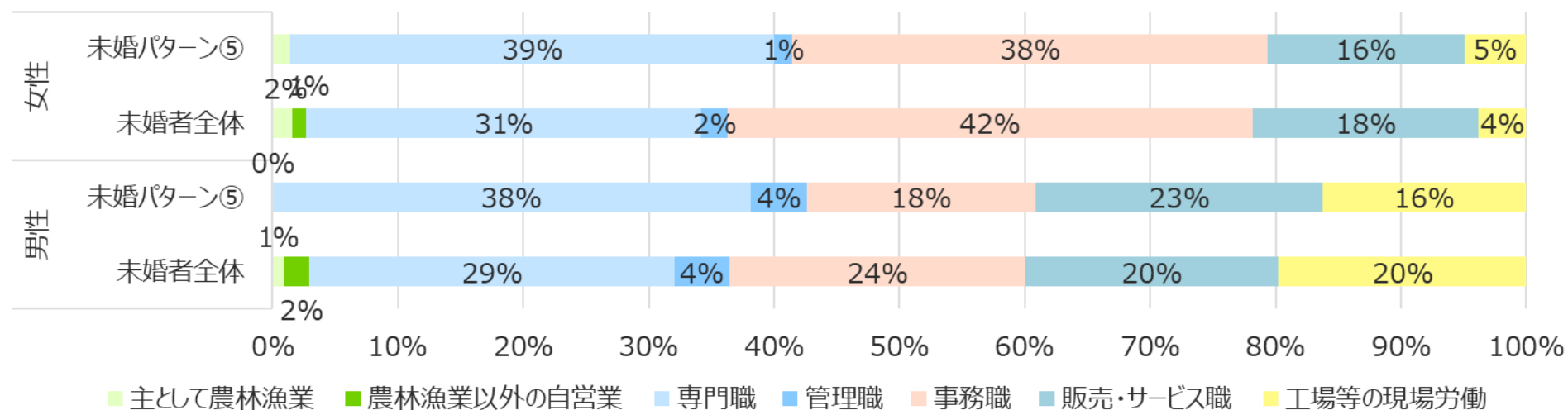


未婚パターン⑤ 職種

- 職種を未婚者全体と未婚パターン⑤で比較すると、全体において元々専門職の割合が高い結果となっているが、未婚パターン⑤において、男女ともに専門職が多く、事務職が少ない傾向。

Q10：職種について教えてください。

未婚パターン⑤と未婚者全体の職種の割合

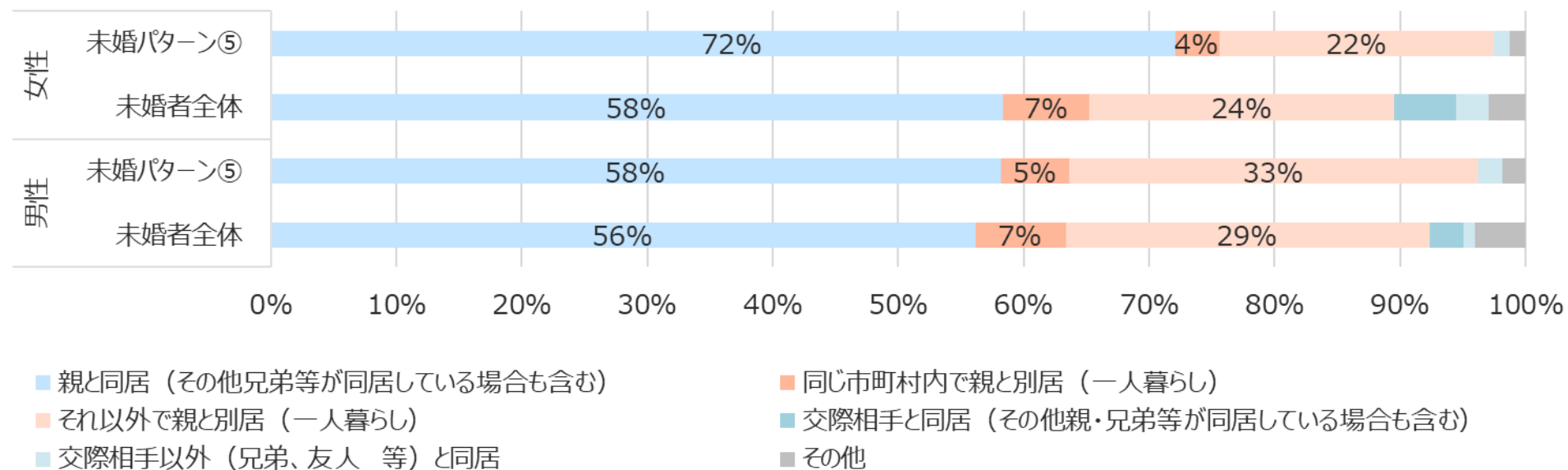


未婚パターン⑤ 居住形態

- 居住形態を未婚者全体と未婚パターン⑤で比較すると、未婚パターン⑤のうち特に女性において、「親と同居」と回答している割合が全体と比較して高い割合である。

Q24：現在の居住形態（どなたとお住まいになられているか）についてお答えください。

未婚パターン⑤と未婚者全体の居住形態の割合

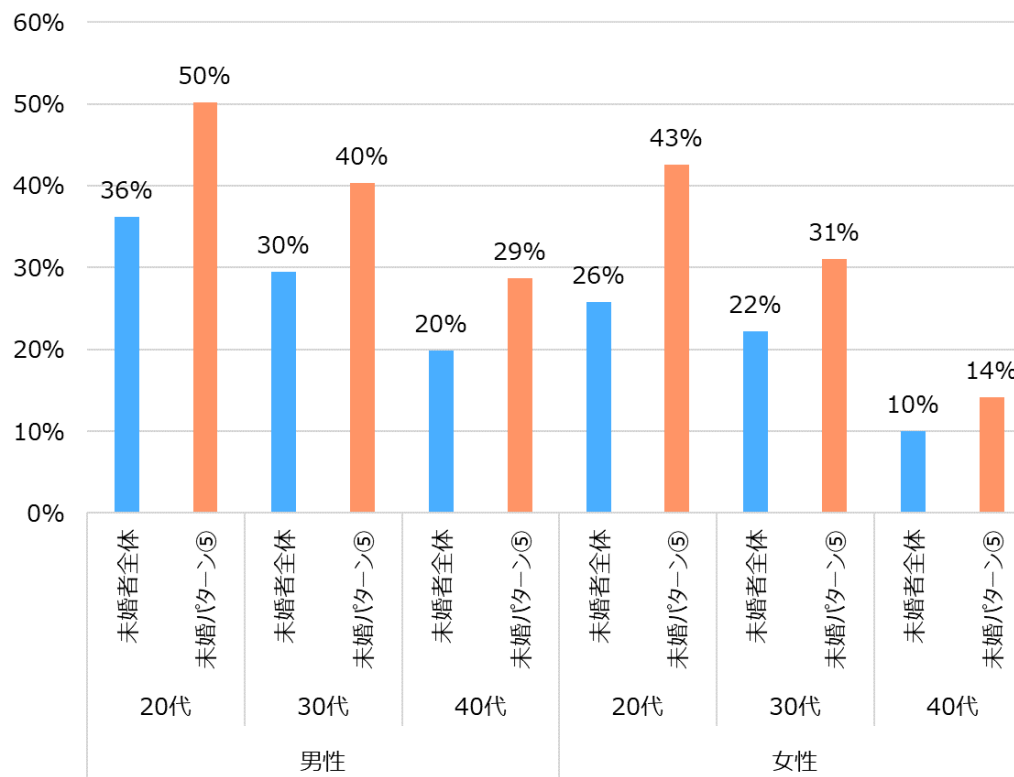


未婚パターン⑤ 交際経験がない人の割合

- 交際経験がない人の割合を未婚者全体と未婚パターン⑤で比較すると、いずれの性・年齢別においても未婚パターン⑤の方が高い割合となっている。特に、20代・30代においてその差が大きい。

Q31：これまでに、交際した経験はありますか。ある場合は、直近の交際時期もお答えください。

未婚パターン⑤と未婚者全体の交際経験がない人の割合



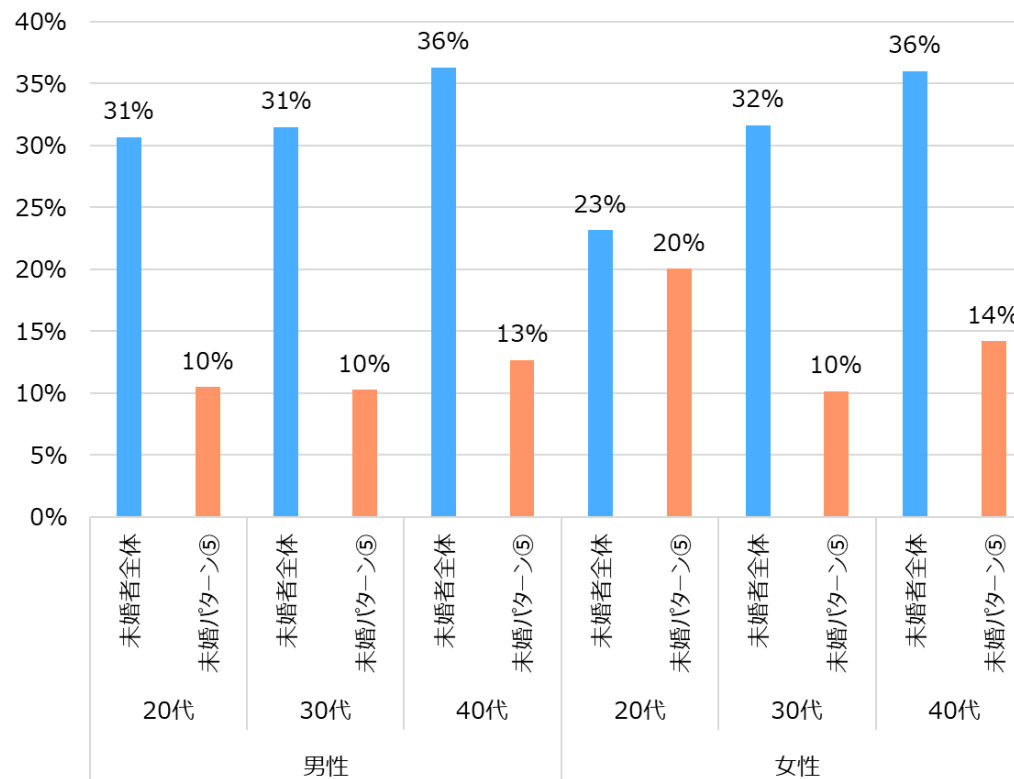
※図中棒グラフは「交際経験がない人」の割合を表示

未婚パターン⑤ 交際意欲がない人の割合

- 交際意欲がない人の割合も同様に未婚者全体と未婚パターン⑤で比較すると、未婚パターン⑤の方が低い割合となっている。特に男性の20代における全体との差（21pt）は、女性の20代における差（3pt）と比較し大きい傾向。（30代では差は同等程度）

Q37：あなたは現在、交際相手が欲しいと思っていますか？

未婚パターン⑤と未婚者全体の交際意欲がない人の割合



※図中棒グラフは「交際意欲がない人」の割合を表示

未婚パターン⑤ 異性とのコミュニケーション（機会）

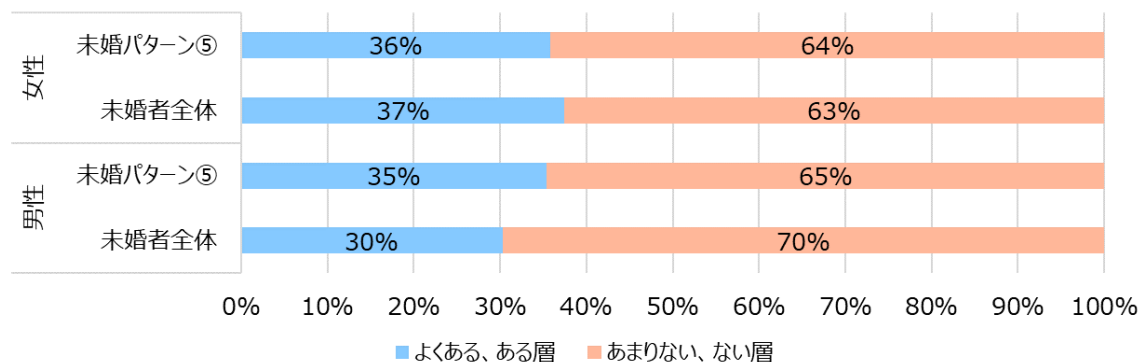
- 異性とのコミュニケーションにおける機会について未婚者全体と未婚パターン⑤で比較すると、未婚パターン⑤のうち特に女性において、異性全般とのコミュニケーション頻度は差がないが、交際対象となりうる異性については頻度が低い傾向。

Q35：異性とのコミュニケーション頻度についてお答えください。

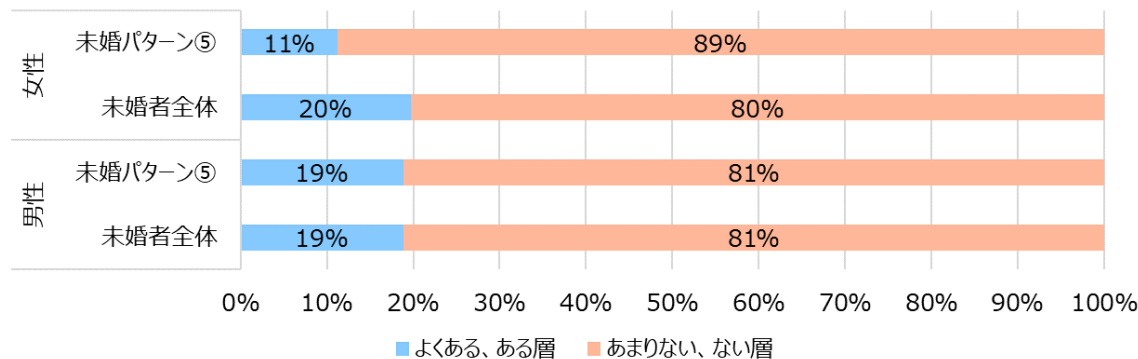
※業務上の会話等は含む、挨拶のみは除く ※オンラインコミュニケーション含む

未婚パターン⑤と未婚者全体の異性とのコミュニケーション（機会）の割合

普段から接する、
異性全般
(家族除く)



普段から接する、
交際の対象範囲
となるような異性



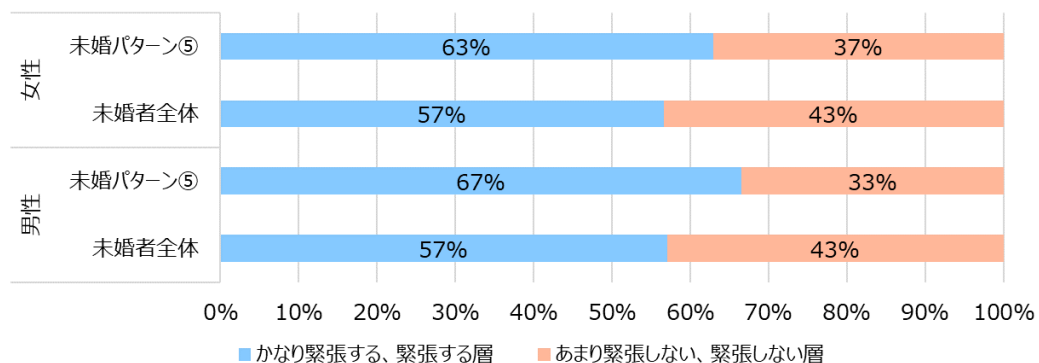
未婚パターン⑤ 異性とのコミュニケーション（緊張）

- 異性とのコミュニケーションにおける緊張について未婚者全体と未婚パターン⑤で比較すると、未婚パターン⑤において、普段接する異性については全体と差が大きいは見られないが、初めて会話する異性については男女ともに緊張する割合が高い傾向。

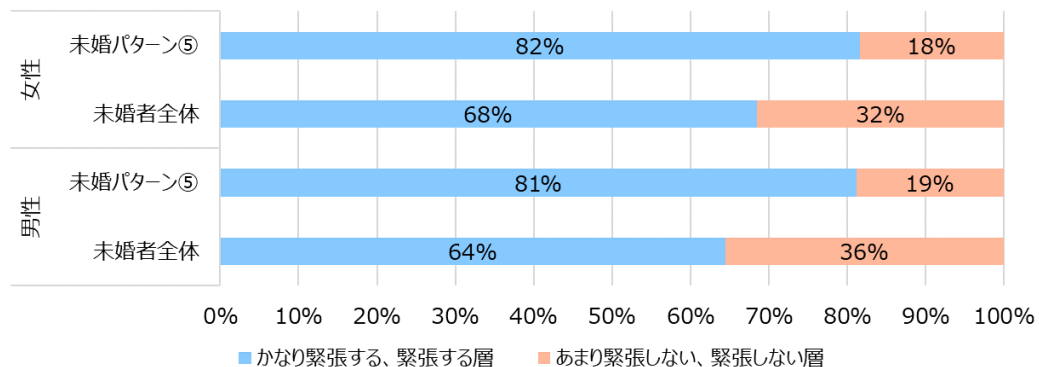
Q36：異性とコミュニケーションをとる際に緊張されるか、お答えください。

未婚パターン⑤と未婚者全体の異性とのコミュニケーション（緊張）の割合

普段から接する、
交際の対象範囲
となるような異性



初めて会話する、
交際の対象範囲
となるような異性

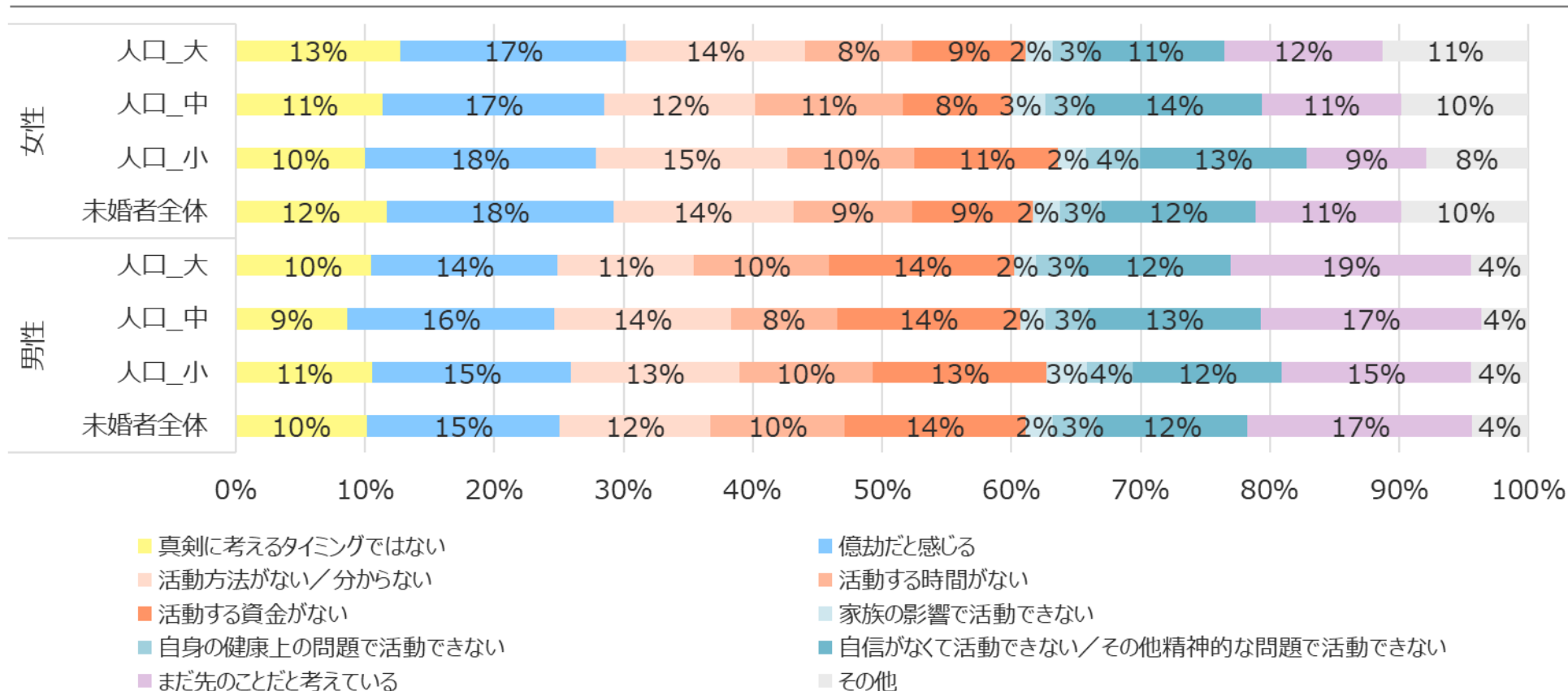


未婚パターン⑤ 活動しない理由（居住地人口別）

- 回答者の居住地の人口別（※）に出会いを意識した活動をしていない理由を比較したところ、大きな差は見られなかった。

Q59：出会いを意識した積極的な活動をしていない理由をお答えください。

未婚パターン⑤と未婚者全体の活動しない理由（居住地人口別）の割合



※回答者の居住地（市区町村）について、総務省「令和2年国勢調査 人口速報集計」に基づき、大・中・小で3分類（詳細次頁）。

(参考) 人口密度別 サンプルサイズ (未婚者全体)

- 回答者について、居住地（市区町村）の人口に応じて概ね均等なサンプルとなるよう3区分したうえで、政令指定都市については人口：大として集計した。

人口：大

	サンプルサイズ	割合
男性	836	49.5%
年代別内訳		
20代	294	17.4%
30代	271	16.0%
40代	271	16.0%

人口：中

	サンプルサイズ	割合
男性	233	49.2%
年代別内訳		
20代	71	15.0%
30代	86	18.1%
40代	76	16.0%

人口：小

	サンプルサイズ	割合
男性	452	50.8%
年代別内訳		
20代	146	16.4%
30代	157	17.6%
40代	149	16.7%

サンプルサイズ 割合

	サンプルサイズ	割合
女性	854	50.5%
年代別内訳		
20代	283	16.7%
30代	281	16.6%
40代	290	17.2%

サンプルサイズ 割合

	サンプルサイズ	割合
女性	241	50.8%
年代別内訳		
20代	94	19.8%
30代	72	15.2%
40代	75	15.8%

サンプルサイズ 割合

	サンプルサイズ	割合
女性	438	49.2%
年代別内訳		
20代	135	15.2%
30代	158	17.8%
40代	145	16.3%

未婚パターン⑤ まとめと政策面での課題

- これまでの分析を踏まえ、結婚を希望しているが活動方法がわからないと回答している層の人物像は、以下のようなものであることが推測される。

1 在学中の学生・専門職層等が中心

学生等でまだ活動方法がわからない等の事情があるか。
また、専門職層の回答割合も全体と比較して高い。

2 異性との会話・交流への障壁が高いと感じている

異性との会話の際の緊張度は非常に高い。親と同居している女性の割合も多い

3 交際経験は少ないが、交際意欲は高い

これまでの交際経験は少ない傾向にあるが、交際はしたいと考えている層が多い



- ☑ 交際意欲は高いことから、ターゲットを絞った出会い・結婚の支援の施策を実施することが有効と考えられる。
- ☑ 一方、異性との会話・交流方法についての障壁が高いと感じている割合が多いことから、最初から直接的な接点を持たせるのではなく、仲介等があったうえで会話・交流を促すような支援が必要なのではないか。

2-5 : 詳細② (結婚したいが時間上の制約があると回答している層の分析)

(参考) 未婚パターン⑥ サンプルサイズ

- 分析対象のサンプルサイズは以下の通り。
- 男性・女性ともに、年代別のサンプルサイズが小さいことから、基本的には各性別の数値を比較する。

	サンプルサイズ	割合
男性	146	56.2%
年代別内訳		
20代	43	16.5%
30代	54	20.8%
40代	49	18.8%

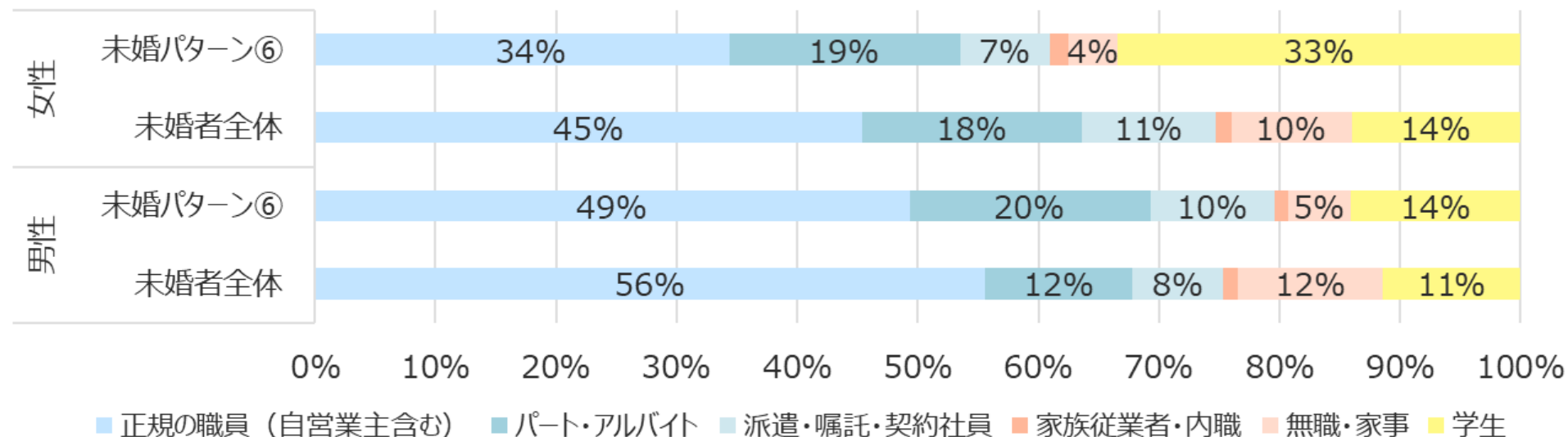
	サンプルサイズ	割合
女性	114	43.8%
年代別内訳		
20代	50	19.2%
30代	34	13.1%
40代	30	11.5%

未婚パターン⑥ 雇用形態

- 雇用形態を未婚者全体と未婚パターン⑥で比較すると、未婚パターン⑥において、男女ともに正規の職員（自営業主含む）が少ない傾向。また男女別には、女性では学生が多く、男性はパート・アルバイトが多い傾向。

Q7：現在のご職業（雇用形態）を教えてください。

未婚パターン⑥と未婚者全体の雇用形態の割合

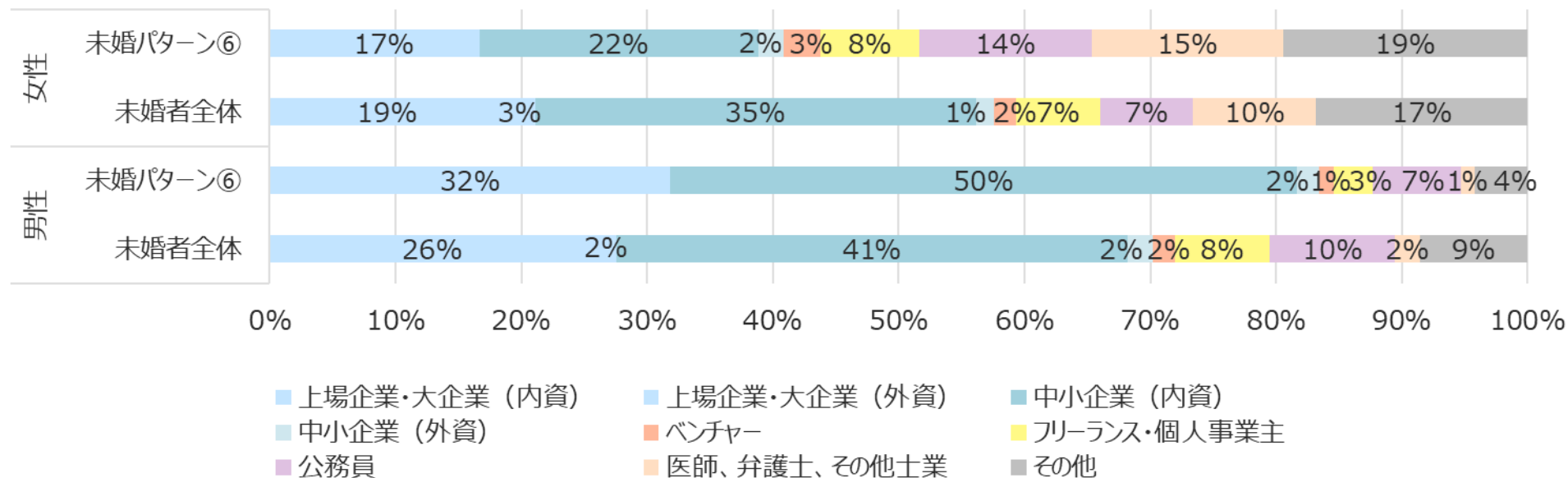


未婚パターン⑥ 会社属性

- 会社属性を未婚者全体と未婚パターン⑥で比較すると、未婚パターン⑥において、女性では公務員および、医師・弁護士・その他土業が多い傾向。また、男性では上場企業・大企業および、中小企業（内資）が多い傾向。

Q9：お勤め先について教えてください。

未婚パターン⑥と未婚者全体の会社属性の割合

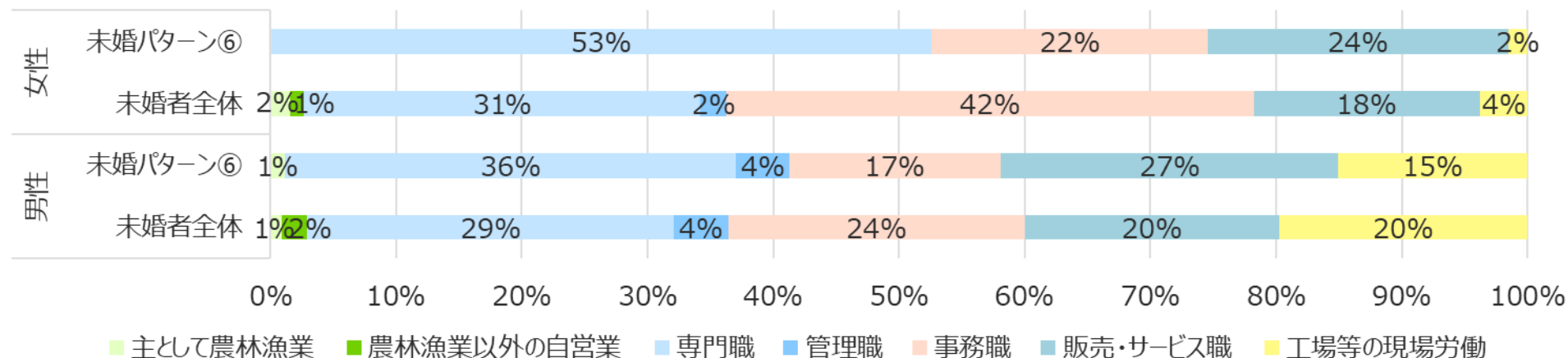


未婚パターン⑥ 職種

- 職種を未婚者全体と未婚パターン⑥で比較すると、未婚パターン⑥において、男女ともに専門職および、販売・サービス職が多い傾向。

Q10：職種について教えてください。

未婚パターン⑥と未婚者全体の職種の割合

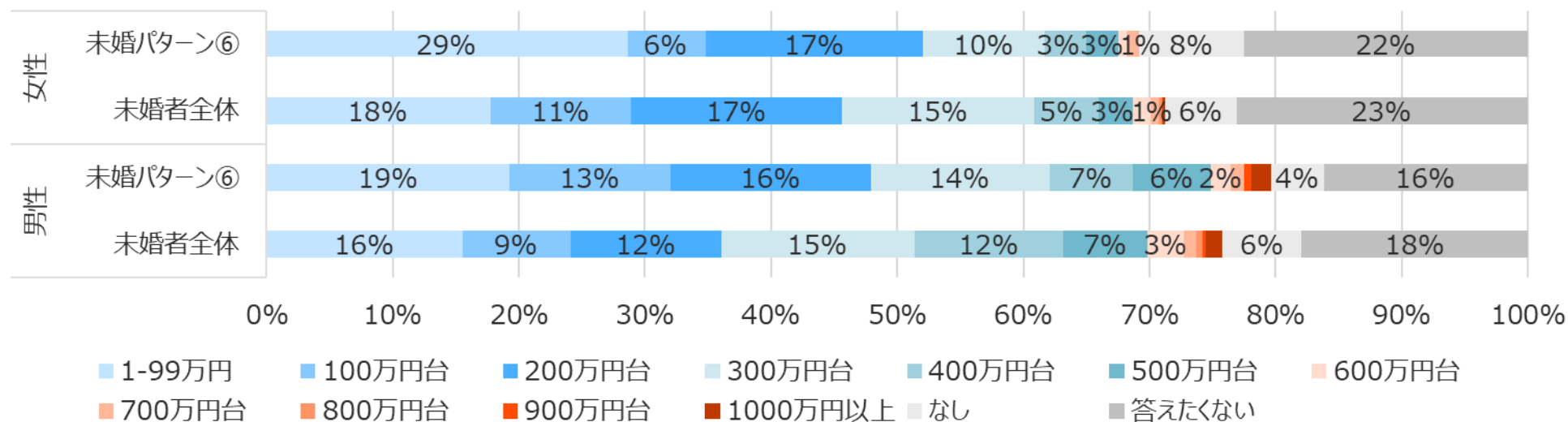


未婚パターン⑥ 年収

- 年収を未婚者全体と未婚パターン⑥で比較すると、未婚パターン⑥において、男女ともに年収200万円以下の割合が高い傾向。男女別には、女性は年収300万円台の割合が全体と比較して小さい傾向にあり、300万円台以上については大きな乖離は見られない。また、男性は全体的に年収300万円台以上の割合が全体と比較して小さい傾向にある。

Q11：令和2年度のあなたの個人年収について教えてください。

未婚パターン⑥と未婚者全体の個人年収の割合

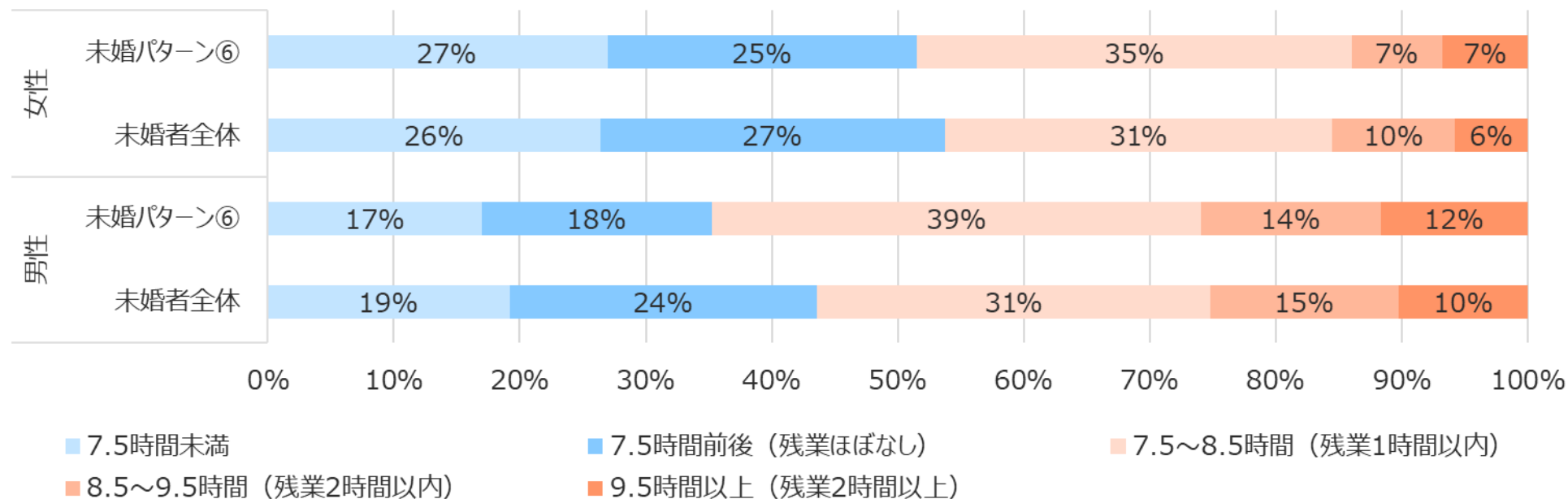


未婚パターン⑥ 1日あたり平均勤務時間

- 1日あたり平均勤務時間を未婚者全体と未婚パターン⑥で比較すると、大きな違いは見受けられないものの、男女ともに7.5～8.5時間および9.5時間以上の割合が高い傾向。

Q13：一日あたりの平均勤務時間について教えてください。

未婚パターン⑥と未婚者全体の1日あたり平均勤務時間の割合

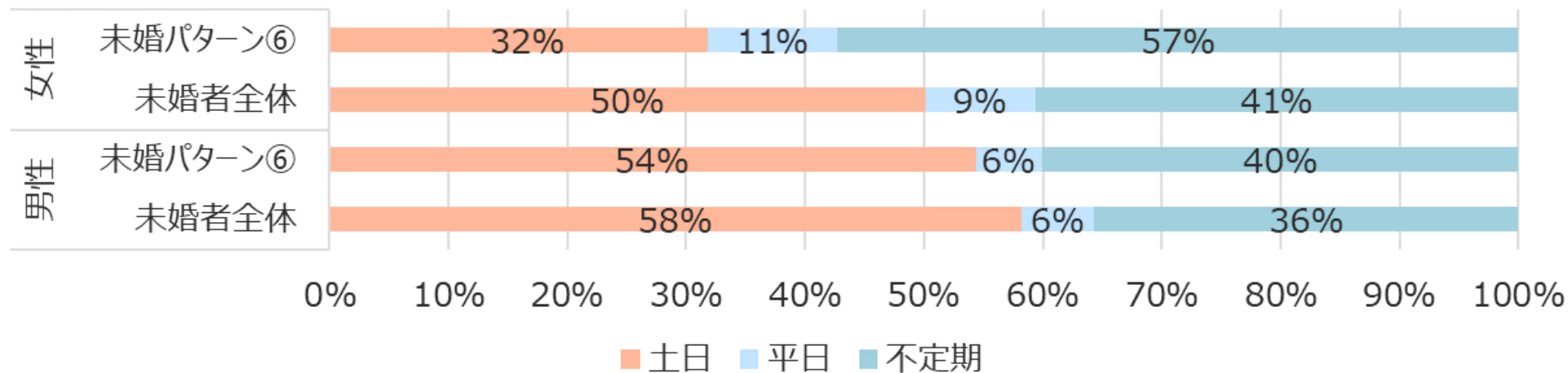


未婚パターン⑥ 休日

- 休日を未婚者全体と未婚パターン⑥で比較すると、未婚パターン⑥において、特に女性では不定期の割合が高い傾向。

Q15：休日について教えてください。

未婚パターン⑥と未婚者全体の休日の割合

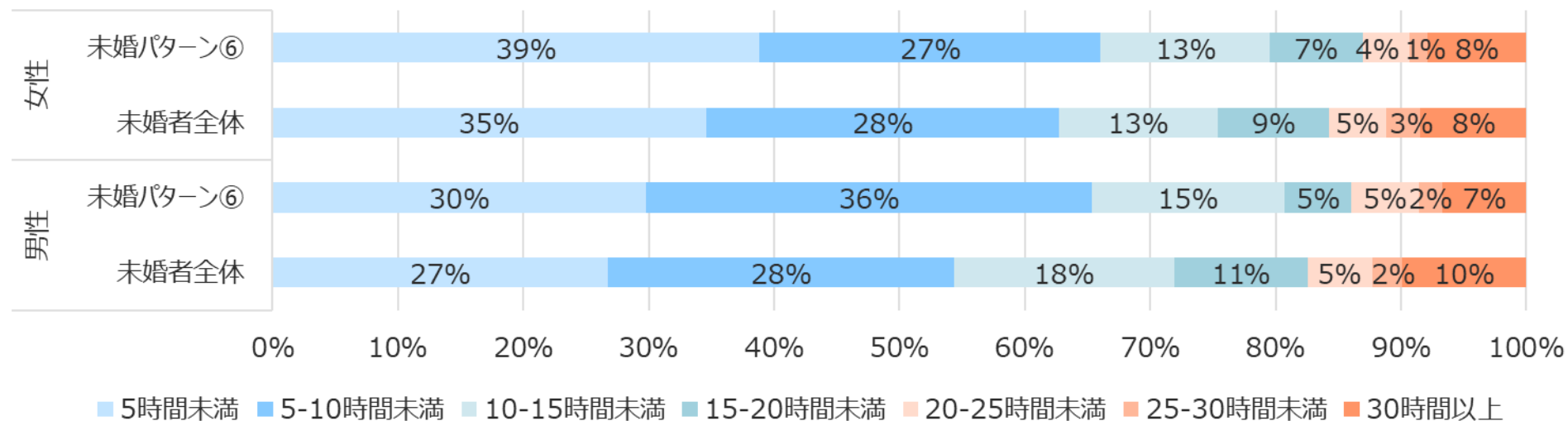


未婚パターン⑥ 趣味

- 趣味に費やす時間を未婚者全体と未婚パターン⑥で比較すると、男女ともに10時間未満である割合が高い傾向にある。特に男性では、全体と比較して趣味に費やす時間が10時間未満である割合の差が11ptと大きくなっている。

Q16：週あたりの趣味に費やす平均時間を教えてください。
(友人等との付き合いは含む、家族・恋人との時間は除く)

未婚パターン⑥と未婚者全体の趣味の割合

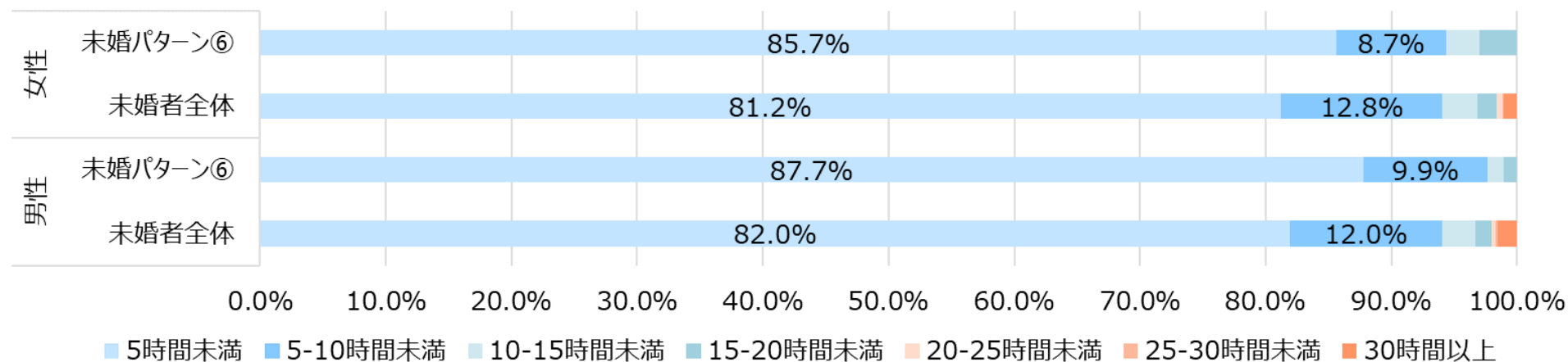


未婚パターン⑥ 趣味（うち、友人と過ごす時間）

- 趣味に費やす時間のうち友人と過ごす時間を未婚者全体と未婚パターン⑥で比較すると、未婚パターン⑥において、男女ともに5時間未満とする割合が高い傾向にある。また、未婚パターン⑥において、20時間以上友人と過ごす割合は0%である。

Q17：週あたりの趣味に費やす平均時間のうち、友人と過ごす平均時間を教えてください。
（家族・恋人との時間は除く）

未婚パターン⑥と未婚者全体の趣味（うち、友人と過ごす時間）の割合

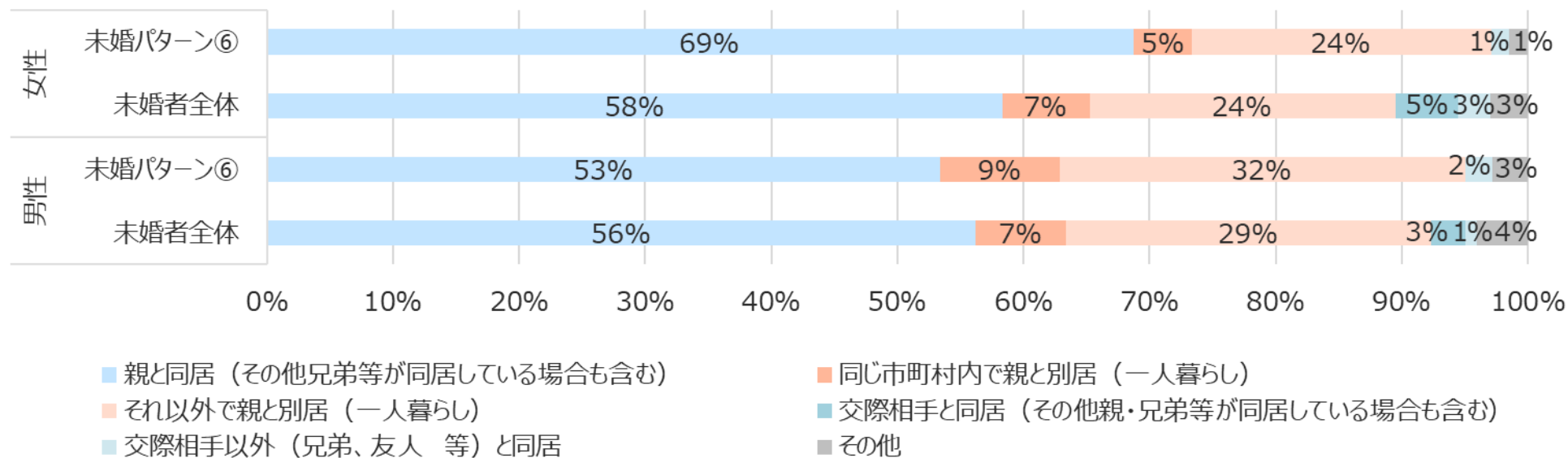


未婚パターン⑥ 居住形態

- 居住形態を未婚者全体と未婚パターン⑥で比較すると、未婚パターン⑥において、特に女性では親と同居の割合が高い傾向。また、男性では一人暮らしの割合が高い傾向。

Q24：現在の居住形態（どなたとお住まいになられているか）についてお答えください。

未婚パターン⑥と未婚者全体の居住形態の割合

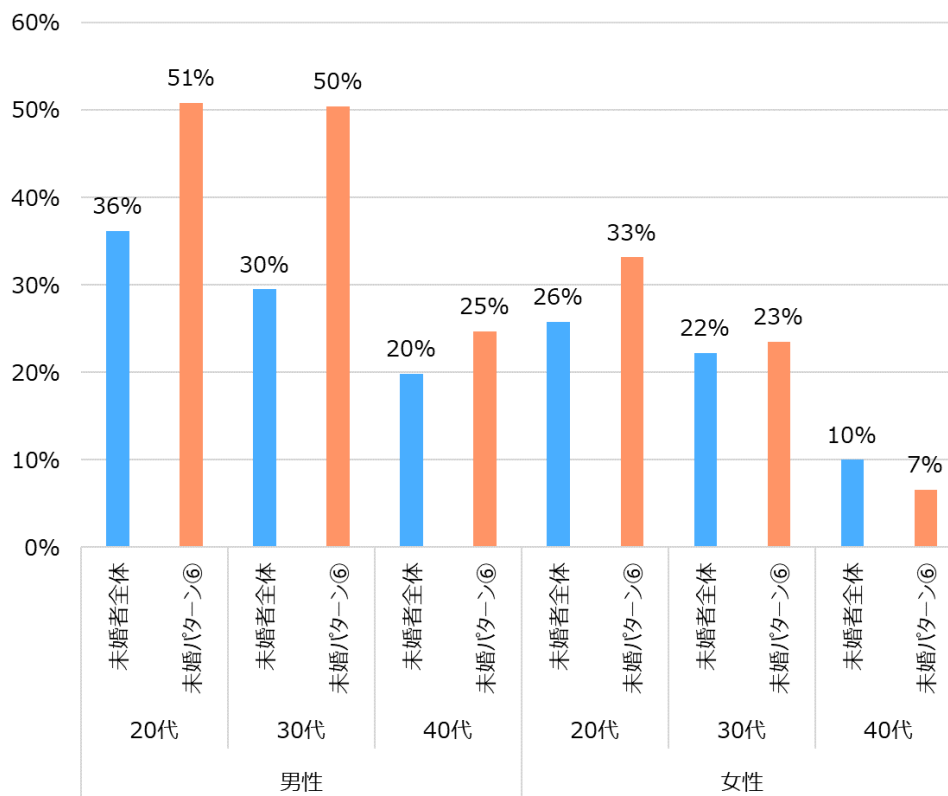


未婚パターン⑥ 交際経験がない人の割合

- 交際経験がない人の割合を未婚者全体と未婚パターン⑥で比較すると、いずれの性・年齢別においても未婚パターン⑥の方が割合が高い傾向。特に、男性の20代・30代においてその差が15pt以上である。

Q31：これまでに、交際した経験はありますか。ある場合は、直近の交際時期もお答えください。

未婚パターン⑥と未婚者全体の交際経験がない人の割合



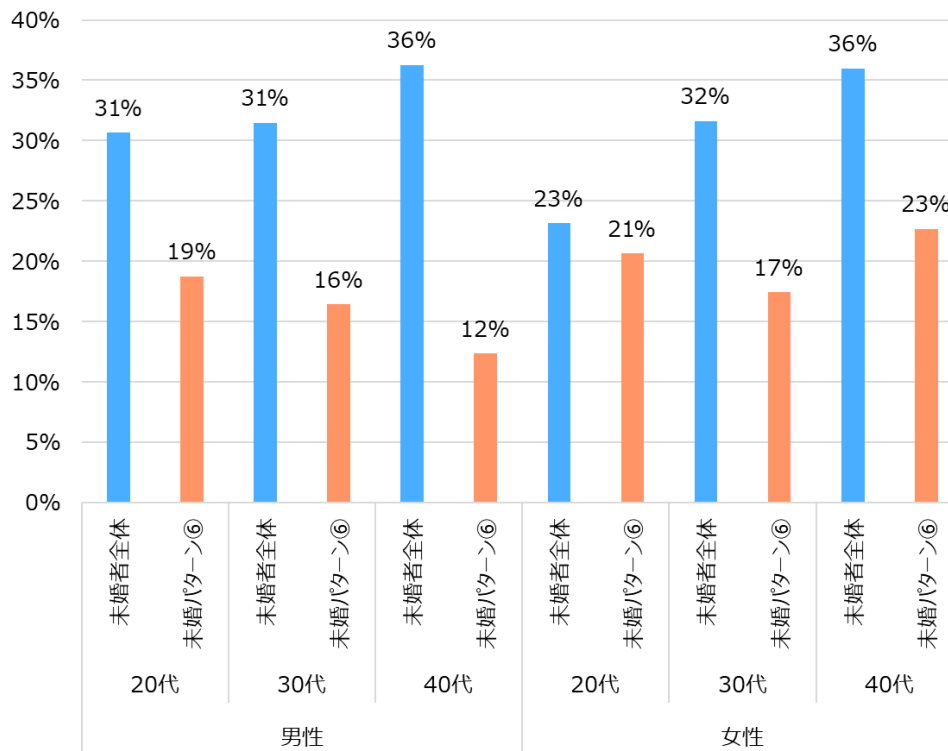
※ 図中棒グラフは「交際経験がない人」の割合を表示

未婚パターン⑥ 交際意欲がない人の割合

- 交際意欲がない人の割合も同様に未婚者全体と未婚パターン⑤と比較すると、未婚パターン⑤の方が低い割合となっている。特に男性の20代における全体との差（12pt）は、女性の20代における差（2pt）と比較し大きい傾向。（30代では差は同等程度）

Q37：あなたは現在、交際相手が欲しいと思っていますか？

未婚パターン⑥と未婚者全体の交際意欲がない人の割合



※ 図中棒グラフは「交際意欲がない人」の割合を表示

未婚パターン⑥ 異性とのコミュニケーション（機会）

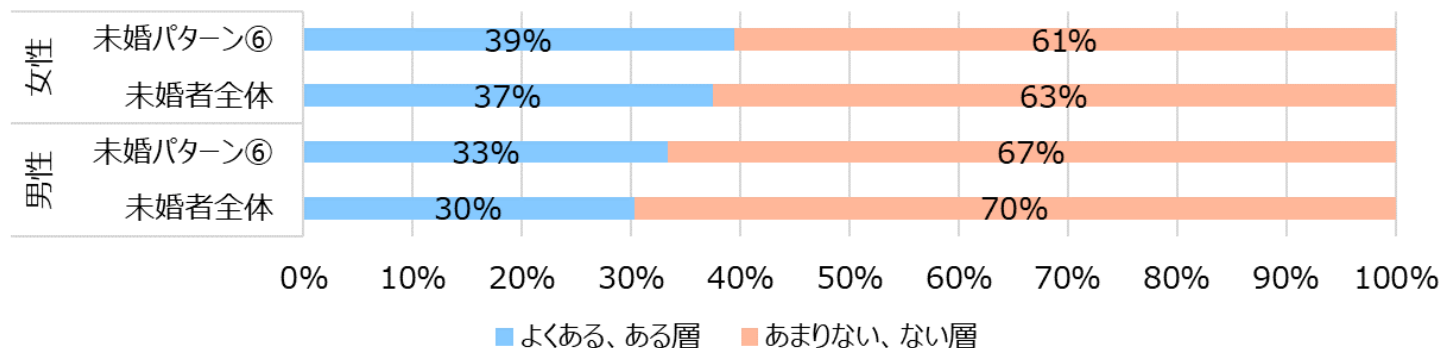
- 異性とのコミュニケーションにおける機会について未婚者全体と未婚パターン⑥で比較すると、未婚パターン⑥において、男女ともに異性全般とのコミュニケーション頻度は全体より割合が高い傾向にあるが、交際対象となりうる異性では特に女性において頻度が低い傾向。

Q35：異性とのコミュニケーション頻度についてお答えください。

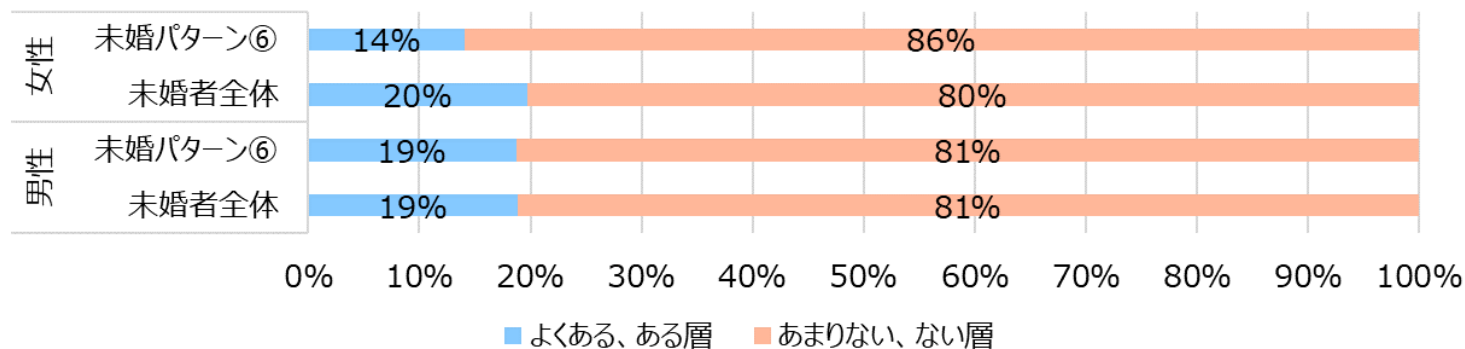
※業務上の会話等は含む、挨拶のみは除く ※オンラインコミュニケーション含む

未婚パターン⑥と未婚者全体の異性とのコミュニケーション（機会）の割合

普段から
異性全般
(家族除く)



普段から交際の
対象範囲と
なるような異性



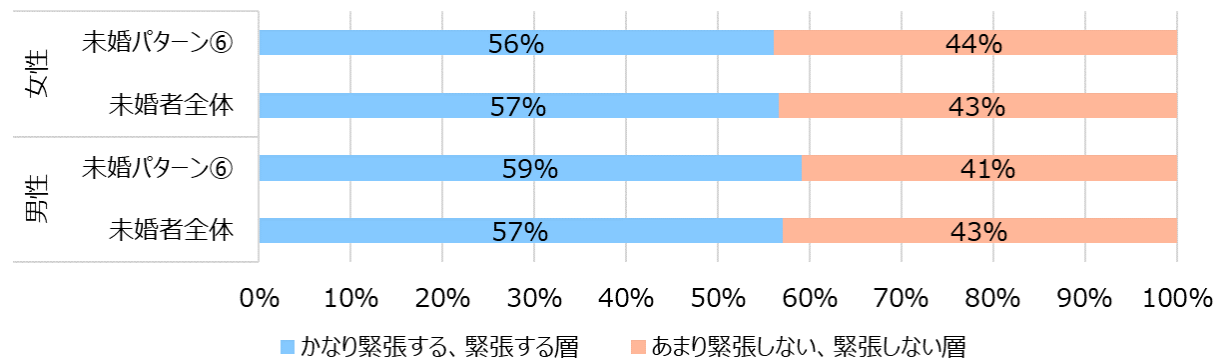
未婚パターン⑥ 異性とのコミュニケーション（緊張）

- 異性とのコミュニケーションにおける緊張について未婚者全体と未婚パターン⑥で比較すると、未婚パターン⑥において、普段接する異性については全体と差が大きくは見られないが、初めて会話する異性については男女ともに緊張する割合が高い傾向。

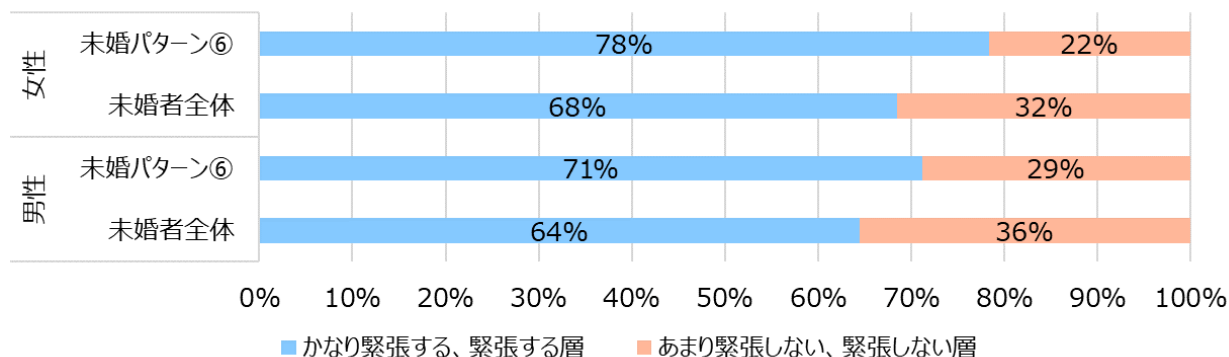
Q36：異性とコミュニケーションをとる際に緊張されるか、お答えください。

未婚パターン⑥と未婚者全体の異性とのコミュニケーション（緊張）の割合

普段から接する、
交際の対象範囲
となるような異性



初めて会話する、
交際の対象範囲
となるような異性



未婚パターン⑥ まとめと政策面での課題

- これまでの分析を踏まえ、時間上の制約があるため婚活ができていない、と回答している層の人物像は、以下のようなものであることが推測されます。

1 労働時間以外が時間制約となっている

【勤務時間】勤務時間について「7.5~8.5時間（残業1時間以内）」「5日以上」が多いことから、労働時間が格別多いわけではない。そのため、時間的制約の要因は「過度な労働によって余暇時間が少ない」のではなく、余暇時間の使い方（余暇時間における活動で「婚活」の優先順位が低い、等）が要因の可能性がある。

3 異性とのコミュニケーションが不慣れであり、交際経験も少ない

【異性とのコミュニケーション】【交際経験】調査結果では特に若年層の女性において異性とのコミュニケーションで緊張する割合が高い。また、交際意欲があるものの、交際経験がない割合が高い。

2 職業柄、休日が不定休でデートの予定がたてづらい

【会社属性】【職種】【休日】女性について会社属性が「公務員」、「医師、弁護士、その他か仕業」、職種で「販売・サービス職」との回答者が多いことから、看護師、介護士、幼稚園教諭等の職では土日に休みが取れないため、デートする機会等が少ない可能性がある。

4 余暇時間を一人で趣味以外に費やしている

【休日】【趣味】不定期が休日の人が多く、また趣味に費やす時間のうち友人と一緒に過ごす時間が少ない（5時間未満）の回答者が多いことから、1人で余暇時間を費やしている。また、そもそも趣味に費やす時間が少ない（～10時間）であるため、家事や勉強等の趣味以外の活動に時間を割かれている可能性がある。



- ✓ ①、②、④については、余暇時間において、タイミングが合うもの同士でのマッチングを促すようにすることが有効であると考えられる。
- ✓ ③については、「婚活」という段階での支援ではなく、まずは「他者（異性）と過ごすこと」の経験を増やし、異性とのコミュニケーションで得られる楽しさ・メリット等を認知してもらう必要があるのではないか。

2-6 : 詳細② (結婚したいが経済的な制約があると回答している層の分析)

未婚パターン⑦ サンプルサイズ

- 分析対象となる未婚パターン⑦のサンプルサイズは以下の通り。
- 男性の割合が多く、年代別に見ると高齢層の方がその割合が多くなっている。
- 年代別のサンプルサイズも一定確保できているが、本報告では性別の分析を紹介する。

	サンプルサイズ	割合
男性	206	62.0%
年代別内訳		
20代	62	18.7%
30代	66	19.9%
40代	78	23.5%

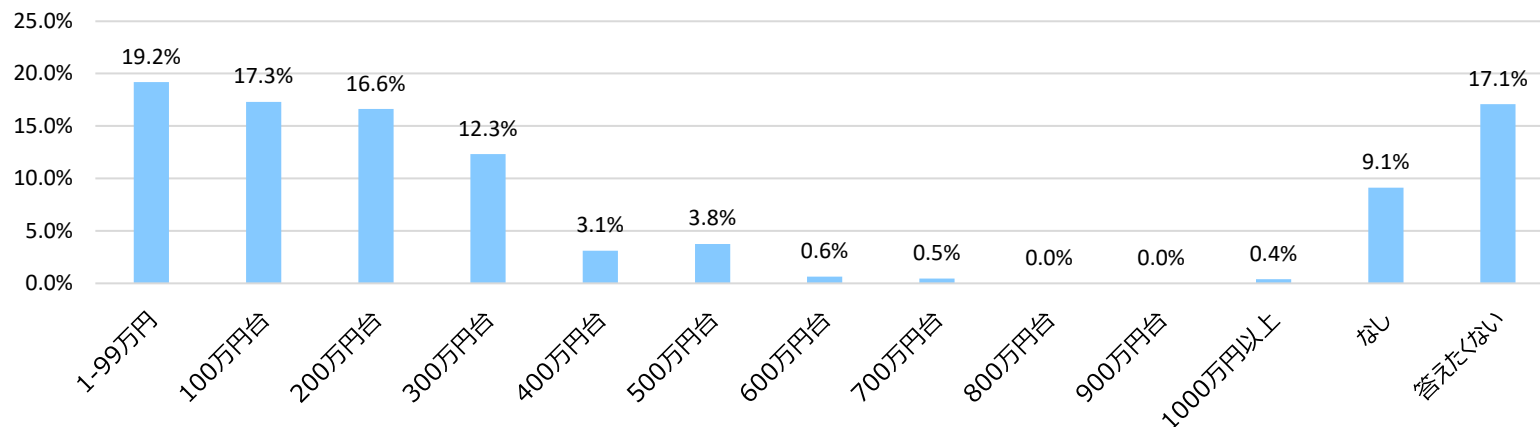
	サンプルサイズ	割合
女性	126	38.0%
年代別内訳		
20代	34	10.2%
30代	43	13.0%
40代	49	14.8%

未婚パターン⑦ 経済面 年収 ～男性～

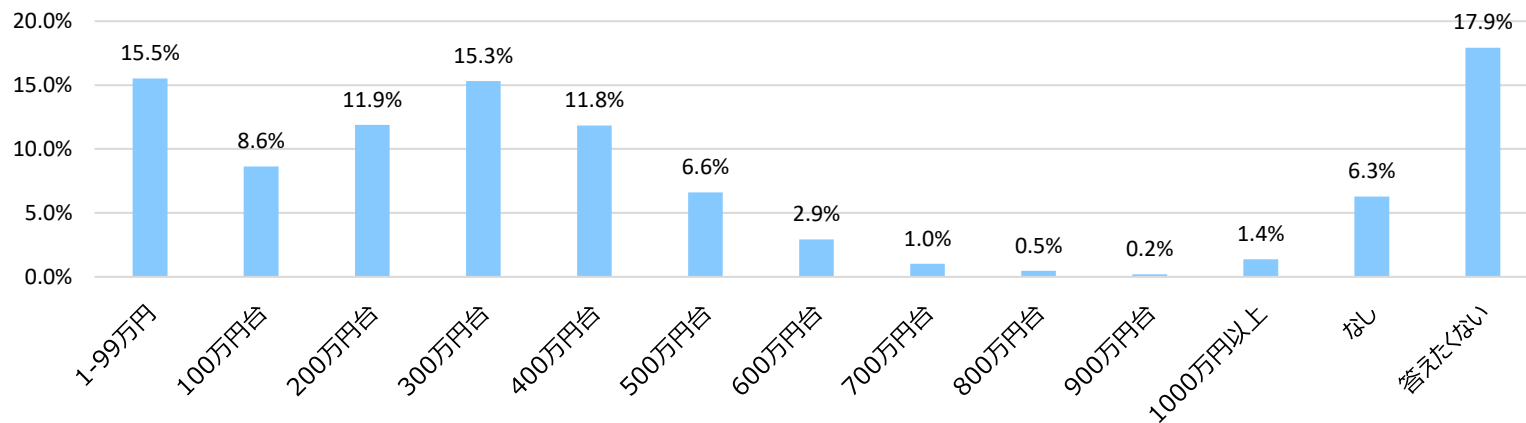
- ・ 経済面を理由として活動できていない層である為、やはり年収の水準は未婚者全体よりも低くなっていることが分かる。

Q11：令和2年度のあなたの個人年収について教えてください。

パターン7対象者の年収（男性）



未婚者全体の年収（男性）

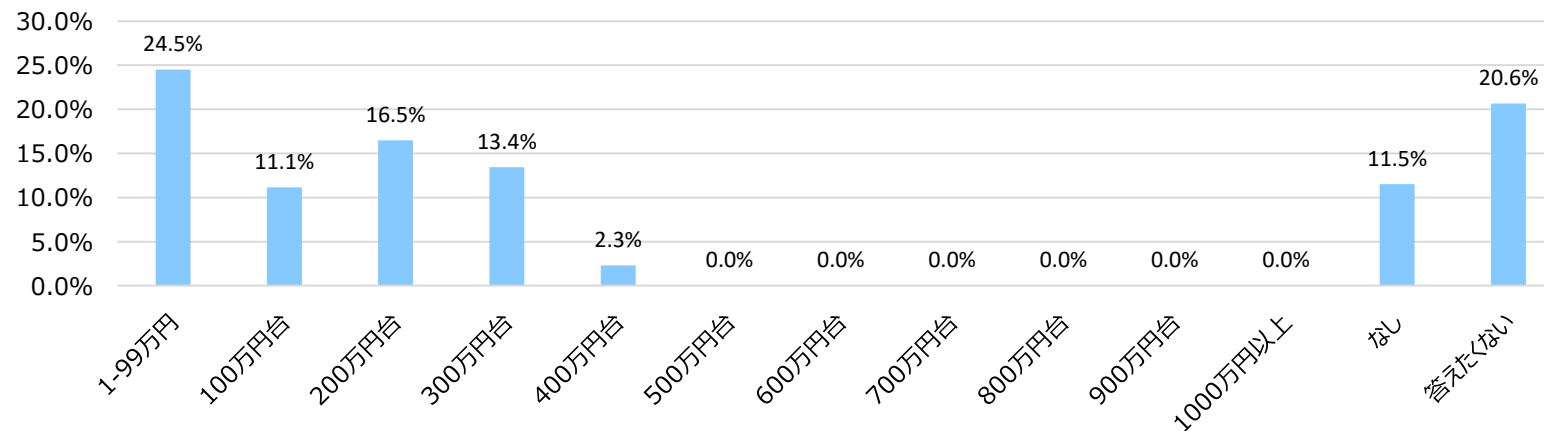


未婚パターン⑦ 経済面 年収 ～女性～

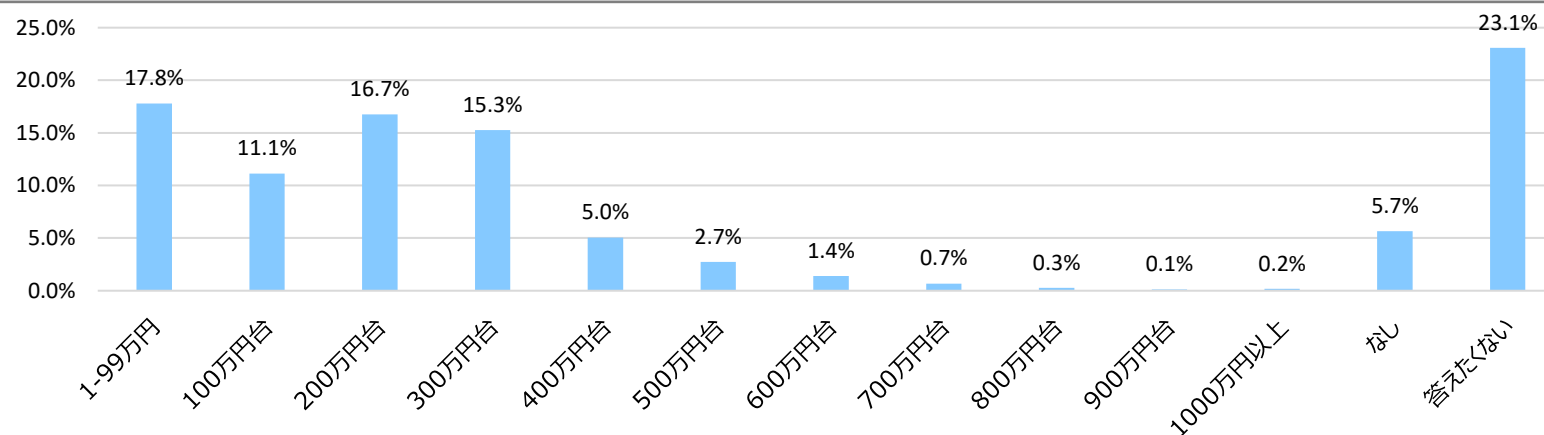
- 経済面を理由として活動できていない層であるが、意外にも女性の年収水準は未婚者全体と大きな差がみられない。

Q11：令和2年度のあなたの個人年収について教えてください。

パターン7対象者の年収（女性）



未婚者全体の年収（女性）

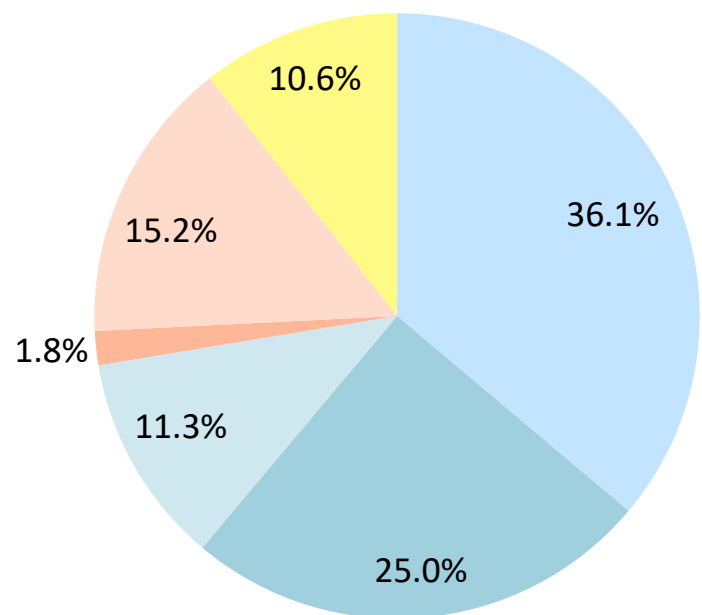


未婚パターン⑦ 雇用形態 ～男性～

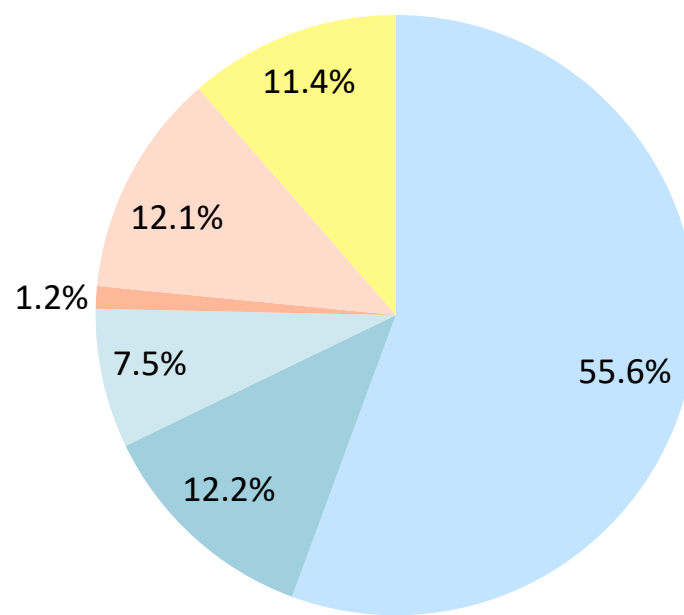
- 雇用形態として、当該パターンの対象者はパート・アルバイトが多く、正規の職員が少なくなっていることが分かる。

Q7：現在のご職業（雇用形態）を教えてください。

パターン⑦の雇用形態（男性）



未婚者全体の雇用形態（男性）



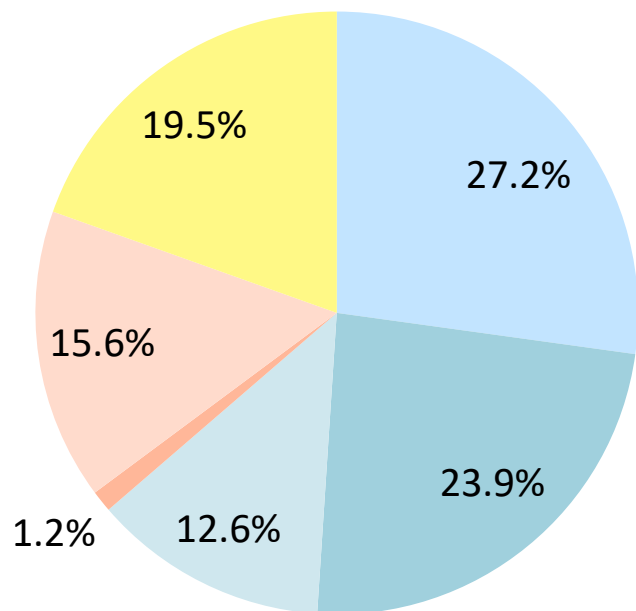
■ 正規の職員（自営業主含む） ■ パート・アルバイト ■ 派遣・嘱託・契約社員 ■ 家族従業者・内職 ■ 無職・家事 ■ 学生

未婚パターン⑦ 雇用形態 ～女性～

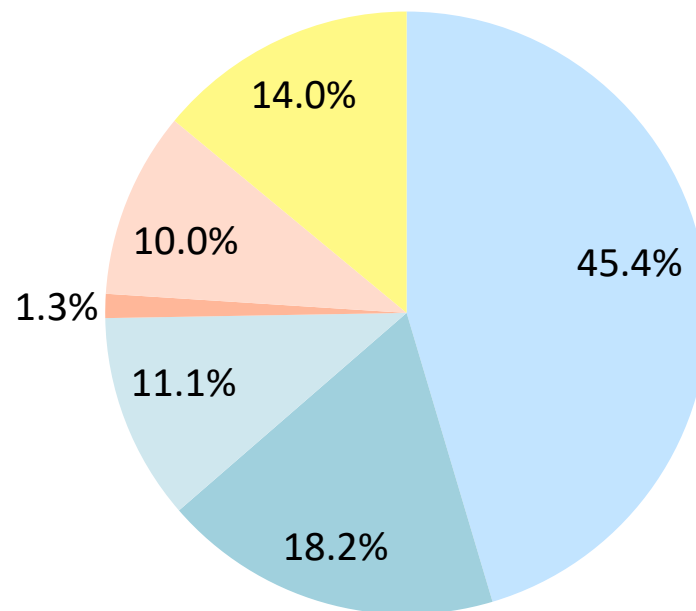
- 雇用形態として、当該パターンの対象者はパート・アルバイトが多く、正規の職員が少なくなっていることが分かる。

Q7：現在のご職業（雇用形態）を教えてください。

パターン⑦の雇用形態（女性）



未婚者全体の雇用形態（女性）



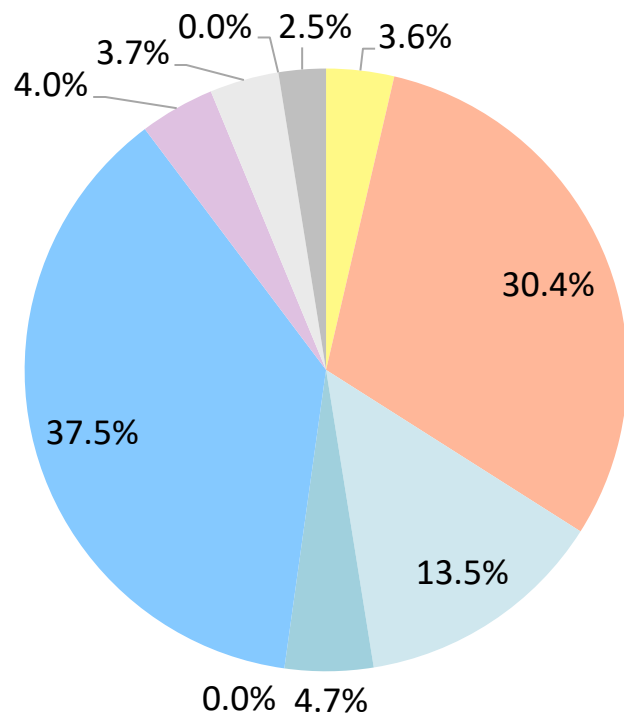
■ 正規の職員（自営業主含む） ■ パート・アルバイト ■ 派遣・嘱託・契約社員 ■ 家族従業者・内職 ■ 無職・家事 ■ 学生

未婚パターン⑦ 最終学歴 ～男性～

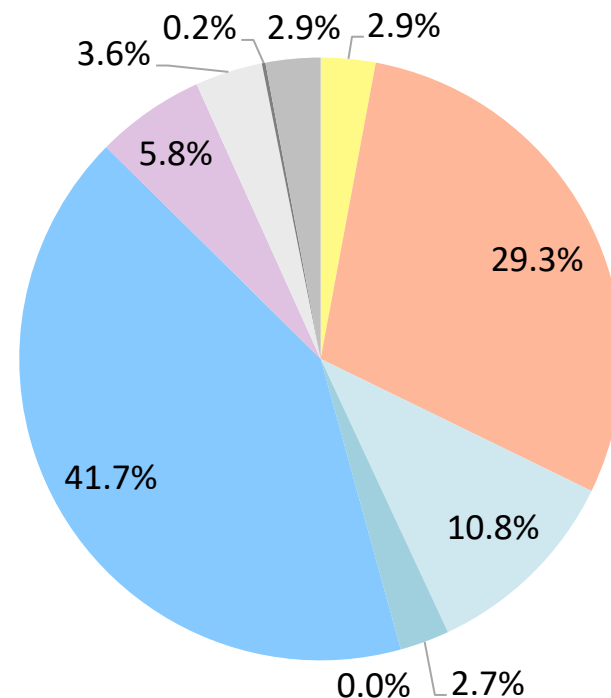
- 他方、最終学歴で見ると未婚者全体と当該パターンの該当者に大きな違いはなかった。
- 学歴に関係なく、前ページに記載の通り雇用形態がパート・アルバイトとなっている人が多くなっていると考えられる。

Q6：最終学歴を教えてください。

パターン⑦の最終学歴（男性）



未婚者全体の最終学歴（男性）



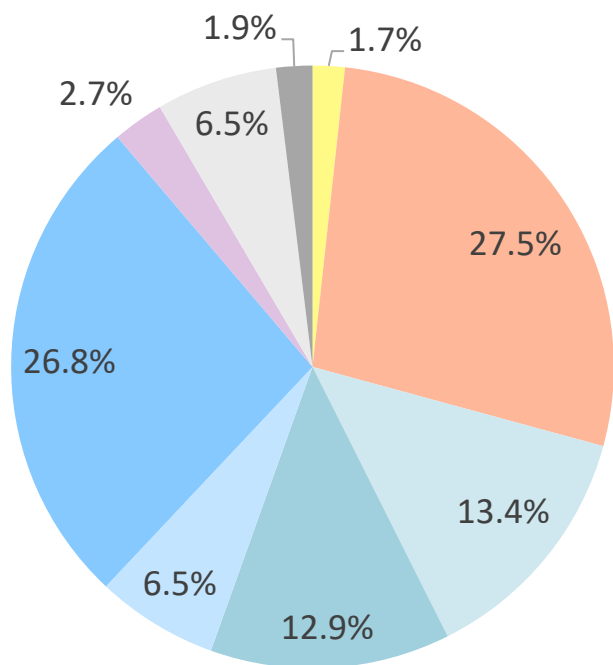
- | | | | | |
|-------------|--------|------------|---------|--------------|
| ■ 中学校 | ■ 高等学校 | ■ 専修・専門学校 | ■ 短大・高専 | ■ 4年生大学（女子大） |
| ■ 4年生大学（共学） | ■ 大学院 | ■ いずれかに在学中 | ■ その他 | ■ 答えたくない |

未婚パターン⑦ 最終学歴 ～女性～

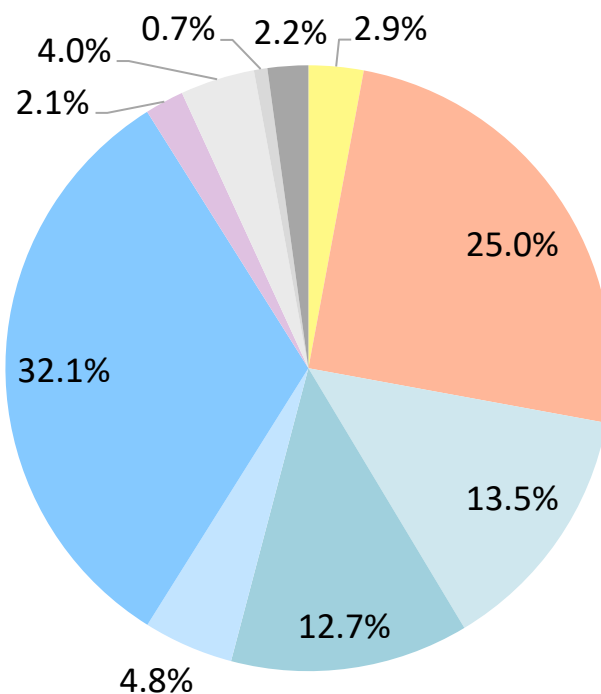
- 他方、最終学歴で見ると未婚者全体と当該パターンの該当者に大きな違いはなかった。
- 学歴に関係なく、前ページに記載の通り雇用形態がパート・アルバイトとなっている人が多くなっていると考えられる。

Q6：最終学歴を教えてください。

パターン⑦の最終学歴（女性）



未婚者全体の最終学歴（女性）



- | | | | | |
|-------------|--------|------------|---------|--------------|
| ■ 中学校 | ■ 高等学校 | ■ 専修・専門学校 | ■ 短大・高専 | ■ 4年生大学（女子大） |
| ■ 4年生大学（共学） | ■ 大学院 | ■ いずれかに在学中 | ■ その他 | ■ 答えたくない |

未婚パターン⑦ まとめと政策面での課題

- これまでの分析を踏まえ、経済面の制約があり結婚に向けた活動ができていないと回答している層の人物像は、以下のようなものであることが推測される。

1 男性は年収が低水準となっており、実際に経済的に活動することが難しい

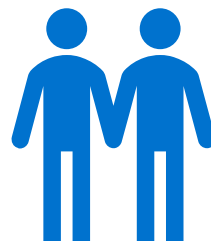
男性の当該未婚パターンの対象者の年収は未婚者全体より低水準であった。

2 雇用形態（非正規）が結婚に向けた活動の意欲に悪影響を及ぼしている

当該未婚パターンの対象者は正規の職員割合が顕著に低かった。（男女とも）

3 女性は自身の年収が婚活意欲に影響を及ぼしていない （活動に関する経済面の捉え方が異なる層が存在）

女性の年収水準は未婚者全体と大きな差がなかった。



- ☑ 男性に関しては、経済的な支援（一時的な支援ではなく、年収の増加）の必要性が高いと考えられる。
- ☑ また、男女ともにパート・アルバイト等からより安定する正規の職員になることを促すことができれば、活動に向けた意欲向上に繋がる可能性がある。（併せて年収の増加も期待される。）

2-7 : 詳細② (結婚したいが精神面の問題があると回答している層の分析)

(参考) 未婚パターン⑩ サンプルサイズ

- 分析対象のサンプルサイズは以下の通り。
- 男性・女性ともに、20代～40代まで一定のサンプルサイズが確保できているため、基本的には各性別・各年代の数値を比較する。

	サンプルサイズ	割合
男性	182	49.7%
年代別内訳		
20代	51	13.9%
30代	65	17.8%
40代	66	18.0%

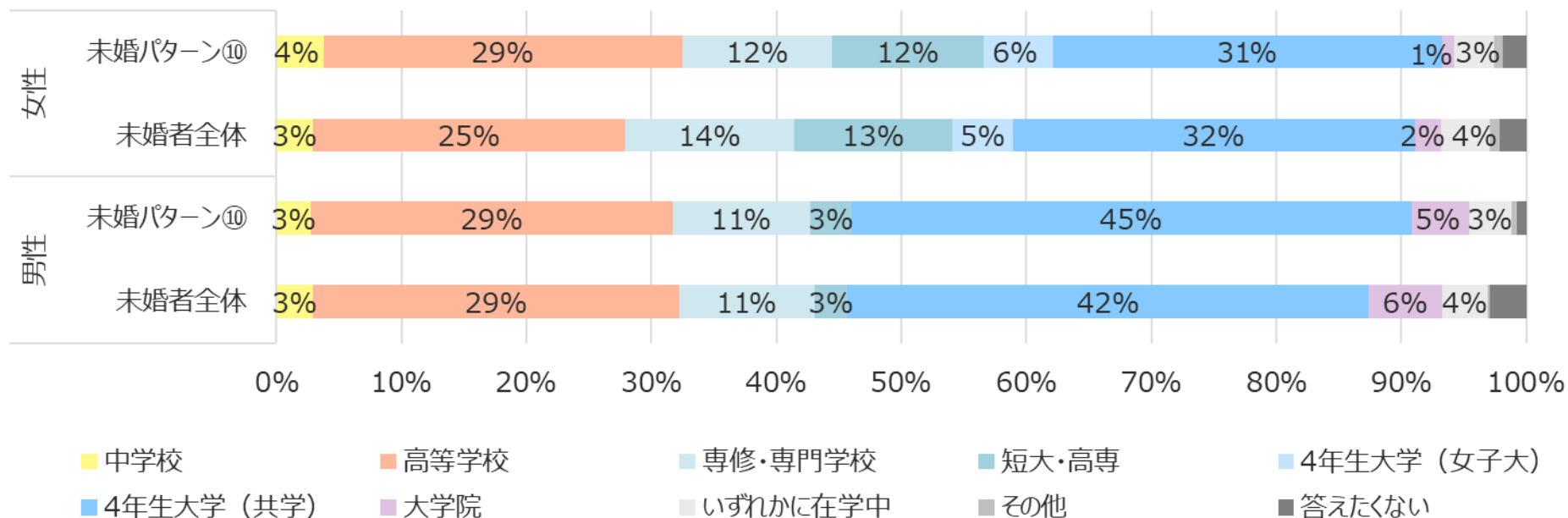
	サンプルサイズ	割合
女性	184	50.3%
年代別内訳		
20代	51	13.9%
30代	69	18.9%
40代	64	17.5%

未婚パターン⑩ 最終学歴

- 最終学歴を未婚者全体と未婚パターン⑩で比較すると、未婚パターン⑩において、女性では高等学校が若干多く、男性では4年生大学（共学）が若干多い等の違いが見受けられる（ただし、大きな乖離は見られない）。

Q6：最終学歴を教えてください。

未婚パターン⑩と未婚者全体の最終学歴

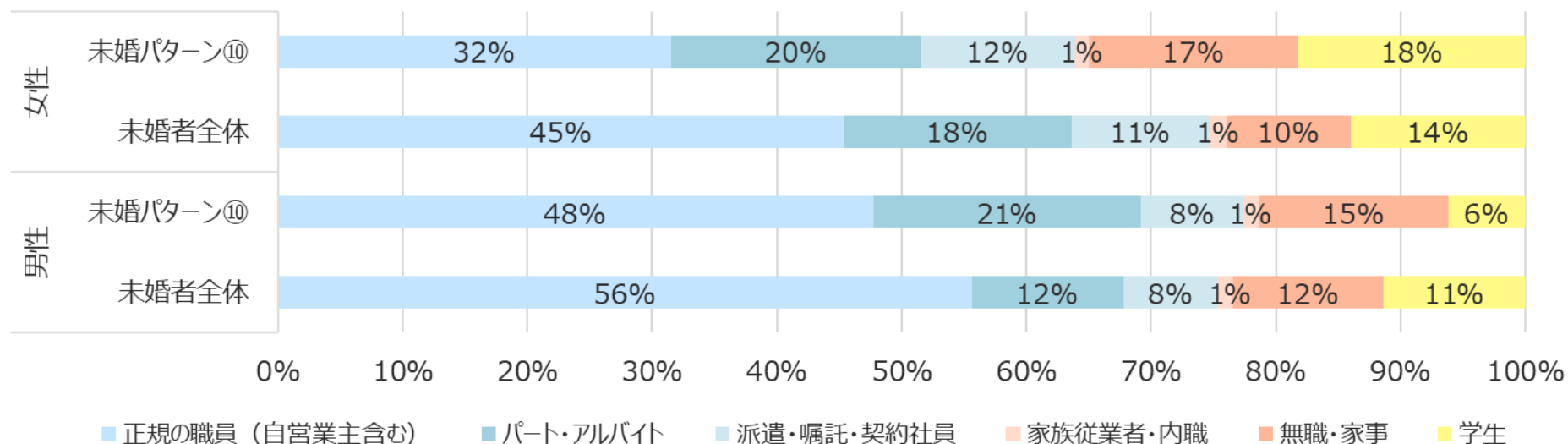


未婚パターン⑩ 雇用形態

- 雇用形態を未婚者全体と未婚パターン⑩で比較すると、未婚パターン⑩において、男女ともに正規の職員（自営業主含む）が少ない傾向にあり、男性ではパート・アルバイトや無職・家事が多く、女性では無職・家事や学生が多い傾向。

Q7：現在のご職業（雇用形態）を教えてください。

未婚パターン⑩と未婚者全体の雇用形態

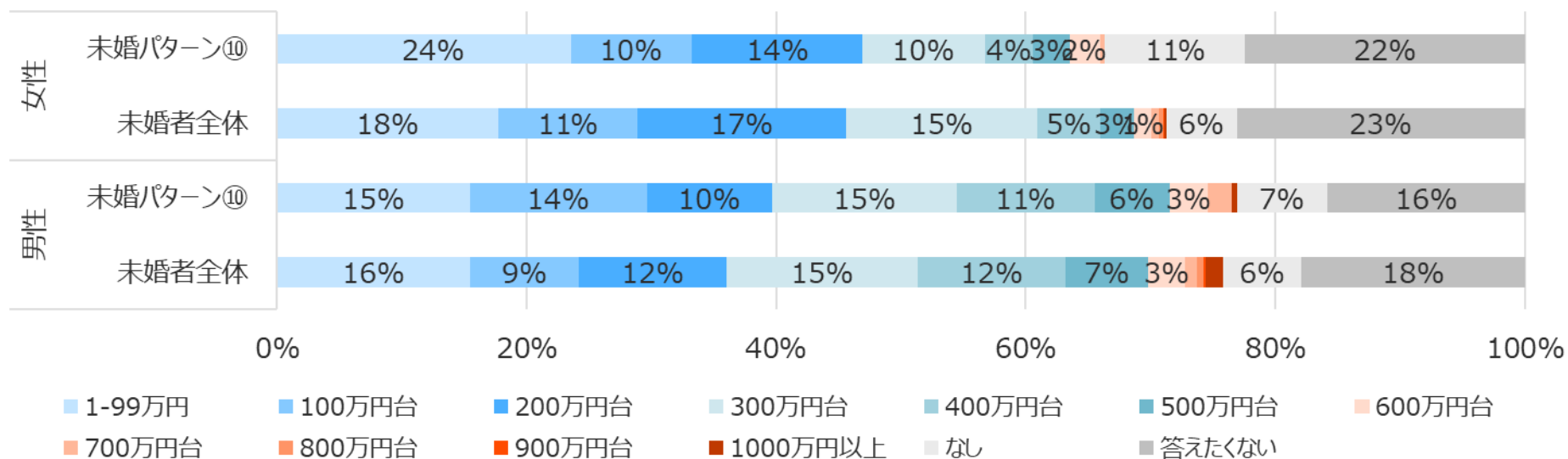


未婚パターン⑩ 年収

- 年収を未婚者全体と未婚パターン⑩で比較すると、若干ながら未婚パターン⑩の方が男女ともに低水準となっている傾向が窺える。

Q11：令和2年度のあなたの個人年収について教えてください。

未婚パターン⑩と未婚者全体の個人年収

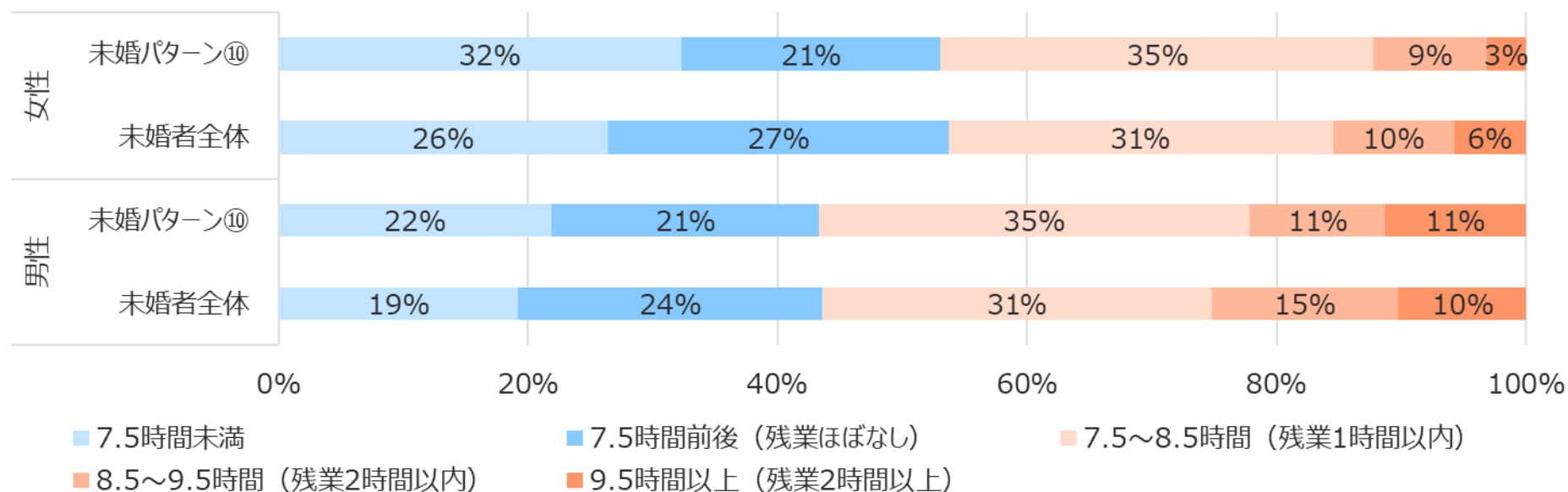


未婚パターン⑩ 1日あたり平均勤務時間

- 1日あたり平均勤務時間を未婚者全体と未婚パターン⑩で比較すると、大きな違いは見受けられず、未婚パターン⑩が特別に1日あたり平均勤務時間が多く多忙、というわけではないことが推察される。

Q13：一日あたりの平均勤務時間について教えてください。

未婚パターン⑩と未婚者全体の1日あたり平均勤務時間

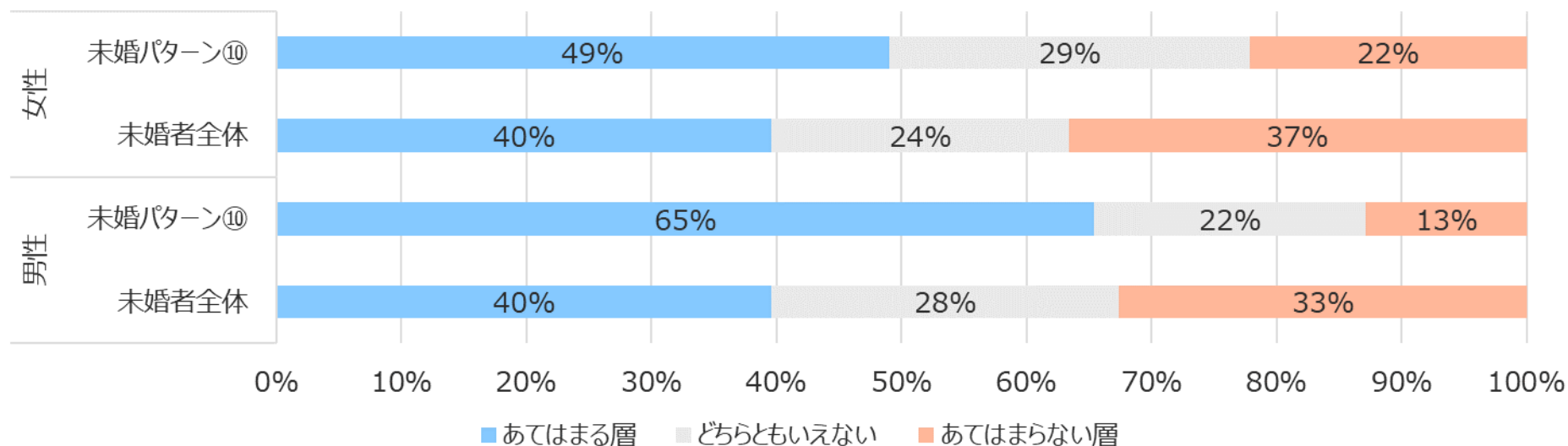


未婚パターン⑩ 新型コロナウイルス感染拡大による変化（交際相手が欲しい気持ちが強まっている）

- 「新型コロナウイルス感染拡大により、交際相手が欲しい気持ちが強まっている」という設問に対する回答を未婚者全体と未婚パターン⑩で比較すると、未婚パターン⑩では男女ともあてはまらない層が少なく、あてはまる層が多くなっている。

Q18：新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けての心情の変化として、あなたは以下のそれぞれの項目についてどのくらいあてはまりますか。「非常にあてはまる」～「全くあてはまらない」までのあいだで、あてはまると思う程度をそれぞれ1つ選んでお答えください。（交際相手が欲しい気持ちが強まっている）

未婚パターン⑩と未婚者全体の新型コロナウイルス感染拡大による変化（交際相手が欲しい気持ち）

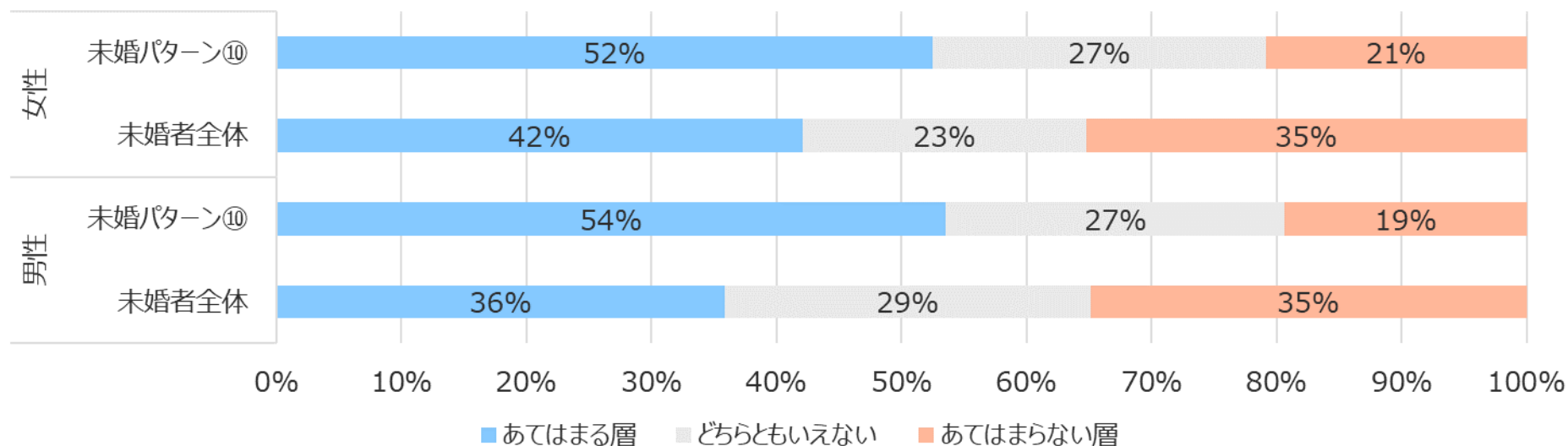


未婚パターン⑩ 新型コロナウイルス感染拡大による変化（結婚したい/家族が欲しい気持ちが強まっている）

- 「新型コロナウイルス感染拡大により、結婚したい/家族が欲しい気持ちが強まっている」という設問についても同様に未婚者全体と未婚パターン⑩で比較すると、やはり同様に未婚パターン⑩では男女ともあてはまらない層が少なく、あてはまる層が多くなっている。

Q18：新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けての心情の変化として、あなたは以下のそれぞれの項目についてどのくらいあてはまりますか。「非常にあてはまる」～「全くあてはまらない」までのあいだで、あてはまると思う程度をそれぞれ1つ選んでお答えください。（結婚したい/家族が欲しい気持ちが強まっている）

未婚パターン⑩と未婚者全体の新型コロナウイルス感染拡大による変化（結婚したい/家族が欲しい気持ち）

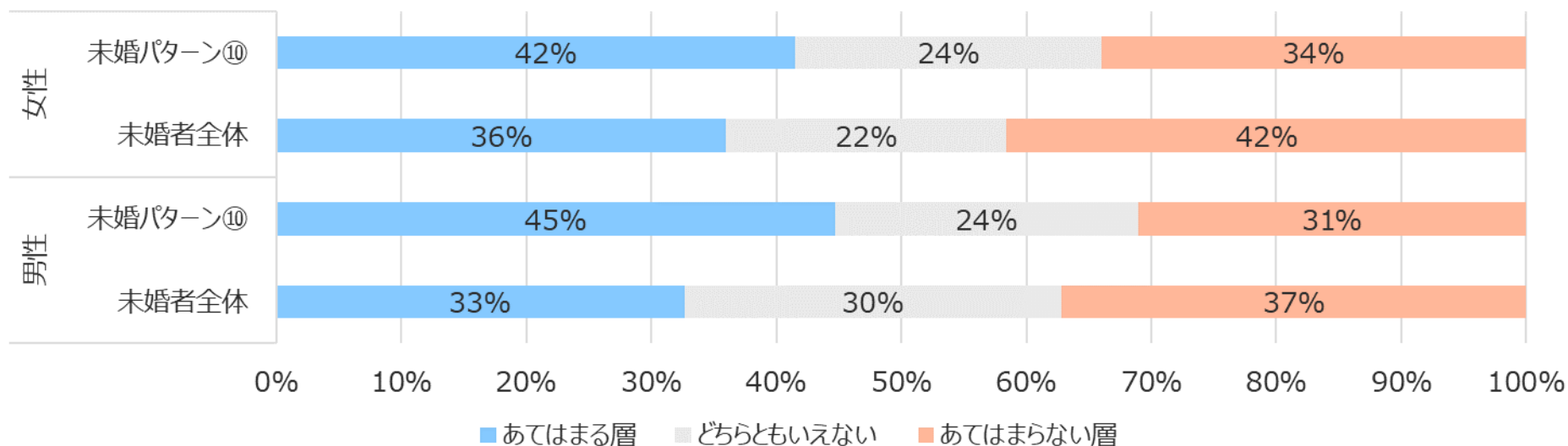


未婚パターン⑩ 新型コロナウイルス感染拡大による変化（誰とも会わない日が続きつらさ・寂しさを感じている）

- 「新型コロナウイルス感染拡大により、誰とも会わない日が続きつらさ・寂しさを感じている」という設問についても同様に未婚者全体と未婚パターン⑩で比較すると、やはり同様に未婚パターン⑩では男女ともあてはまらない層が少なく、あてはまる層が多くなっている。

Q18：新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けての心情の変化として、あなたは以下のそれぞれの項目についてどのくらいあてはまりますか。「非常にあてはまる」～「全くあてはまらない」までのあいだで、あてはまると思う程度をそれぞれ1つ選んでお答えください。（誰とも会わない日が続きつらさ・寂しさを感じている）

未婚パターン⑩と未婚者全体の新型コロナウイルス感染拡大による変化（つらい・寂しい気持ち）

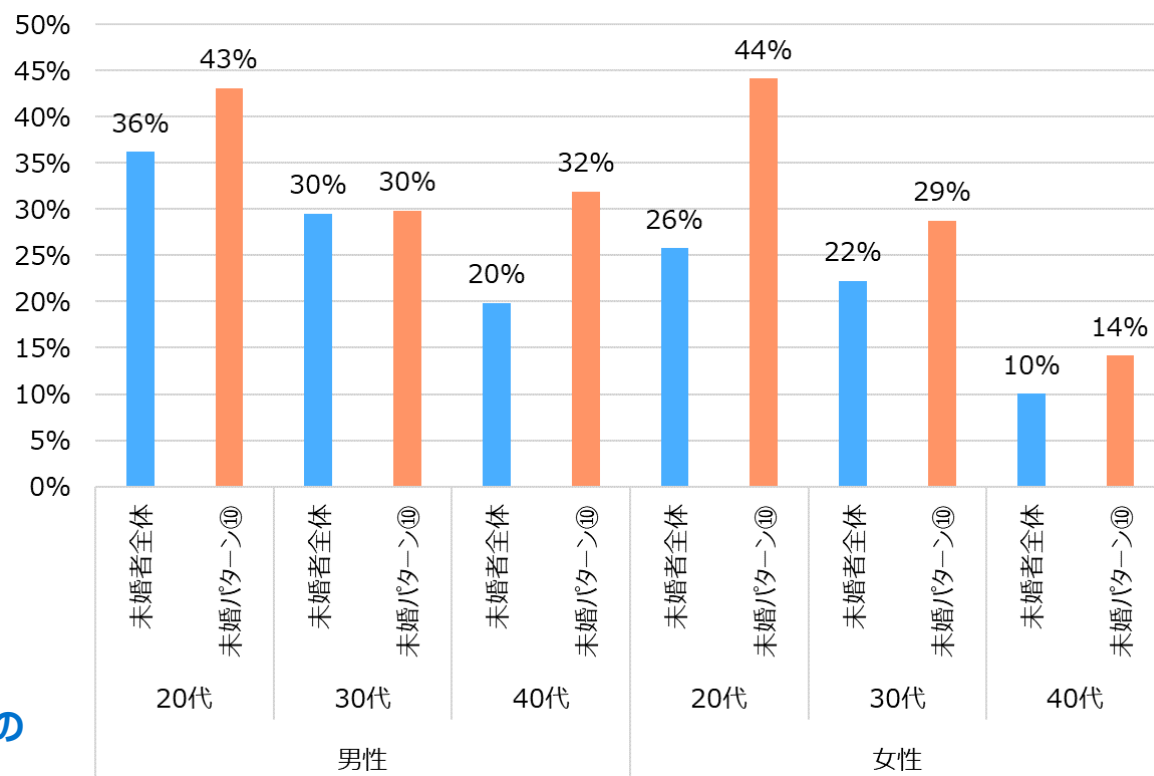


未婚パターン⑩ 交際経験がない人の割合

- 交際経験がない人の割合を未婚者全体と未婚パターン⑩で比較すると、いずれの性・年齢別においても未婚パターン⑩の方が高い割合となっている。

Q31：これまでに、交際した経験はありますか。ある場合は、直近の交際時期もお答えください。

未婚パターン⑩と未婚者全体の交際経験がない人の割合



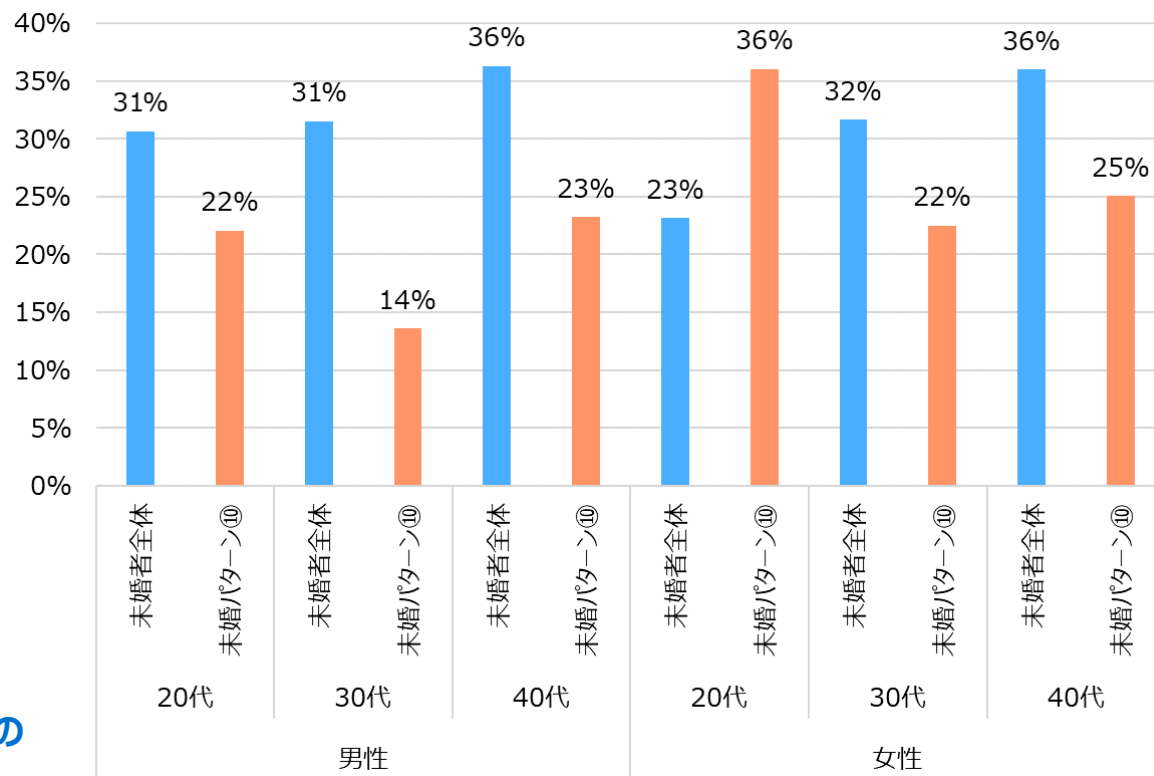
※ 図中棒グラフは「交際経験がない人」の割合を表示

未婚パターン⑩ 交際意欲がない人の割合

- 交際意欲がない人の割合も同様に未婚者全体と未婚パターン⑩で比較すると、20代女性を除く全ての性・年齢別において、未婚パターン⑩の方が低い割合となっている。

Q37：あなたは現在、交際相手が欲しいと思っていますか？

未婚パターン⑩と未婚者全体の交際意欲がない人の割合



※ 図中棒グラフは「交際意欲がない人」の割合を表示

未婚パターン⑩ まとめと政策面での課題

- これまでの分析を踏まえ、精神的な問題で恋活・婚活できていない、と回答している層の人物像は、以下のようなものであることが推測される。

1 経済的な制約のある層が一定混在

未婚者全体と比べ、パート・アルバイトや無職・家事の比率が高く、年収水準は若干低い傾向

2 独り身であることには寂しさを感じている

交際意欲は比較的高い傾向にあり、新型コロナウイルスによる感染拡大により寂しさを募らせている

3 交際経験が少なく、恋活・婚活に踏み切れない

交際経験のない人の割合が未婚者全体と比べ高く、恋活・婚活の心理的ハードルが高い



- ✓ 独り身であることには寂しさを感じ、交際意欲は高いものの、交際経験が少なく恋活・婚活の心理的ハードルが高いため、実際の活動に踏み切れていないと考えられる。また、一部の層は経済的な制約の影響も受けていると想定される。
- ✓ 結婚を意識した出会いの前段階として、まず異性と気軽に交流する機会を持たせ、交際する経験を積んでいただく必要があるのではないかと。また、一部の層には経済的支援も必要。

2-8 : 詳細③ (結婚したいので結婚に向けた活動中と回答している層の分析)

出生動向基本調査における交際相手・結婚相手との出会いのきっかけ

- 厚生労働省が実施している出生動向基本調査では、未婚者が交際相手・結婚相手と出会ったきっかけについて調査を実施している。最新の調査は2015年に実施されており、調査結果は以下のとおり。
- なお、調査については2021年にも実施予定であるとされているが、前回調査から6年経過しており、単純な比較は難しい可能性がある他、2021年調査では、新型コロナウイルス感染拡大の影響が含まれる可能性がある。より**定期的な統計情報の確保**が必要ではないか。
- さらに、出生動向基本調査では、「出会ったきっかけ・場所」(Where)を問う設問が中心であり、マッチングアプリ/サイト等の活用が選択肢に含まれていない。近年の活動方法の多様化を踏まえ、**最近の活動状況を反映した選択肢の充実**をはかる必要があるのではないか。

未婚者が現在の交際相手と出会ったきっかけの構成

総数(客体数)	職場や仕事で	友人・兄弟姉妹を通じて	学校で	街なかや旅先で	ネット・アプリ・習いごと	アルバイトで	幼なじみ・隣人	見合いで	結婚相談所で	その他	不詳
【未婚男性】 100.0 % (737)	18.6 %	20.6	27.7	5.0	6.2	6.4	2.6	0.7	0.4	5.3	7.5
【未婚女性】 100.0 (976)	21.5	20.9	23.7	3.5	7.2	6.7	1.8	0.4	0.5	6.4	7.5

注：対象は異性の交際相手（婚約者、異性の恋人、異性の友人）がいると回答した18～34歳未婚者。

出会ったきっかけ・場所

(Where) が設問の中で問われている。直近調査から「ネット」の選択肢が追加されているが、例えばネットにもオンラインゲームのオフ会や、マッチングアプリ等様々あり、その内訳によって政策の方向性が変わる可能性が高く、そういった点を意識した設問も必要

調査別にみた、夫妻が出会ったきっかけの構成

調査(調査年次)	総数(客体数)	恋愛結婚							見合い結婚	その他	不詳
		職場や仕事で	友人・兄弟姉妹を通じて	学校で	街なかや旅先で	ネット・アプリ・習いごと	アルバイトで	幼なじみ・隣人			
第8回調査(1982年)	100.0 % (1,295)	25.3 %	20.5	6.1	8.2	5.8	...	2.2	29.4	0.3	2.2
第9回調査(1987年)	100.0 (1,421)	31.5	22.4	7.0	6.3	5.3	...	1.5	23.3	1.9	0.8
第10回調査(1992年)	100.0 (1,525)	35.0	22.3	7.7	6.2	5.5	4.2	1.8	15.2	1.6	0.3
第11回調査(1997年)	100.0 (1,304)	33.5	27.0	10.4	5.2	4.8	4.7	1.5	9.7	1.9	1.2
第12回調査(2002年)	100.0 (1,488)	32.9	29.2	9.3	5.4	5.1	4.8	1.1	6.9	3.0	2.2
第13回調査(2005年)	100.0 (1,076)	29.9	30.9	11.1	4.5	5.2	4.3	1.0	6.4	4.5	2.3
第14回調査(2010年)	100.0 (1,136)	29.3	29.7	11.9	5.1	5.5	4.2	2.4	5.2	4.8	2.0
第15回調査(2015年)	100.0 (894)	28.2	30.8	11.7	5.7	4.8	3.8	1.6	6.4	5.0	2.0

注：各調査時点より過去5年間に結婚した初婚どうしの夫婦について。見合い結婚とは出会いのきっかけが「見合いで」、「結婚相談所で」の結婚。第8、9回調査は「アルバイトで」を選択肢に含まない。

調査は3～5年に一度実施されている

(出所) 第15回出生動向基本調査を基に日本総研作成

未婚パターン⑪～⑭ サンプルサイズ

- 分析対象となる活動中の未婚者のサンプルサイズは以下の通り。
- 男女半々程度となっているが、40代のサンプルサイズが男女ともに他と比べると小さくなっている。

	サンプルサイズ	割合
男性	195	50.6%
年代別内訳		
20代	76	19.7%
30代	70	18.2%
40代	49	12.7%

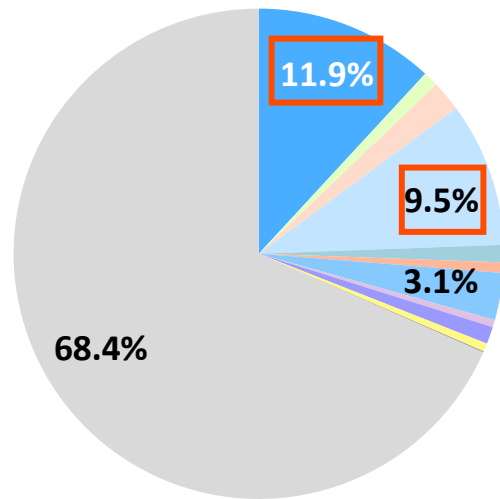
	サンプルサイズ	割合
女性	190	49.4%
年代別内訳		
20代	74	19.2%
30代	72	18.7%
40代	44	11.4%

結婚に向けた活動の実態報告 未婚者の活動実態

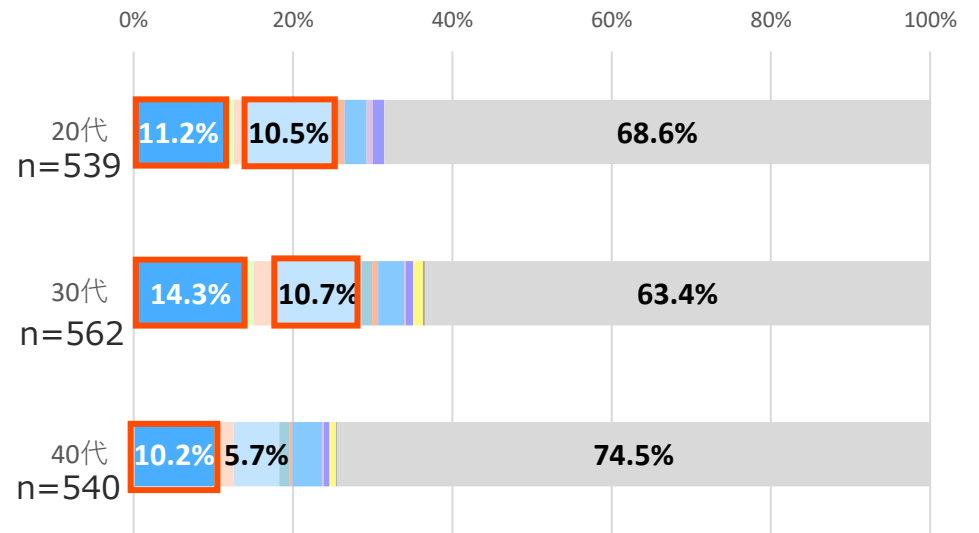
- 未婚者の結婚のための活動（結婚相手を見つけるための活動）について実態を調査したところ、「出会いを意識したことは特にしていない」と回答する割合が圧倒的に高い結果となった。
- 活動をしている層のみに注目すると「日常生活において出会いを意識して生活している」「マッチングアプリ/サイトの活用」の回答割合が高い。マッチングアプリ/サイトについては、20代～30代の利用率が特に高くなっていた。

Q54：現在、結婚相手・交際相手を見つけるための目的で活動を行っていますか。行っている場合は、実施している活動を選択してください。

結婚のための活動をしているか（n=1,641）※



結婚のための活動をしているか（年代別）※



- 日常生活でアンテナをはっていた
- マッチングアプリ/サイト
- 友人の紹介
- 行政主催などの公的な結婚支援事業

- お見合い
- 街コン、婚活パーティー等
- 交流目的の趣味の集まり（習い事、サークル活動等）
- その他

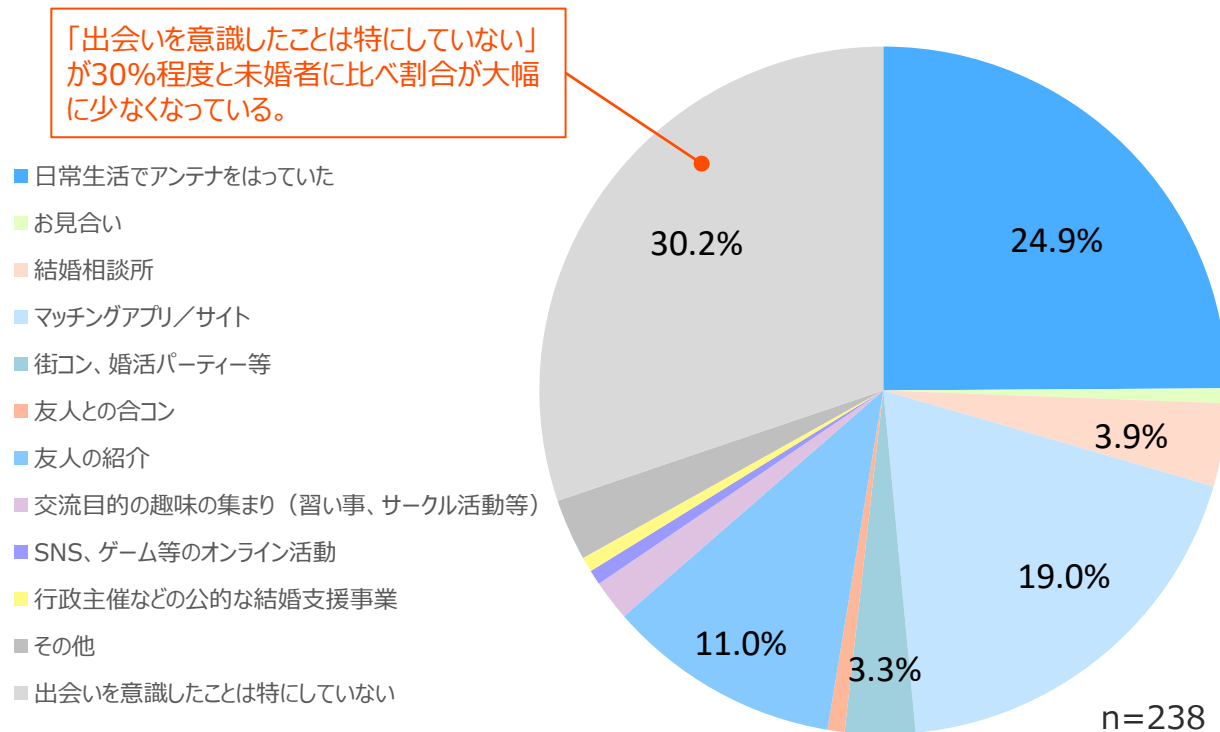
- 結婚相談所
- 友人との合コン
- SNS、ゲーム等のオンライン活動
- 出会いを意識したことは特にしていない

※ 結婚意欲有の未婚者のみ、かつ現在交際中を除いて集計

(参考) 結婚に向けた活動の実態報告 結婚1年以内の既婚者の活動実績

- 結婚1年以内の既婚者の結婚に向けた活動の調査結果は以下のような結果となった。
- 活動していた層（未婚者における活動している層）の割合が7割程度を占めていることが分かった。前頁の未婚者と比較して、既婚者においては活動していた層が顕著に多くなっていることが分かる。
- なお、内訳として「日常生活でアンテナをはっていた」、「マッチングアプリ／サイト」、「友人の紹介」の順でこれらを足すと半数を超えていた。

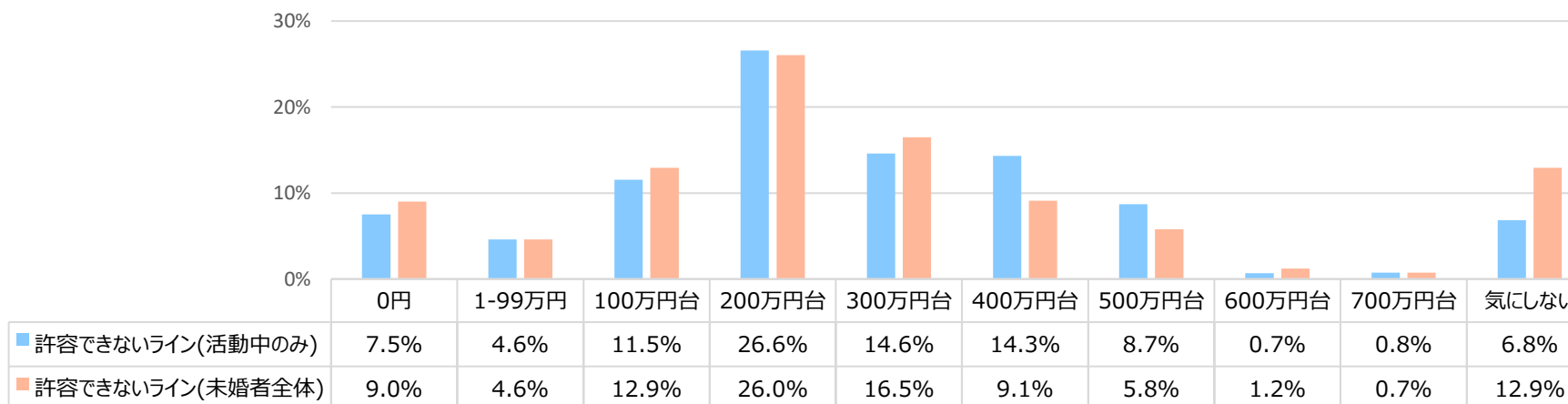
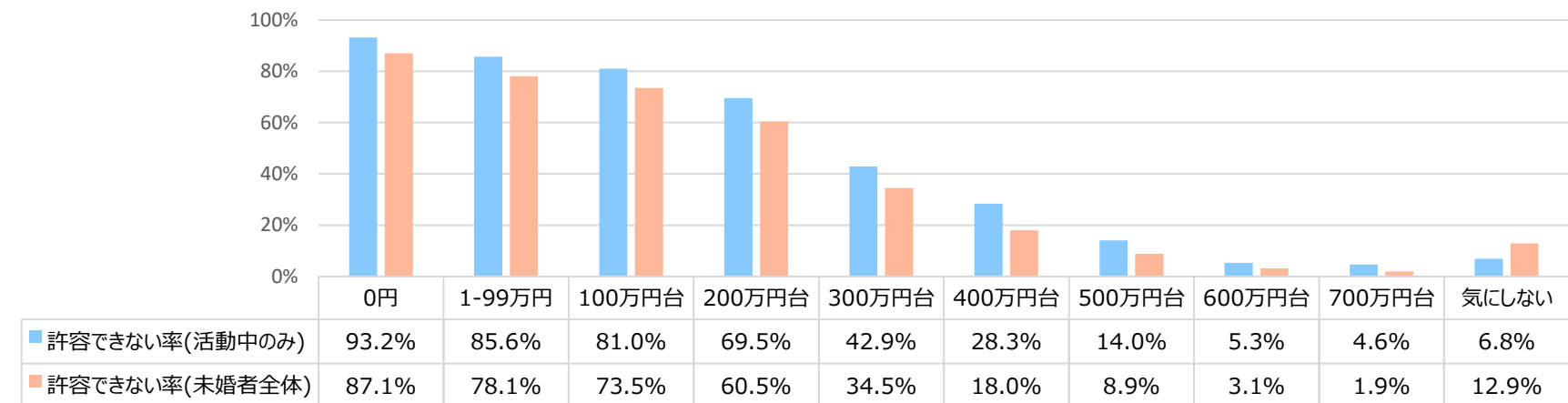
Q71：結婚前、結婚相手を見つけるための目的で活動を行っていましたか。
行っていた場合は、実施していた活動を選択してください。（主な活動の一つ選択）



未婚パターン⑪ 年収の許容できないラインの比較

- 未婚パターン⑪の主な項目として女性から見た男性の年収の許容できないラインの比較を行った結果を以下に示す。
- 大きな傾向は同じとなっているが、活動中層は許容できないラインが400-500万円台で高く出ており、一定相手の年収に関して高い水準を望んでいる層の存在可能性がみられる。

活動中層 (n=190) と未婚者全体 (n=1,129) の年収の許容できないライン

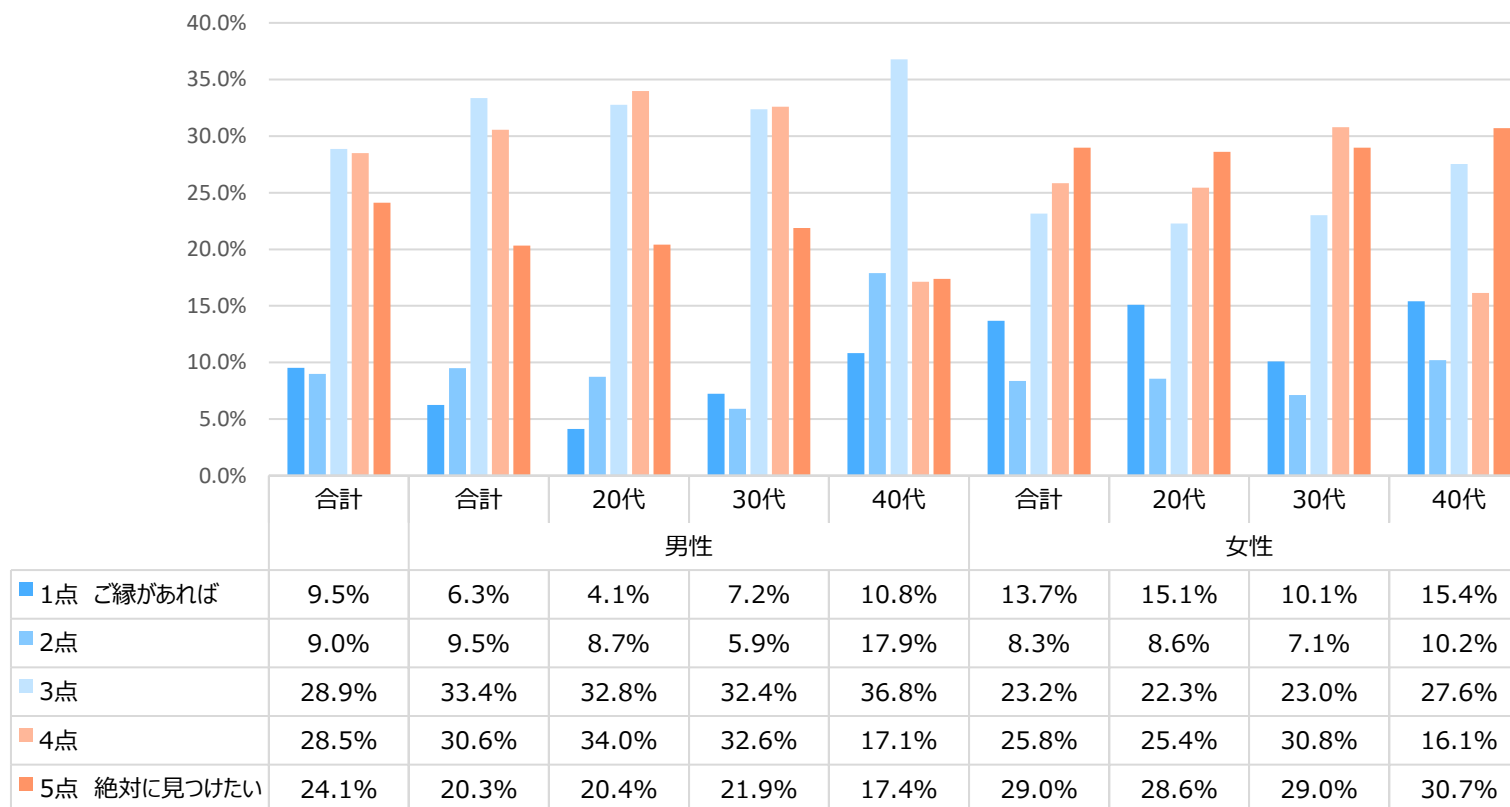


未婚パターン⑫ 活動の本気度

- 男女ともに絶対に見つけたいに近い層が多く、本気度が高くなっていることが分かった。
- 女性の方が絶対に見つけたいと回答している割合が多く、特に40代では大きな差がみられた。

Q56：婚活・恋活の本気度を5段階評価でお答えください。
「5点：絶対に見つけたい」～「1点：ご縁があれば」の間でお答えください。

性年齢別活動の本気度 (n=385)

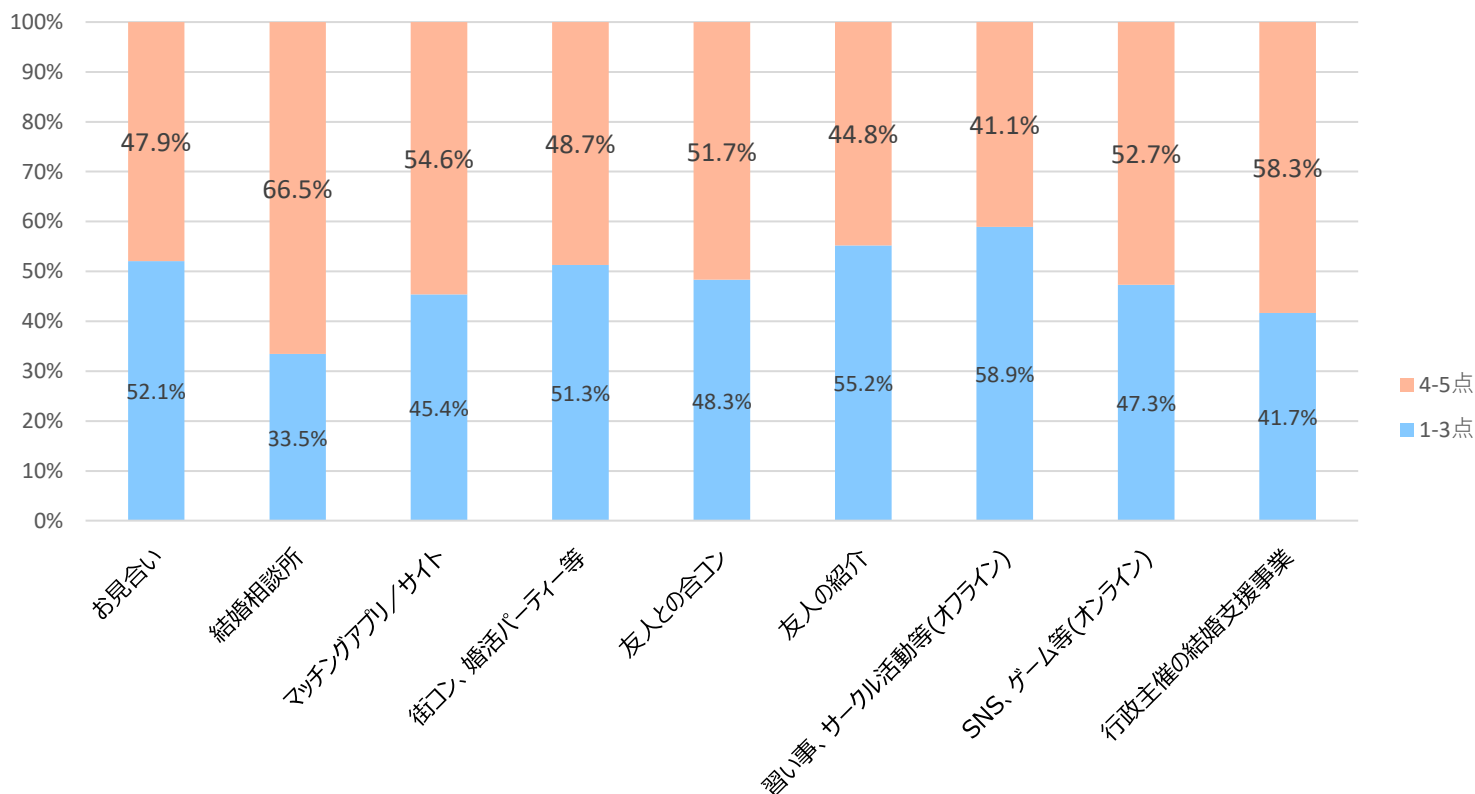


未婚パターン⑫ 活動の本気度（主な活動方法別）

- 主な活動方法別の活動の本気度は以下の通り。
- 結婚相談所が突出して高くなっており、続いて行政主催の結婚支援事業、マッチングアプリ／サイトが続く結果となった。

Q56：婚活・恋活の本気度を5段階評価でお答えください。
「5点：絶対に見つけない」～「1点：ご縁があれば」の間でお答えください。

主な活動方法別の活動の本気度（n=385）

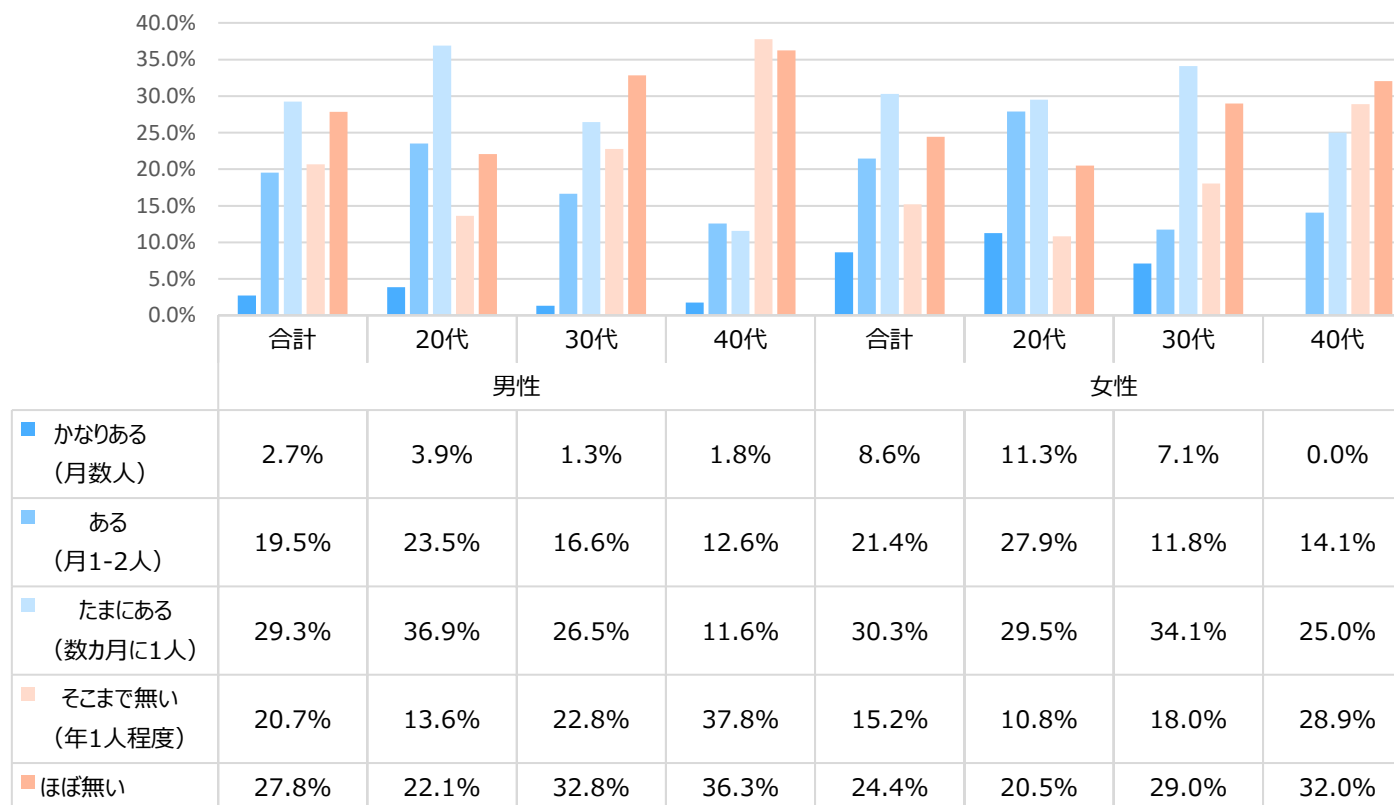


未婚パターン⑬ 活動の質

- 活動の質として、活動により交際相手候補となりうる異性との出会いがあるかを聞いた結果は以下の通り。
- 男女ともに若い年代ほど出会いの頻度が高い傾向にあることが分かる。

Q57：婚活・恋活を通して、交際相手候補となりうる異性との出会いはありましたか？

性年齢別活動の質 (n=385)

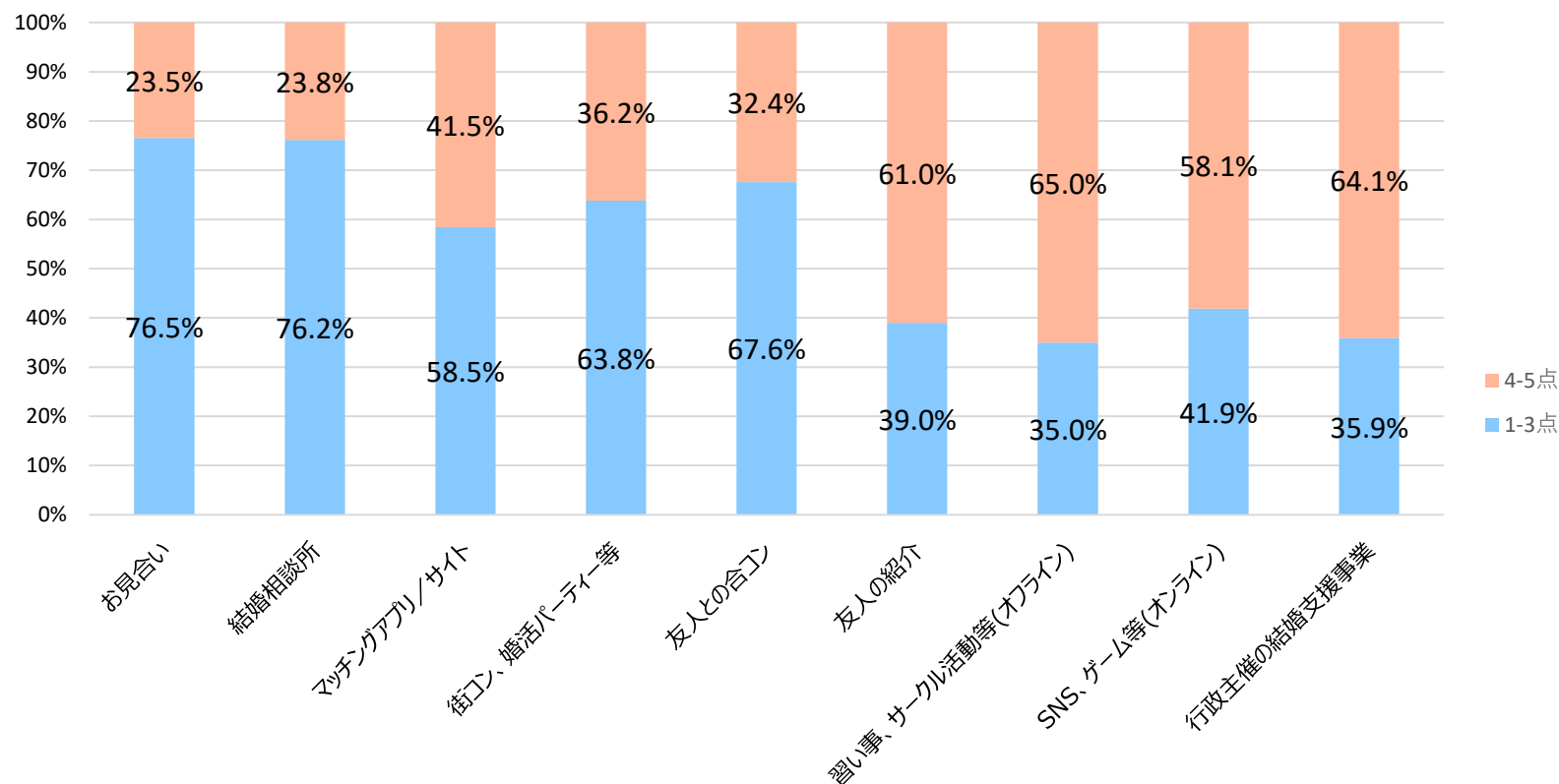


未婚パターン⑬ 活動の質（主な活動方法別）

- 活動方法別で活動の質を確認した結果は以下の通り。
- オフライン／オンラインの趣味を通じた活動が出会えている割合が高くなっており、趣味等をすり合わせられていることが交際相手候補との出会いの確率を高めている可能性があることと考えられる。

Q57：婚活・恋活を通して、交際相手候補となりうる異性との出会いはありましたか？

主な活動方法別活動の質（n=385）

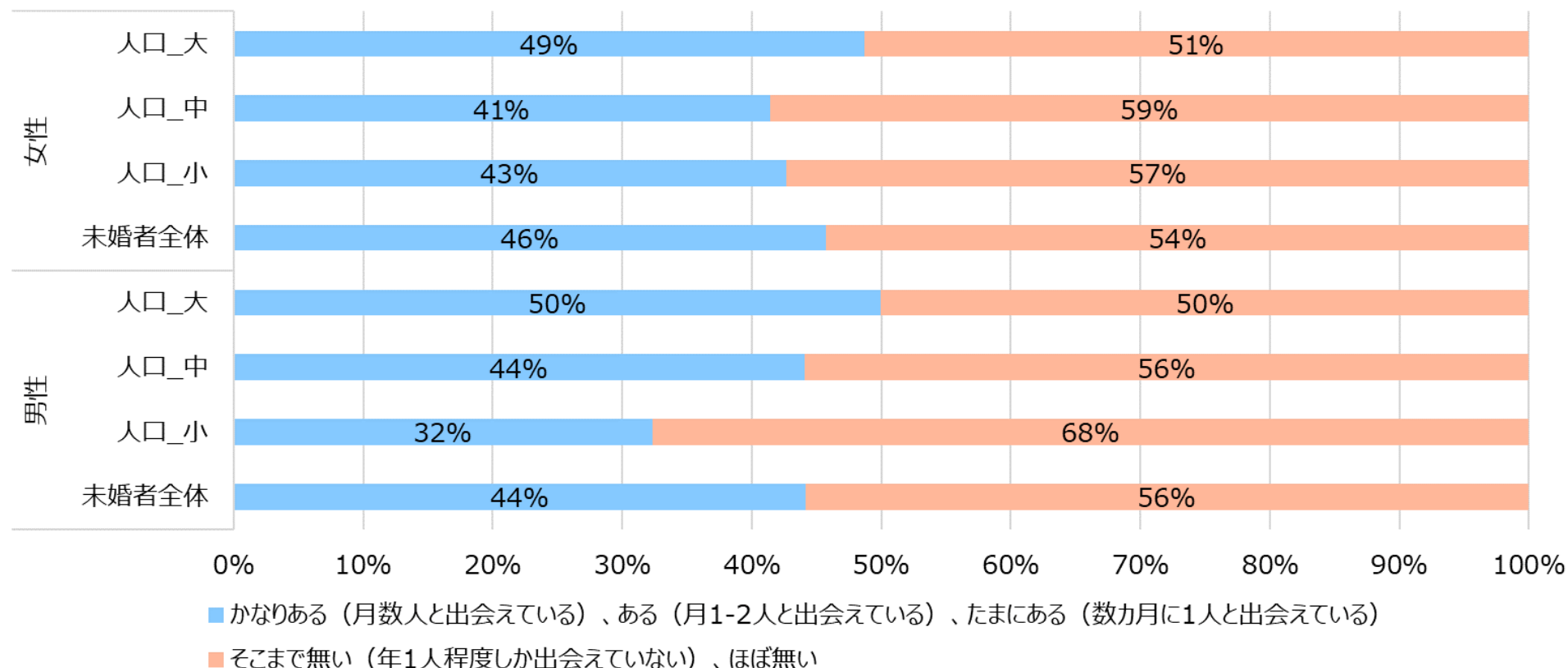


未婚パターン⑬ 人口密度別の活動の質（婚活・恋活の成果）

- 回答者の居住地の人口密度別に婚活・恋活の成果（活動実態）を比較すると、人口の小さい地域では他地域と比較して、婚活・恋活をしているにも関わらず交際相手候補となりうる異性との出会いがない傾向にある。

Q57：婚活・恋活を通して、交際相手候補となりうる異性との出会いはありましたか？

人口密度別の活動の質（n=385）

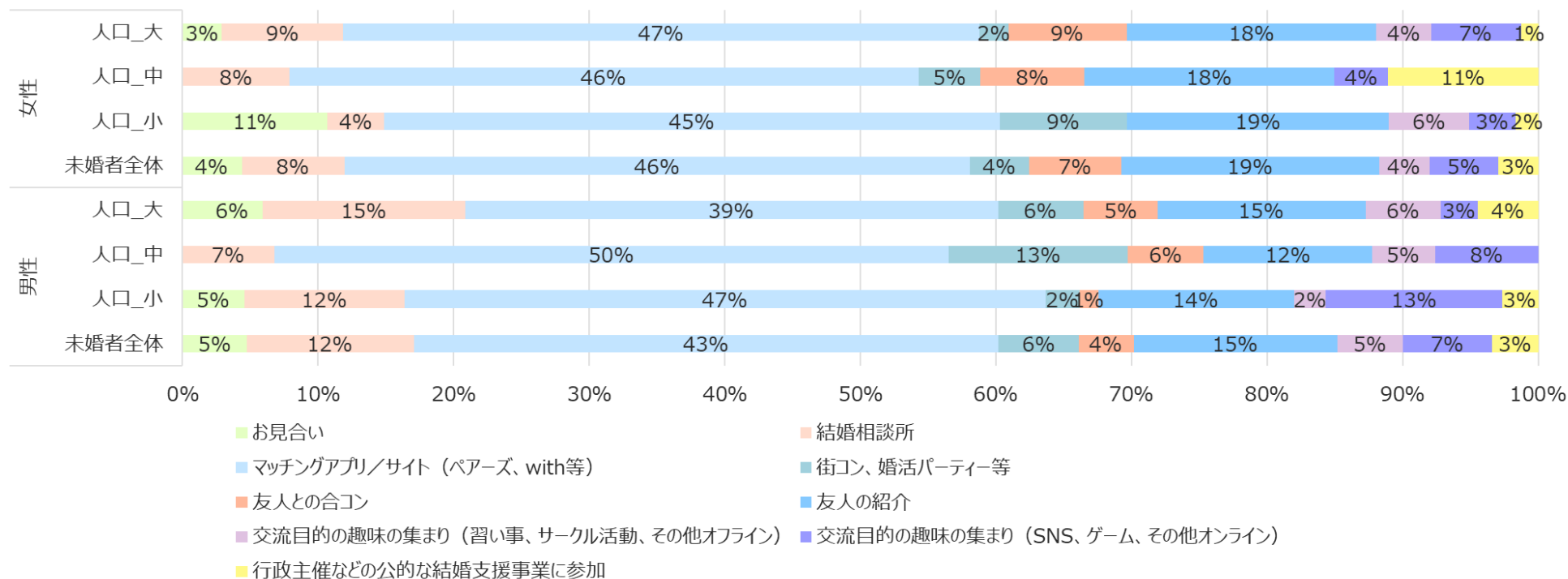


(参考) 未婚パターン⑬ 人口別の主な活動方法

- 活動の質の違いについて、活動方法が影響しているかを確認するため、人口別の婚活・恋活の活動方法を整理した結果は以下の通り。
- 今回の調査からは人口別の活動方法に大きな違いは見られなかった。

Q54：現在、結婚相手・交際相手を見つけるための目的で活動を行っていますか。行っている場合は、実施している活動を選択してください。

人口密度別の活動の方法 (n=385)

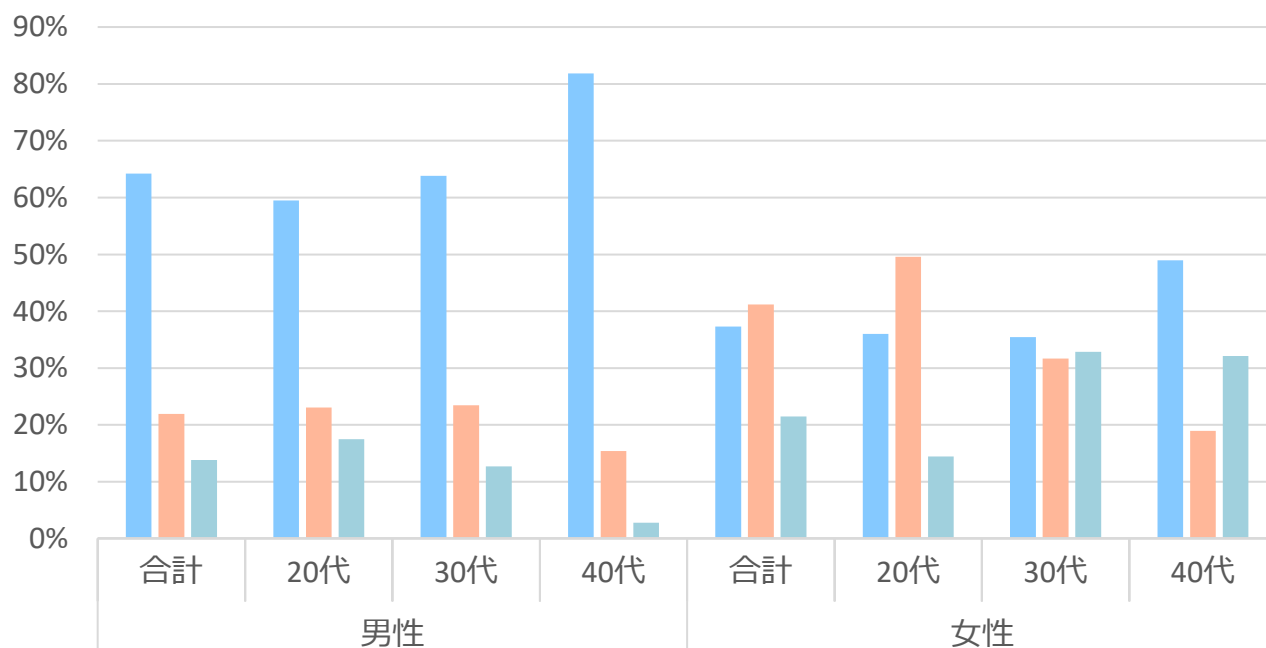


未婚パターン⑭ アプローチ

- 交際相手候補に対してアプローチできているかを確認した結果は以下の通り。
- 男性の方が積極的にアプローチしていることが分かる。しかし、40代に比べ20代はアプローチが弱くなっている可能性があると考えられる。

Q58：交際相手候補となりうる異性に対して、積極的にアプローチできていますか？

性年齢別アプローチの状況（n=277）



■ 良いと思ったら自分からアプローチしている	64%	60%	64%	82%	37%	36%	35%	49%
■ 相手からアプローチされるよう促す	22%	23%	23%	15%	41%	50%	32%	19%
■ 相手からアプローチされるのを待っている	14%	17%	13%	3%	22%	14%	33%	32%

2-9 : 婚活・恋活に関するケースコントロール研究

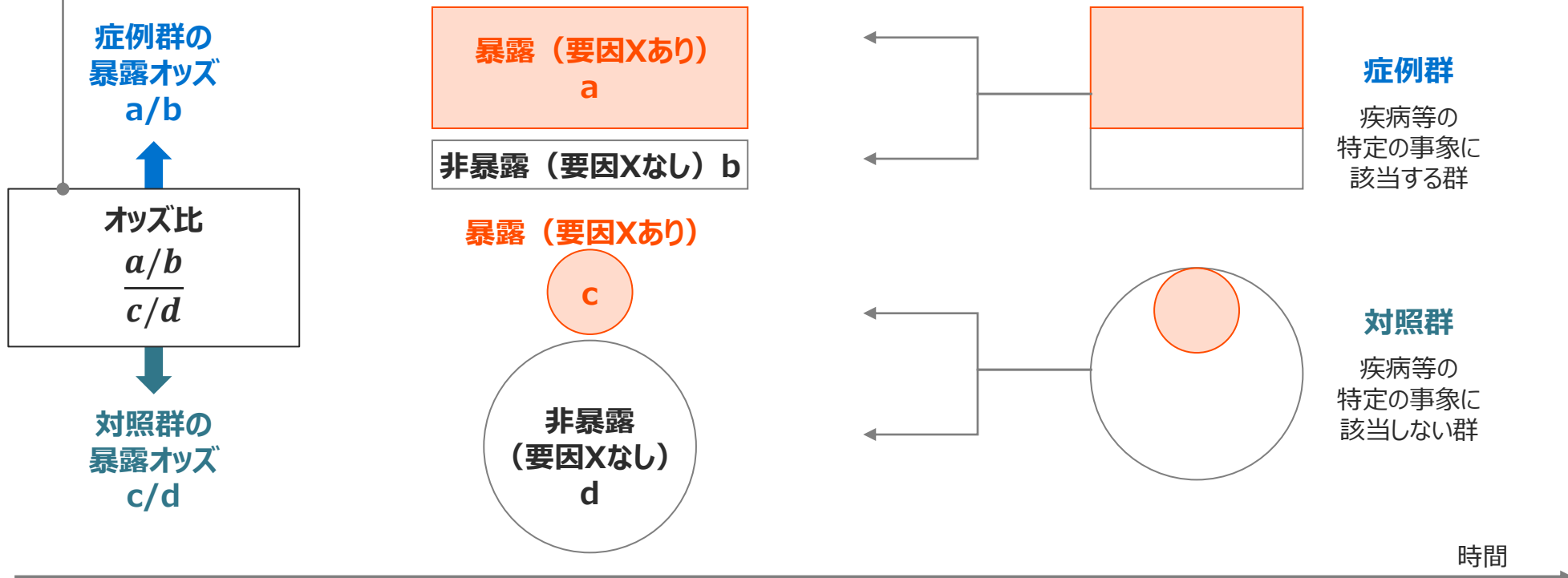
婚活・恋活に関するケースコントロール研究 1) ケースコントロール研究とは

- ケースコントロール研究とは、特定の要因と事象の因果関係を評価する研究手法の一つ。

特定の事象の発生頻度が稀であれば、
オッズ比は相対リスクの近似値となる
▶ 要因Xの暴露により、事象発生確率が○倍になる

2 症例群・対照群それぞれについて、
過去に特定の要因に暴露された割合
(暴露オッズ) を算出し、比較する

1 ある時点で特定の事象に
該当する群 (症例群) と、
該当しない群 (対照群) を集める



(出所) 松島・浦島 (2003) 「研究デザイン入門1: ケースコントロール研究」等を基に日本総研作成

婚活・恋活に関するケースコントロール研究 2) マッチングアプリ/サイトの利用有無と未既婚 (算出・解釈例)

- マッチングアプリ/サイトの利用有無を要因として設定し、1年以内に結婚した既婚者と、結婚意欲のある未婚者のデータを用いてオッズ比を算出すると、3.87となる。
- マッチングアプリ/サイトの利用により、結婚確率が一定高まったと解釈できる。

全年齢	症例：既婚 (1年以内結婚のみ)	対照：未婚 (結婚意欲有のみ)	計
マッチングアプリ/サイト利用 (要因暴露あり)	37	177	214
マッチングアプリ/サイト利用せず (要因暴露なし)	100	1,861	1,961
計	137	2,038	2,176

症例群の暴露オッズ (暴露あり÷暴露なし)	0.37
対照群の暴露オッズ (暴露あり÷暴露なし)	0.10
オッズ比 (症例群の暴露オッズ÷対照群の暴露オッズ)	3.87

「マッチングアプリ/サイトの利用により、**結婚確率が3.87倍**になる」という解釈

※ 厳密には、症例の発生頻度が稀であるという条件が前提として必要

※ いずれもウェイトバック後の数値で集計

(参考) 年代別のマッチングアプリ/サイトの利用有無と未既婚

- 年代別にオッズ比を算出すると下記の通り。オッズ比の水準は40代が若干高めとなっているが、年代別に大きな差異は見られない。

20代	症例：既婚 (1年以内結婚のみ)	対照：未婚 (結婚意欲有のみ)	計
マッチングアプリ/サイト利用 (要因暴露あり)	15	97	112
マッチングアプリ/サイト利用せず (要因暴露なし)	47	999	1,045
計	62	1,096	1,158

症例群の暴露オッズ (暴露あり÷暴露なし)	0.33
対照群の暴露オッズ (暴露あり÷暴露なし)	0.10
オッズ比 (症例群の暴露オッズ÷対照群の暴露オッズ)	3.35

30代	症例：既婚 (1年以内結婚のみ)	対照：未婚 (結婚意欲有のみ)	計
マッチングアプリ/サイト利用 (要因暴露あり)	17	58	75
マッチングアプリ/サイト利用せず (要因暴露なし)	37	486	523
計	54	544	598

症例群の暴露オッズ (暴露あり÷暴露なし)	0.45
対照群の暴露オッズ (暴露あり÷暴露なし)	0.12
オッズ比 (症例群の暴露オッズ÷対照群の暴露オッズ)	3.75

40代	症例：既婚 (1年以内結婚のみ)	対照：未婚 (結婚意欲有のみ)	計
マッチングアプリ/サイト利用 (要因暴露あり)	5	22	27
マッチングアプリ/サイト利用せず (要因暴露なし)	16	377	393
計	21	399	420

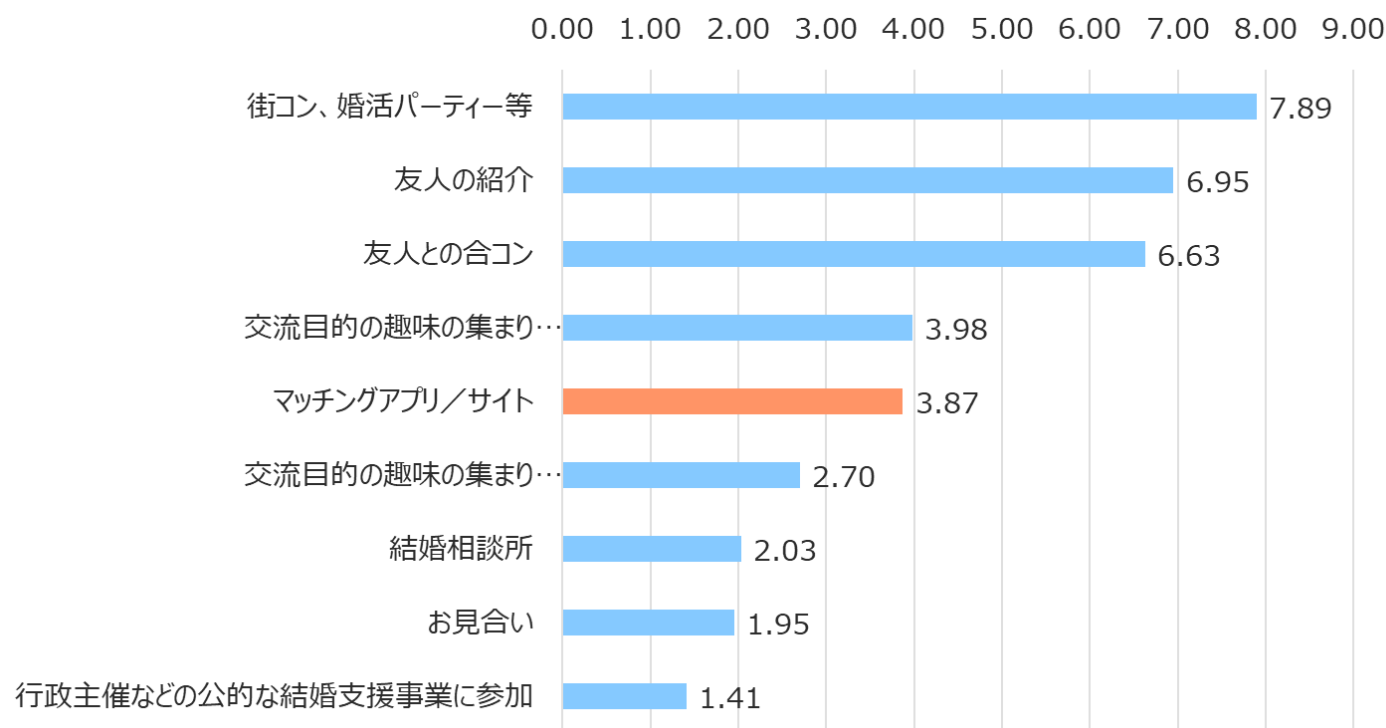
症例群の暴露オッズ (暴露あり÷暴露なし)	0.31
対照群の暴露オッズ (暴露あり÷暴露なし)	0.06
オッズ比 (症例群の暴露オッズ÷対照群の暴露オッズ)	5.28

※ いずれもウェイトバック後の数値で集計

婚活・恋活に関するケースコントロール研究 3) その他婚活・恋活の有無と未婚

- 同様に各種婚活・恋活の活動有無を要因として設定し、1年以内に結婚した既婚者と、結婚意欲のある未婚者のデータを用いてオッズ比を算出すると、以下の通り。
- オッズ比の高い活動の内、「友人の紹介」や「友人との合コン」は必ずしも能動的に活動できるわけではないため、経済的余裕や時間的余裕の度合に応じて、「街コン、婚活パーティー等」「交流目的の趣味の集まり」「マッチングアプリ/サイト」を使い分けることが重要と思われる。

各種婚活・恋活の活動有無によるオッズ比



※ いずれもウエイトバック後の数値で集計

4：本報告のまとめと政策への期待

本報告のまとめ

1. 本報告では、未婚パターンの調査結果をとりまとめた。

- 結婚したくない層が未婚者全体の28%を占めており、出生動向基本調査との比較から結婚意欲の低下が進行している可能性を示した。さらには、経済的な要因よりも生活面の制約を利用として挙げている層が非常に大きくなっていた。
- また、結婚したい層に関しても婚活をしていない/できていない層が43%と非常に多くなっていることを明らかとした。

2. 結婚したくない層に関して未婚パターン別の属性分析を行った。

- 経済面を理由に挙げている層は、非正規率が高い等により交際や結婚に前向きに考えられる状況にない可能性が高いことを示した。また、この層では経済面の課題を解決しても異性との接点は過去から現在にかけて少ないことが予想され、多方面からの支援が必要となる状態にあると考えられる。
- 生活面での制約を理由に挙げている層は、「一人でいる・過ごす」ことに対する忌避感・抵抗感のようなものが低く、むしろ快適と考えており、そもそも交際に対する意欲も低い可能性が高いことを示した。この層では、「結婚」という段階での支援ではなく、まずは「他者（異性）と過ごすこと」により得られる楽しさ・メリット等を伝える必要があると考えられる。

3. 結婚したい層が結婚に向けた活動をしていない層について未婚パターンごとの特徴を調べた。

- 「活動方法がない」、「時間上の制約」、「経済的な制約」、「精神面の問題」が横並びで5%程度であり、その他はごく少数であった。
- 「活動方法がない」や「時間上の制約」は仕事に関連する課題である一面がみられた。

4. 近年の環境変化を踏まえ、婚活の実態、特に未婚者の婚活や既婚者の活動実績についての調査結果の概要をとりまとめた。

- 未婚者においては半数以上が活動していない層となっており、活動している層についてみると「日常生活において出会いを意識して生活している」「マッチングアプリ/サイトの活用」の回答割合が高くなっていた。
- 未婚者の活動実績と比較し既婚者（1年以内結婚者）は活動していた層の割合が顕著に大きくなっていた。中でも「日常生活でアンテナをはっていた（24.9%）」、「マッチングアプリ/サイト（19.0%）」、「友人の紹介（11.0%）」の順でその割合が多かった。

1 出会い・結婚等に関する教育・セミナー等の充実化

結婚等に焦点を当てたライフプランニング教育の実施

- 交際・結婚により一層焦点を当て、他者（異性）と過ごす意義や楽しさ等について学生の時期から考えるきっかけを持つことができるようなライフプランニング教育の実施が求められる。

新しい出会い・コミュニケーションに関する教育の実施

- マッチングアプリ/サイトの台頭等に伴い、時代に合ったツールの活用による出会い・コミュニケーションの取り方を学ぶ機会を提供する必要がある。

確実に存在する非婚層等に向き合った支援の検討

- 非婚層が一定存在することから、個人の考えや生き方の選択肢として、国が率先して概念整理・セミナー等を実施することやそういった層特有の潜在的な課題や政策の穴がないかを確認する必要がある。

3 官民の柔軟な連携による婚活支援/ 出会いの手法の変化に対応したルールの検討

より積極的な活動環境の適正化に向けた環境整備

- 本調査において未婚者の多くは結婚に向けた活動をしていない層が半数以上を占めたが、実際に結婚している層は積極的に活動をしている層の割合が大きくなっていった。また活動できていない層は仕事等環境要因である一面がみられたことから社会インフラとしての重要性が高まっているとみられ、結婚に向けた活動のしやすくする環境整備や機運醸成が求められる。

適切な官民連携体制構築に向けた役割分担の整理

- 婚活支援に関して、近年では各都道府県が出会いサポートセンター等を立ち上げる等地方自治体での取り組みも増えてきているが、民間企業の事業領域との重なり等も見られる。官民で連携した取り組みを進めるための検討が必要。

2 非正規や低所得層を中心とした雇用・経済的な支援の強化

全世代向け就労支援の更なる拡充と所得水準の底上げ

- 若者から氷河期世代まで、幅広い世代向けの就労支援をこれまで以上に拡充すると共に、最低賃金引上げや正規・非正規格差解消による所得水準の底上げを推し進める。

結婚や結婚後の新生活に係る経済支援の拡充

- 結婚や結婚後の新生活に係る資金補助について、現在の制度は対象世帯の年齢・世帯所得等の制限が厳しい。対象の拡大や補助額の増加が求められる。

結婚インセンティブを高める税制・社会保障の検討

- 結婚や出産・子育ては相応の経済負担が生じる。結婚の経済合理性を高めるため、税制・社会保障の面からも結婚インセンティブを高める（低下させない）仕組みの検討が必要。

4 結婚意欲や婚活の実態に関する統計・データの充実

施策検討での利用を考慮した統計の作成

- 結婚意欲や婚活の実態に関する政府統計が出生動向基本調査頼りとなっており、さらにその調査の内容も経年分析のしやすさから必ずしも施策検討に利用しやすいものとなっていない。課題解決に向けたPDCAサイクルを回すため、その基礎となるデータの作成が求められる。また、出生動向基本調査は5年に1回の実施であり、昨今のような変化のスピードが速い時代に、その取得頻度が適切かどうかの検討が求められる。

民間ビッグデータ等を用いた指標作成に向けた検討

- 少子化対策を進めるうえで現在の政府統計には課題が多く見受けられる。他方、民間ビッグデータを用いたナウキャスト等の取り組みが数多く進められており、少子化分野における民間ビッグデータの活用に向けた議論が必要と考える。

6. お問い合わせ

本件に関するお問い合わせ、ご確認は下記までお願いいたします。

株式会社日本総合研究所
リサーチ・コンサルティング部門・未来社会価値研究所

今川 成樹

E-mail: imagawa.shigeki.k9@jri.co.jp

Tel: 090-3273-0093

その他担当者

菅、古内、山下、安本

株式会社
日本総合研究所

〒141-0022
東京都品川区東五反田2丁目18番1号 大崎フォレストビルディング

〒550-0001
大阪市西区土佐堀2丁目2番4号 土佐堀ダイビル

本資料の著作権は株式会社日本総合研究所に帰属します。